

病 院 年 報

令和 5 年度

ANNUAL
REPORT 2023

Japanese Red Cross Fukushima Hospital



日本赤十字社 福島赤十字病院



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

病 院 年 報

令和 5 年度

福島赤十字病院

福島赤十字病院

Japanese Red Cross Fukushima Hospital

理念

Philosophy

わたしたちは、いのちと健康、尊厳を守るため、より良い医療を目指します。

We aim at the better medical care to follow a life health and dignity

基本方針

Policy

1. 患者さま中心の医療

Patient-centered medical care

患者さまの人権と意思を尊重し、説明と同意に基づいた患者さま中心の医療に努めます

2. 良質な医療の提供

Providing quality medical care

良質な医療を提供するため、医療技術の向上および施設の充実を図ります

3. 地域医療機関との連携

Cooperation with the medical institution of the area

地域医療支援病院として、地域の医療機関と緊密な医療連携を行います

4. 救急医療の充実

Enhancement of emergency medical care

二次救急医療指定機関として、救急患者さまには24時間対応し、質の高い救急医療を行います

5. 災害時の救護活動

Disaster relief at the time of disaster

災害拠点病院として、災害時の救護活動に努め、被災者に寄り添った支援を行います

6. 原子力災害対応機能の充実

Enhancement of medical service for nuclear disaster

原子力災害拠点病院として、原子力災害に対する対応や医療活動を行います

7. 健全な経営の維持

Maintenance of the sound management

健全な経営を維持し、高度な医療の提供に努めます

患者さまの権利

福島赤十字病院は患者さまの次の権利を尊重します。

- 良質な医療を公平に受ける権利
- 個人の尊厳が守られる権利
- 医療上の個人情報(プライバシー)が守られる権利
- 診療上必要な情報を得、説明を受ける権利
- 自らの意思に基づき医療行為を選択する権利
- 他の医師等の意見(セカンドオピニオン)を求める権利

発刊にあたり



福島赤十字病院
院長 鈴木 恭一

病院年報の発刊にあたり、「医療の質」と「経営」の2つの観点で令和5年度を振り返りたいと思います。

医療の質に関しては大きく3つのイベントがありました。1つ目は、日本医療機能評価機構より当院が「急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院」と認定されました。「地域に根差して安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供するために日常的に努力している病院」と認められたことは、職員の自信と励みになりました。今後も継続的に医療の質向上に努めてまいります。

2つ目は就業管理システムを導入したことです。「医師の働き方改革」が開始されるにあたり、職員の勤務実態を正確に把握することが必要となりました。本システムの解析で、当院のすべての医師が国の規定するA水準(時間外労働が960時間以内)での勤務状況であることが確認できました。安全で良質な医療を提供するために、今後も医師を含めた職員の心身の健康に配慮したホワイトな病院を目指してまいります。

3つ目は残念なことです。当院の産科医療を10月から休止にしました。医療環境の変化により県北医療圏においても病院機能の分担が進められたことが理由です。当院は長く地域の産科医療を担ってきましたので誰もが残念な思いですが、受け入れざるを得ませんでした。婦人科診療は引き続き継続してまいります。

経営に関しては、令和5年度も厳しい1年でした。救急車の受入件数は4,000件を超え、減価償却前医業収支は黒字ですが、借入金の返済や新規医療機器購入等の支出を考えると大幅な収益増が必要です。このため4月に総合戦略会議を立ち上げました。経営と医療の質の改善を戦略的に推進することを目的とした会議です。すでに具体的な成果も出始めていますが、地域住民の皆さまや医療機関からの信頼をより一層高めることにより経営の改善を目指してまいります。

新型コロナウイルス感染症は5月8日から5類感染症になりました。行政が様々な面に関与する仕組みから、個人が自主的な取り組みを行う方針へと変更されました。当院においても、手指衛生の徹底などは継続しますが、徐々にコロナ禍前の状況に戻していく方針です。地域の皆さまも職員も、みんなの笑顔があふれる病院にしてゆきます。今後ともご協力とご支援をよろしくお願い致します。

令和7年3月

目次

福島赤十字病院 令和5年度 病院年報

I 一年の動き

1. 令和5年度の動き	1
2. 令和6年能登半島地震への対応	5
3. 災害救護訓練	7
3. 院友会	8

II 病院の概況

1. 病院の沿革	9
2. 病院概要	12
3. 組織図	17
4. 職員数	18
5. 福島赤十字病院会議及び委員会	19
6. 常備救護班編成表	20

III 統 計

1. 令和5年度実績表	23
2. 入院 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価	24
3. 外来 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価	27
4. 診療科別・行為別稼働額	30
5. 入院患者数	32
6. 新入院患者数	33
7. 外来患者数	34
8. 診療科別稼働額	35
9. 入院・外来単価(自費収益を含まない)	36
10. 手術件数(手術室)	37
11. 平均在院日数	38
12. 病床稼働率(退院を含む)	39
13. 紹介率・逆紹介率(病院全体)	39
14. 分娩件数	39
15. 診療科別救急車受入件数	40
16. 損益推移	41
17. 比較損益計算書	42

IV 活動実績

1. 内科	43
2. 消化器内科	44
3. 糖尿病・代謝内科	47
4. 循環器内科	47
5. 脳神経内科	49
6. 精神科	50
7. 小児科	50
8. 外科	51
9. 心臓血管外科	53
10. 呼吸器外科	54
11. 整形外科	55
12. 脳神経外科	56
13. 皮膚科	59
14. 形成外科	59
15. 泌尿器科	59
16. 産婦人科	60
17. 眼科	62
18. 耳鼻咽喉科	63
19. 放射線科	64
20. 麻酔科	67
21. リウマチ・膠原病内科	68
22. 病理診断科	69
23. 救急科	70
24. リハビリテーション科	71
25. 薬剤部	74
26. 医療技術部	78
27. 看護部	81
28. 検査部	105
29. 事務部[総務課、経営企画課、医療情報システム課、会計課、用度施設課、 医事課、健診課、患者サービス推進室]	107
30. 医療安全推進室	119
31. 感染管理室	120
32. 診療支援室	122
33. 地域医療連携室	123
34. 福島赤十字訪問看護ステーション	126

V 会議・委員会活動

1. 会議	129
2. 病院運営に関する委員会	141
3. 医療安全管理に関する委員会	150
4. 診療に関する委員会	156
5. 教育・研究に関する委員会	165
6. 労務および安全管理に関する委員会	166

VI 研究発表

1. 学会・研究会・研修会	169
2. 論文発表	174

I

一年の動き



1. 令和5年度の動き

令和5年度は、新型コロナウイルスの影響により多くの院内・院外のイベントが中止となった。
※令和6年1月以降の能登半島地震への対応については、「2. 令和6年能登半島地震への対応」を参照。

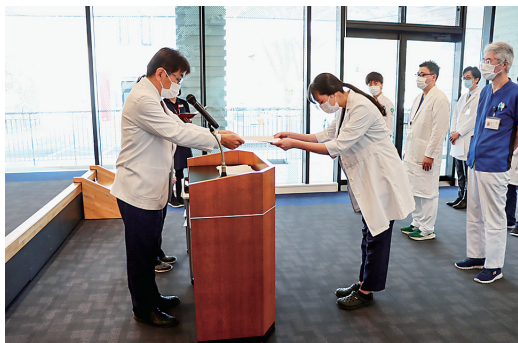
<当院の動き>

令和5(2023)年

4月

●辞令交付式[3日]

新たに40名の新規採用職員を迎えた。



辞令交付式の様子



新規採用職員

●新規採用職員オリエンテーション[3～5日]



オリエンテーションの様子



●院友会総会・新人歓迎会 → 新型コロナウイルスによる影響のため中止

5月

●看護の日イベント → 新型コロナウイルスによる影響のため中止

例年、「看護の日」と「赤十字運動月間」にあわせて、正面玄関付近をメイン会場にイベントを開催しているが、新型コロナウイルスの影響もあり、中止となった。

●ANAすずらん贈呈式[23日]



●病院広報誌『日赤通り広報版vol.59』発行[22日]





1. 令和5年度の動き

<当院の動き>

6月

- 永年勤続功労表彰[1日]

勤続30年：9名 勤続20年：7名 勤続10年：17名



- 院内消防訓練[21日]

- 病院広報誌『日赤通り院内版vol.103』発行[27日]

7月

- 日本赤十字社・庄野副本部長兼看護部長による講演会[4日]



- 経営改善説明会[21、25日]



8月

- 福島わらじまつり「ダンシングソーダナイト」 → 新型コロナウイルスによる影響のため不参加



1. 令和5年度の動き

<当院の動き>

10月

- 消防訓練[18日]

12月

- 福島日赤ボランティア会表彰状贈呈式



令和6(2024)年

1月

- 仕事始め・院長年頭挨拶[4日]



- 岡山赤十字病院 森薬剤部長 講演会[18日]





1. 令和5年度の動き

<当院の動き>

2月

- 経営改善説明会[27日]



3月

- 研修医発表会・修了式[22日]



- 辞令交付式[29日]





2. 令和6年能登半島地震への対応

令和6年1月1日(月)16時10分、石川県能登地方を震源とする、マグニチュード7.6、最大震度7の地震が発生し、津波、火災、余震等により大きな被害がもたらされました。

1月6日以降、当院は派遣要請に応じて、医療救護班等を派遣し現地支援に取組みました。

日 程	班名称	派遣者	
1月6日～ 1月10日	医療救護班 第1班	医師 看護師長 看護師 薬剤師 主事 連絡調整員	渡部 研一 鈴木 安英 三浦 愛 渡邊 義文 渡部 寿康 野地 幸次 葛岡 大輔 松本 琢也(福島県支部)
1月17日～ 1月21日	医療救護班 第2班	医師 看護師長 看護師 薬剤師 主事 連絡調整員	塚田 学 泉 弘子 高橋 健太 成澤 裕美(福島県支部) 菊地 洋平 中島 良介 三浦 有樹 野崎 謙司(福島県支部)
1月23日～ 1月27日	医療救護班 第3班	医師 看護師長 看護師 薬剤師 主事 連絡調整員	阪本 貴之 岩崎 睦子 國分 朋子 北村 慶 酒井 亮 菊田 基晴 吉田 憲治 久保 芳宏(福島県支部)
1月28日～ 1月30日	福島県災害派遣福祉チーム		菅野 直樹
2月1日～ 2月5日	医療救護班 第4班	医師 看護師長 看護師 薬剤師 主事	三浦 智広 石綿 敬 武田 里美 野地 静香 野坂 雄史 古賀 彩織 相澤 浩樹 金原 昭世 中島 良介
2月1日～ 2月6日	日本DMATロジスティック チーム		三浦 有樹
2月1日～ 2月7日	被災地病院支援看護師派遣		山口 広夢
2月3日～ 2月9日	日赤災害医療コーディネー トチーム 第1班		遠藤 豪一 鈴木 安英 久保 芳宏(福島県支部)
2月15日～ 2月19日	医療救護班 第5班	医師 看護師長 看護師 主事	菅野有紀子 稲月あかり 安達 明美 今野 暁子 渡辺みなみ 野地 幸次 出口 智美(福島県支部) 渡辺 源貴(血液センター)
2月22日～ 2月28日	こころのケア班		柳田 美穂 國分 花子 菅野 直樹 葛岡 大輔
2月27日～ 3月2日	日本災害医学会 災害医療 コーディネーションサポ ートチーム		三浦 有樹
3月7日～ 3月13日	日赤災害医療コーディネー トチーム 第2班		中村耕一郎 渡邊あゆみ 野崎 謙司(福島県支部)



医療救護班 第1班



医療救護班 第2班



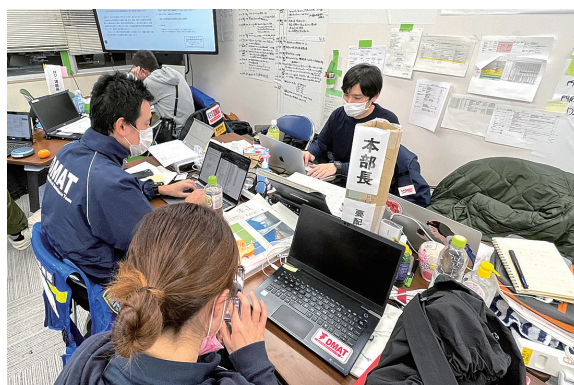
医療救護班 第4班



日赤災害医療コーディネートチーム 第1班



被災地病院支援看護師派遣



日本DMATロジスティックチーム



こころのケア班



日赤災害医療コーディネートチーム 第2班



3. 災害救護訓練

令和5年度災害救護関連訓練・研修会 参加実績

	日 程	名 称	会 場	主 催	参加者
1	5月27日(土)	福島市総合防災訓練	福島県福島市	福島市	多田 靖宏、鈴木 安英 高橋 健太、山名慎一郎 鈴木 聡史
2	5月28日(日)	阿賀野川水防演習	福島県会津若松市	会津若松市	阪本 貴之、岩崎 睦子 横山 郁美、加藤 仁義
3	7月30日(日)	原子力災害医療基礎研修	Web	福島赤十字病院	(講師) 中村耕一郎、海藤 隆紀 (スタッフ) 葛岡 大輔
4	8月19日(土)～ 8月20日(日)	全国赤十字救護班研修会	宮城県石巻市	本社、 第1ブロック支部	(受講者) 草野 亮太、清和 彩子 國分 朋子、山口 広夢 矢葺 優佳、三浦 有樹 (スタッフ) 渡邉あゆみ
5	8月26日(土)	福島県総合防災訓練	福島県郡山市	福島県	亀岡 英介、安城 和輝 石綿 敬、武田 里美 渡邊 義文、伊藤紗也加 葛岡 大輔、渡辺 大夢
6	9月18日(祝)	原子力災害医療基礎研修	Web	福島赤十字病院	(講師) 中村耕一郎、海藤 隆紀 (スタッフ) 葛岡 大輔
7	10月14日(土)	東北ブロックDMAT参集訓練	青森県	青森県	(参加者) 中村耕一郎、泉 弘子 田島 一樹、酒井 亮 (コントローラー) 葛岡 大輔
8	10月20日(金)～ 10月21日(土)	第1ブロック支部合同災害救護訓練	宮城県石巻市	第1ブロック支部	(参加者) 大須賀文彦、岩崎 睦子 渡辺みなみ、中沢 利樹 横山 剛、三浦 有樹 (CoT) 市川 剛
9	10月28日(土)	総合南東北病院災害実動訓練	福島県郡山市	総合南東北病院	佐藤 法義、鈴木 安英 梅宮 誠
10	11月18日(土)	福島県原子力防災訓練	双葉郡楡葉町	福島県	卯月 大、田中竜太郎 土田 正樹、武井 明美 野地 静香、葛岡 大輔 佐久間惟代
11	11月22日(水)	多数傷病者対応訓練	大熊IC	福島県	塚田 学、原田 瑞穂 武田 良平、野地 幸次 中島 良介
12	令和6年 1月10日(水)～ 1月12日(金)	災害派遣医療チーム研修	東京都大田区	厚生労働省	今野 友貴、北原 麻美
13	1月23日(火)	国民保護共同図上訓練	白河市	福島県	鈴木 安英、鈴木 直人 橋本 健一
14	1月26日(金)	テールゲートリフター特別教育研修	福島県支部	福島県支部	野地 幸次、濱名 正美 葛岡 大輔、三浦 有樹 中島 良介
15	2月1日(木) 2月2日(金)	東北ブロックDMAT技能維持研修	宮城県仙台市	厚生労働省	市川 剛、奈良輪弘美 鈴木 安英、武田 良平 鈴木 直人、渡部 寿康



4. 院友会

<概 要>

福島赤十字病院院友会は当院に勤務する職員及び常勤の嘱託・臨時職員を対象に、職員同士の親睦を図ることを目的としている。会長は院長、副会長は副院長、事務部長、看護部長が務め、監事は会長が任命する。その他役員は各部署から毎年1名ずつ選出され、年間を通して季節に応じたイベントを企画運営している。

イベントの他、院友会員の体育及び文化サークルの活動を通して親睦と福利厚生を推進を図ることを目的に“体育・文化サークル活動助成金”を交付している。(助成金交付対象サークル：バレーボール部、フットサル部、バスケットボール部)

<令和5年度役員>

会 長 鈴木 恭一(院長)
副会長 大和田尊之(副院長)、出羽 明子(副院長)、野田 誠(事務部長)、鈴木 佳子(看護部長)
幹 事 浅間 宏之(医局)、八巻 奈央(HCU)、小林 里奈(3)、遠藤 裕子(4F)、渡邊 陽子(5A)、
菅野 祥太(5B)、菅野 晴菜(6A)、笠原亜希菜(6B)、渡邊 政子(外来)、
大宮 文華(OP・中材)、酒井 亮(薬剤部)、阿部 里奈(検査部)、外山 歩(放射線)、
鈴木かおり(リハビリ)、村上 風太(医療技術部)、渡邊 千尋(事務部)、横山 剛(事務部)

<令和5年度活動報告>

日時	内容	場所
7月24日(月)	1年目職員紹介動画掲載	システム掲示板
12月6日(水)	院友会活動に関するアンケート	グループウェア
その他のイベントについては、新型コロナウイルスの影響により中止		

<令和5年度決算報告>

収入の部	支出の部	翌年度繰越額
130,000円(サークル助成金返金) 78円(預金利息のみ)	310,000円	6,186,343円

II

病院の概況

1. 病院の沿革

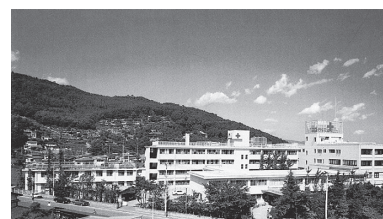
< 年 月 >	< 沿 革 >
昭和18年 8月	日本赤十字社福島支部福島療院として福島市舟場町に発足(病床数32床) 飯坂海軍病院の分院として診療が行われる <診療科目：内科、小児科、耳鼻咽喉科、理学診療科>
昭和19年 1月	20床増床(病床数52床)
4月	福島赤十字病院と改称
昭和25年10月	入院患者に対する完全給食を開始
昭和28年 2月	30床増床(病床数82床)
昭和30年 7月	20床増床(病床数102床)
昭和33年 6月	産婦人科部設置
10月	18床増床(病床数120床)
昭和34年 5月	整形外科部設置
12月	30床増床(病床数150床)
昭和37年 1月	皮膚科部、眼科部設置
2月	現在地(福島市入江町)へ新築移転 <鉄筋コンクリート造4階建、延床面積4,740㎡> (病床数200床／一般170床・結核30床) 入院患者に対する基準寝具開始
6月	秩父宮妃殿下御慰問
昭和38年 6月	総合病院の承認を受ける
9月	救急病院の指定を受ける
昭和39年 9月	福島市外3町村委託による伝染病棟50床併設(病床数250床)
昭和40年 7月	精神科・神経科部設置
昭和42年12月	東病棟増築、100床(精神)を増床(病床数350床)
昭和43年 4月	循環器科部、呼吸器科部設置
昭和44年 9月	精神病床100床のうち40床を一般病棟に変更
昭和52年 8月	エネルギーセンター棟を新設
昭和54年 5月	放射線科部設置
9月	胃腸科部、泌尿器科部設置
12月	新館棟を増築、50床増床(病床数400床)
昭和56年11月	脳神経外科部設置
昭和57年 4月	病院駐車場として国有地(福島大学跡地)を取得
昭和59年 3月	脳血管系疾患の収容病床として20床増床(病床数420床)
昭和60年 5月	麻酔科部設置
昭和61年 1月	外来診療会計コンピュータ稼働
昭和63年 7月	三笠宮寛仁親王妃殿下御慰問
平成元年 9月	病床23床増床(救急特例病床17床、CCU 6床) (病床数443床)
平成5年12月	心臓血管外科部設置
平成6年 2月	本館棟等増改築工事完了
6月	医事会計システム更新 富士通(株) HOPE/X
平成8年 4月	胃腸科部を消化器科部と名称変更
8月	結核病床30床を廃止(病床数413床)
11月	災害拠点病院の指定を受ける
平成10年10月	皇太子殿下並びに皇太子妃殿下御視察
12月	訪問看護ステーション設置
平成11年 3月	伝染病床50床を廃止(病床数363床)
4月	第二種感染症医療機関の指定を受ける(6床) (病床数369床／一般303床・精神60床・感染6床)
平成12年 4月	福島県精神科救急医療施設の指定を受ける 居宅介護支援事業所設置



昭和18年 8月 舟場町に開院



昭和37年 2月 入江町に新築移転



昭和56年11月 新館棟増築



平成6年 2月 本館棟増改築

< 年 月 >	< 沿 革 >
平成13年 4月	デイサービスセンター、在宅介護支援センター設置
9月	医事会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V1
平成14年 7月	地域医療連携室開設
平成15年 4月	呼吸器外科部設置
平成16年 3月	臨床研修病院(協力型)の指定を受ける
6月	1号館、2号館3病棟改修工事完了
10月	臨床研修病院(管理型)の指定を受ける
平成18年 3月	病理検査室設置
	精神病床10床を減床(病床数359床/一般303床・精神50床・感染6床)
6月	医療安全推進室設置
平成19年 3月	病院機能評価Ver.4.0の認定を受ける
9月	医事会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V4 オーダーリングシステム導入 富士通(株) EGMAIN-FX V2 導入オーダー:患者基本、処方、検体検査、入退院、病棟移動、給食、病名、診療予約、 検歴参照
平成20年 1月	教育研修推進室設置
4月	医療技術部設置
12月	血管造影撮影室増築
平成21年 3月	デイサービスセンター、在宅介護支援センター運営終了
4月	DPC(診断群分類別包括制度)対象病院の指定を受ける
平成22年 4月	糖尿病・代謝科部設置
平成23年 3月	東日本大震災発生 救護班延べ77個班を派遣
7月	平成23年7月新潟・福島豪雨発生 救護班1個班を派遣
9月	地域医療支援病院の認定を受ける
平成24年 3月	ホールボディカウンター及びホールボディカウンター室を設置
	病院機能評価Ver.6.0一般にて更新
4月	新病院建設準備室設置
	ホールボディカウンターによる内部被ばく検査を開始
平成25年 4月	神経内科部設置
5月	医療用画像管理システム(PACS)導入 追加オーダー:放射線
平成26年 7月	HCUを設置
9月	自動精算機/ POSレジシステム導入 医事会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V6 オーダーリングシステム更新 富士通(株) EGMAIN-GX V4 追加オーダー:細菌検査、生理検査、病理検査、内視鏡検査、注射(外来)、リハビリ
10月	診療科名称を変更(24科) 福島県認知症疾患医療センターの指定を受ける
平成27年 1月	循環器センター・末梢血管病センターを設置
3月	現病院土地との交換により新病院予定地(福島市八島町87番1・88番)取得
5月	名称から「総合病院」を削除
平成28年 4月	救急科部設置
	心療内科を廃止
	精神科病棟11床を減少(病床数348床/一般303床、精神39床、感染6床)
	熊本地震発生 救護班2個班、病院支援職員2個班、こころのケア班1個班を派遣
9月	福島赤十字病院 施設整備事業(移転新築工事)起工式
平成29年 4月	開設者を日本赤十字社福島県支部長から日本赤十字社社長に変更 原子力災害拠点病院の指定を受ける
7月	嚥下・ボイスセンター・鼻・副鼻腔センターを設置

< 年 月 >	< 沿 革 >
平成30年 6 月	病院機能評価 3rdG:Ver.1.1一般病院 2 の認定を受ける
7 月	外来診療電子カルテ運用開始
8 月	平成30年 7 月豪雨発生 こころのケア班 1 個班を派遣
9 月	平成30年北海道胆振東部地震発生
	救護班 2 個班、こころのケア班 1 個班を派遣
	福島赤十字病院 移転新築工事竣工式・定礎式
平成31年 1 月	新病院へ移転・開院(福島市八島町)
	<病院棟 鉄骨造地上 7 階建(免震構造)・塔屋 1 階、延床面積21,760.04㎡
	駐車場棟 鉄骨造地上 2 階(2 層 3 段)(耐震構造)延床面積3,092.40㎡>
	(病床数296床／一般280床・精神10床・感染症 6 床)
	神経内科部を脳神経内科部と名称変更
	血管外科・心臓外科を心臓血管外科と名称変更
	入院診療電子カルテ運用開始
	福島赤十字指定居宅介護支援事業所を廃止
平成31年/令和元年	3 月
4 月	リウマチ・膠原病内科を新設
7 月	新病院におけるドクターヘリの初受け入れ
9 月	台風19号による洪水被害への支援活動で
	DMAT(2 班)、救護班(16班)、
	こころのケア班(5 班)を派遣
令和 2 年 2 月	クルーズ船(ダイヤモンド・プリンセス号)へDMAT: 2 班 救護班: 1 班を派遣
5 月	旧病院の解体工事完了
7 月	旧病院駐車場を福島市へ売却
11 月	初となるオンラインによる行幸啓を実施
令和 3 年 3 月	病院敷地内に原子力災害時拠点施設を新築
9 月	医事会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V11
	電子カルテシステム更新 富士通(株) EGMAIN-GX V8
令和 4 年 9 月	精神科病棟を休止
令和 5 年 6 月	病院機能評価 3rdG:Ver.2.0一般病院 2 の認定を受ける
令和 6 年 1 月	能登半島地震発生 救護班 5 個班、日赤災害医療コーディネートチーム 2 個班、こころのケア班 2 個班等を派遣



平成31年 1 月 福島赤十字病院新築・移転

2. 病院概要

(令和5年3月31日現在)

(1) 施設の概要

名 称	福島赤十字病院 Japanese Red Cross Fukushima Hospital
所 在 地	〒960-8530 福島市八島町7番7号 7-7 Yasima-cho, Fukushima-city, Fukushima 960-8530 JAPAN TEL (024) 534-6101 (代表) FAX (024) 531-1721 https://www.fukushima-med-jrc.jp/
敷地面積	17,740.71㎡
延床面積	24,916.95㎡
開設年月日	昭和18年8月1日
開設者	日本赤十字社社長 大塚 義治
管理者	院長 鈴木 恭一
付帯設備	福島赤十字訪問看護ステーション Japanese Red Cross Fukushima Hospital Visiting-nurse station

(2) 診療科目 Medical Departments

内 科	糖尿病・代謝内科	呼吸器内科	循環器内科
Internal Medicine	Diabetes and Metabolism	Respiratory	Cardiology
消化器内科	精神科	小児科	外科
Gastroenterology	Psychiatry	Pediatrics	General surgery
心臓血管外科	呼吸器外科	整形外科	脳神経外科
Cardiovascular surgery	Thoracic Surgery	Orthopaedic	Neurosurgery
皮膚科	形成外科	泌尿器科	産婦人科
Dermatology	Plastic and Reconstructive Surgery	Urology	Obstetrics and Gynecology
眼 科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科
Ophthalmology	Otolaryngology	Radiology	Anesthesiology
脳神経内科	リハビリテーション科	救急科	病理診断科
Neurology	Rehabilitation Medicine	Emergency Medicine	Diagnostic Pathology
リウマチ・膠原病内科			
Rheumatology			

(全25科)

(3) 病床数

	許可病床数	稼働病床数
一 般 病 床	280床	276床
精 神 病 床	10床	0床
感 染 症 病 床	6床	6床
計	296床	282床

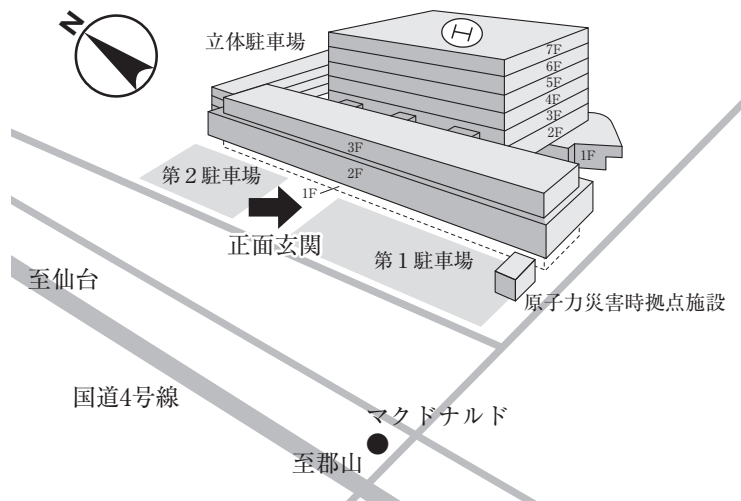
(内訳：稼働病床数)

HCU病棟 8床	3病棟 46床	4病棟 40床
5 A病棟 49床	5 B病棟 46床	6 A病棟 47床(感染症病床 6床)
6 B病棟 46床		

(内訳：部屋別)

1人部屋	2人部屋	4人部屋	計
64	1	54	124

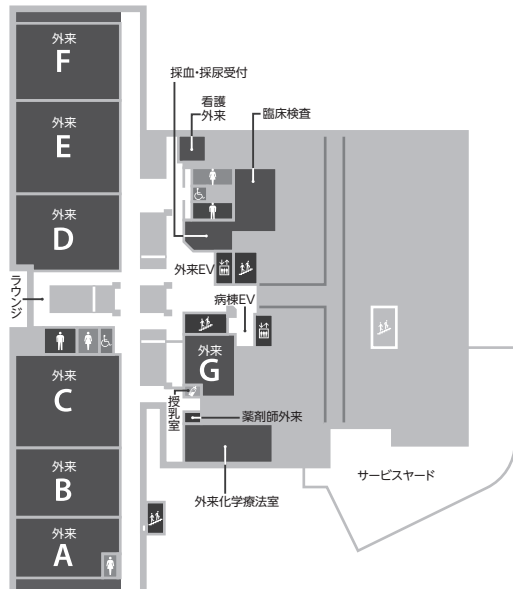
(4) 病院全体配置図



PH階	ヘリポート
7階	7病棟(精神科・10床)、総合リハビリテーション室 福島赤十字訪問看護ステーション
6階	6A病棟(47床(感染症6床)) 6B病棟(46床)
5階	5A病棟(49床) 5B病棟(脳卒中センター・46床)
4階	4病棟(レディースフロア・40床)、医局、事務・管理部門
3階	HCU病棟(HCU 8床)、3病棟(46床(救急12床))、手術室、血管造影室・IVRセンター、中央材料室、病理検査室、MEセンター
2階	外来、看護外来、薬剤師外来、外来化学療法室、臨床検査、薬剤部、用度施設課、栄養課、霊安室
1階	総合案内、総合受付、再来受付、会計、FAXコーナー、ER(救急外来)、健診センター、医療福祉相談室、地域医療連携室、入退院支援センター、多目的ホール、売店・カフェ、放射線部、内視鏡センター、生理検査、防災センター

(5) 外来配置図

2階



1階



令和5年3月現在

(6) 位置及び案内



(7) 機関指定

機関指定	
健康保険法指定医療機関	地域医療支援病院
臨床研修指定医療機関	国民健康保険法指定医療機関
生活保護法指定医療機関	結核予防法指定医療機関
更生医療指定医療機関 (整形外科・脳神経外科・耳鼻咽喉科)	身体障害者福祉法指定医療機関
原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関	戦傷病者特別援護法指定医療機関
育成医療(児童福祉法)指定医療機関	養育医療(母子保健法)指定医療機関
地方公務員災害補償法指定医療機関	労働者災害補償保険法指定医療機関
救急告示病院	国家公務員災害補償法指定医療機関
地域災害拠点病院	第二次救急指定病院
原子力災害拠点病院	福島県特定不妊治療費助成事業指定医療機関
開放型病院	第二種感染症指定医療機関

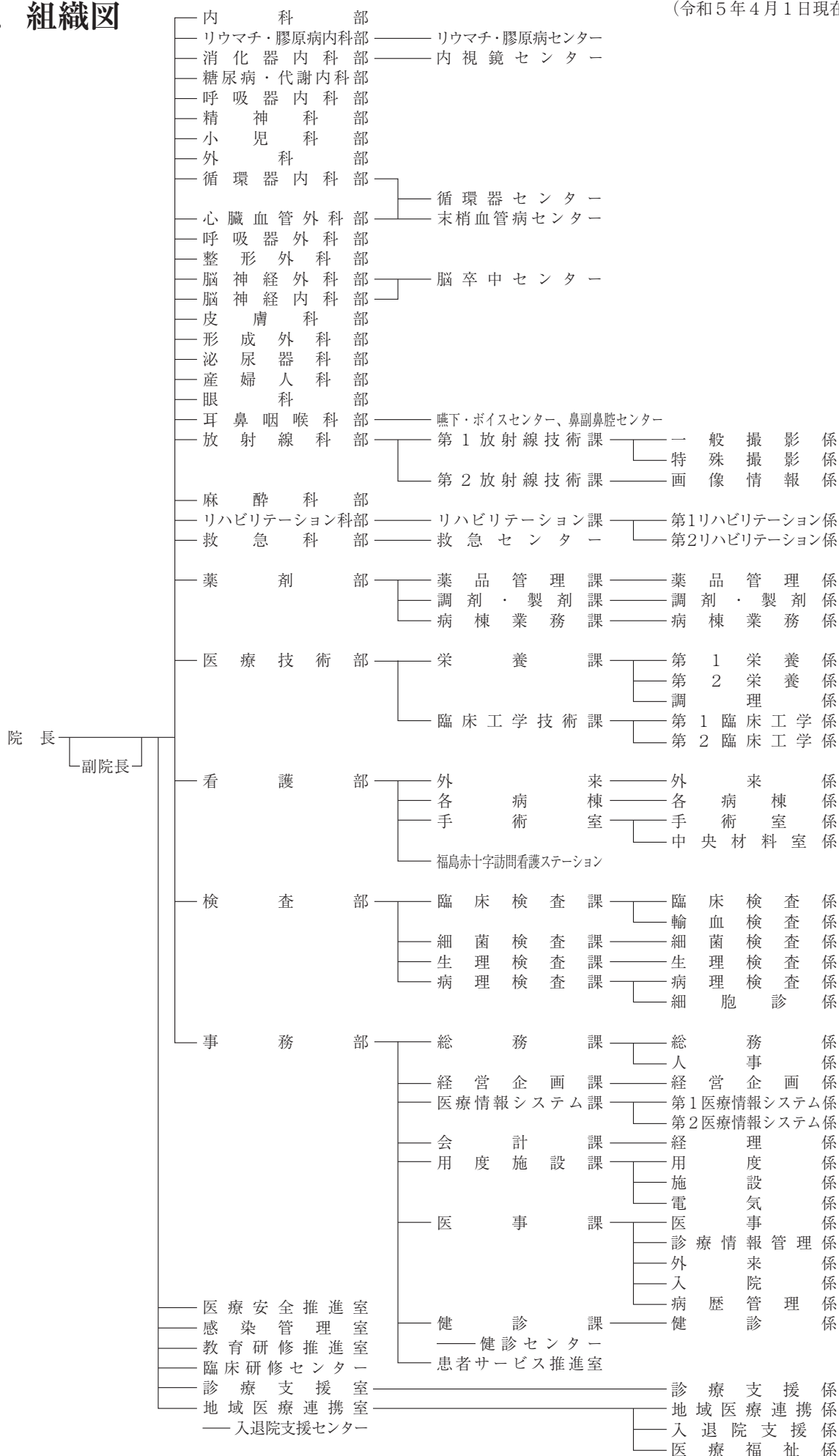
(8)施設基準の届出状況

基本診療料 特掲診療料 別	施設基準名	受理番号	算定開始 年月日
基本診療料	一般病棟入院基本料 7 対 1	(一般入院)第2432号	令和5年4月1日
	救急医療管理加算	(救急加算)第11号	令和2年4月1日
	超急性期脳卒中加算	(超急性期)第22号	令和2年4月1日
	診療録管理体制加算1	(診療録1)第53号	平成31年1月1日
	医師事務作業補助体制加算1 20対1	(事補1)第142号	令和3年7月1日
	急性期看護補助体制加算 25対1	(急性看護)第454号	令和5年4月1日
	看護職員夜間配置加算1 16対1	(看護夜配)第90号	令和5年4月1日
	重症者等療養環境特別加算	(重)第290号	平成31年1月1日
	緩和ケア診療加算	(緩和)第14号	令和3年12月1日
	栄養サポートチーム加算	(栄養チ)第79号	令和4年7月1日
	医療安全対策加算1	(医療安全1)第195号	平成31年1月1日
	感染対策向上加算1	(感染対策1)第106号	令和5年5月5月
	患者サポート体制充実加算	(患者サポ)第161号	平成31年1月1日
	重症患者初期支援充実加算	(重症初期)第2号	令和4年4月1日
	報告書管理体制加算	(報告管理)第1号	令和4年4月1日
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	(褥瘡ケア)第16号	平成31年1月1日
	呼吸ケアチーム加算	(呼吸チ)第25号	平成31年1月1日
	後発医薬品使用体制加算2	(後発使2)第76号	令和6年1月1日
	病棟薬剤業務実施加算1	(病棟薬1)第35号	平成31年1月1日
	病棟薬剤業務実施加算2	(病棟薬2)第4号	令和5年6月1日
	データ提出加算	(データ提)第117号	平成31年1月1日
	入退院支援加算	(入退支)第392号	令和5年4月1日
	認知症ケア加算	(認知)第106号	令和元年10月1日
	せん妄ハイリスク患者ケア加算	(せん妄ケア)第28号	令和2年8月1日
	地域医療体制確保加算	(地医確保)第30号	令和5年4月1日
	ハイケアユニット入院医療管理料1	(ハイケア1)第26号	令和5年4月1日
特掲診療料	外来栄養食事指導料の注2	(外栄食指)第3号	令和2年4月1日
	心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	(遠隔)第6号	令和2年4月1日
	がん性疼痛緩和指導管理料	(がん疼)第256号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料イ	(がん指イ)第114号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料ロ	(がん指ロ)第109号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料ハ	(がん指ハ)第24号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料ニ	(がん指ニ)第4号	令和2年7月1日
	外来緩和ケア管理料	(外緩)第3号	令和3年10月1日
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	(乳腺ケア)第23号	平成31年1月1日
	婦人科特定疾患治療管理料	(婦特管)第42号	令和2年4月1日
	院内トリアージ実施料	(トリ)第55号	平成31年1月1日
	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	(救搬看護)第38号	令和2年4月1日
	ニコチン依存症管理料	(ニコ)第804号	平成31年1月1日
	療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	(両立支援)第3号	令和2年12月1日
	開放型病院共同指導料	(開)第51号	平成31年1月1日
	肝炎インターフェロン治療計画料	(肝炎)第35号	平成31年1月1日
	薬剤管理指導料	(薬)第287号	平成31年1月1日
	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	(電情)第85号	平成31年1月1日
	医療機器安全管理料1	(機安1)第98号	平成31年1月1日
	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	(遠隔持陽)第26号	令和2年8月1日
	医療機器安全管理料1	(機安1)第98号	平成31年1月1日
	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	(HPV)第152号	平成31年1月1日
	検体検査管理加算(Ⅱ)	(検Ⅱ)第81号	平成31年1月1日
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	(歩行)第34号	平成31年1月1日
	ヘッドアップティルト試験	(ヘッド)第25号	平成31年1月1日
	神経学的検査	(神経)第66号	平成31年1月1日

基本診療料 特掲診療料 別	施設基準名	受理番号	算定開始 年月日
特掲診療料	コンタクトレンズ検査料	(コン1)第377号	平成31年1月1日
	小児食物アレルギー負荷検査	(小検)第32号	平成31年1月1日
	画像診断管理加算1	(画1)第46号	平成31年1月1日
	CT撮影及びMRI撮影	(C・M)第499号	平成31年1月1日
	冠動脈CT撮影加算	(冠動C)第27号	平成31年1月1日
	心臓MRI撮影加算	(心臓M)第23号	平成31年1月1日
	BRCA 1 / 2 遺伝子検査	(BRCA)第23号	令和3年4月1日
	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物 居住者訪問看護・指導料の注2	(在看)第30号	令和2年12月1日
	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	(抗悪処方)第42号	平成31年1月1日
	外来化学療法加算1	(外化1)第146号	平成31年1月1日
	連携充実加算	(外化連)第4号	令和2年4月1日
	無菌製剤処理料	(菌)第146号	平成31年1月1日
	心大血管疾患リハビリテーション料(I)	(心I)第67号	令和元年10月1日
	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	(脳I)第364号	平成31年1月1日
	運動器リハビリテーション料(I)	(運I)第450号	平成31年1月1日
	呼吸器リハビリテーション料(I)	(呼I)第361号	平成31年1月1日
	がん患者リハビリテーション料	(がんリハ)第140号	平成31年1月1日
	レーザー機器加算	(手光機)第235号	平成31年1月1日
	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	(喉頭形成)第2号	令和2年11月1日
	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセ ンチネルリンパ節生検(併用)	(乳セ1)第39号	平成31年1月1日
	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセ ンチネルリンパ節生検(単独)	(乳セ2)第41号	平成31年1月1日
	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによ るもの)	(経特)第23号	令和2年4月1日
	経皮的中隔心筋焼灼術	(経中)第19号	平成31年1月1日
	ペースメーカー移植術及びペースメー カー交換術	(ペ)第183号	平成31年1月1日
	ペースメーカー移植術及びペースメー カー交換術(リードレスペースメーカー)	(ペリ)第11号	平成31年1月1日
	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	(大)第97号	平成31年1月1日
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	(早大腸)第30号	平成31年1月1日
	腹腔鏡下仙骨脛固定術	(腹仙骨固)第7号	平成31年1月1日
	医科点数表第2章第10部手術の通則の16 に掲げる手術	(胃瘻造)第84号	平成31年1月1日
	輸血管理料II	(輸血II)第94号	平成31年1月1日
	輸血適正使用加算	(輸適)第78号	平成31年1月1日
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	(造設前)第75号	平成31年1月1日
	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	(胃瘻造嚥)第57号	平成31年1月1日
	麻酔管理料(I)	(麻管I)第233号	平成31年1月1日
	保険医療機関間の連携による病理診断	(連携診)第15号	令和元年6月1日
	保険医療機関間の連携におけるデジタル病 理画像による術中迅速病理組織標本作製	(連組織)第6号	令和元年6月1日
	病理診断管理加算1	(病理診1)第20号	平成31年1月1日
	悪性腫瘍病理組織標本加算	(悪病組)第14号	平成31年1月1日
	二次性骨折予防継続管理料1	(二骨管1)第15号	令和4年6月1日
	二次性骨折予防継続管理料3	(二骨継3)第21号	令和4年6月1日
	下肢創傷処置管理料	(下創管)第2号	令和4年9月1日
	外来腫瘍化学療法診療料1	(外来診1)第17号	令和4年4月1日
	前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査 融合画像によるもの)	(前立腺)第4号	令和4年9月1日
	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	(内筋ボ)第1号	令和4年5月1日
	緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	(緊急固)第10号	令和5年11月1日
	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、 埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切 開によるもの)	(膀胱埋嚢)第5号	令和5年12月1日
	看護職員処遇改善評価料58	(看処遇58)第1号	令和4年10月1日
	入院時食事療養費/生活療養(I)	(食)第1020号	平成31年1月1日
	酸素の購入単価	(酸単)第14794号	令和5年4月1日

3. 組織図

(令和5年4月1日現在)



4. 職員数

(令和5年4月1日現在)

(1) 病院

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
医 師	53	38	91	60.9
研 修 医	16		16	16.0
薬 剤 師	16	1	17	16.2
診療放射線技師	15		15	15.0
臨床検査技師	22	2	24	22.7
臨床工学技士	7		7	7.0
管理栄養士	5		5	6.0
栄 養 士	7		7	6.0
理学療法士	12		12	13.0
作業療法士	4		4	4.0
言語聴覚士	4		4	4.0
視能訓練士	4		4	4.0
臨床心理士	1		1	1.0
社会福祉士	5		5	6.0
精神保健福祉士	1		1	1.0
保 健 師	6		6	6.0
助 産 師	18		18	18.0
看 護 師	262	14	276	271.2
准 看 護 師	3	2	5	4.1
事務職員	63	1	64	63.8
技 術 員	1		1	1.0
調 理 師	5		5	5.0
ボイラー技士等	0		0	0.0
看護助手	27	2	29	28.3
放射線助手		1	1	0.6
業 務 員	6		6	6.0
小 計	563	61	624	586.8

(2) 付帯事業

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
訪問看護ステーション職員	5		5	5.0
計	5	0	5	5.0

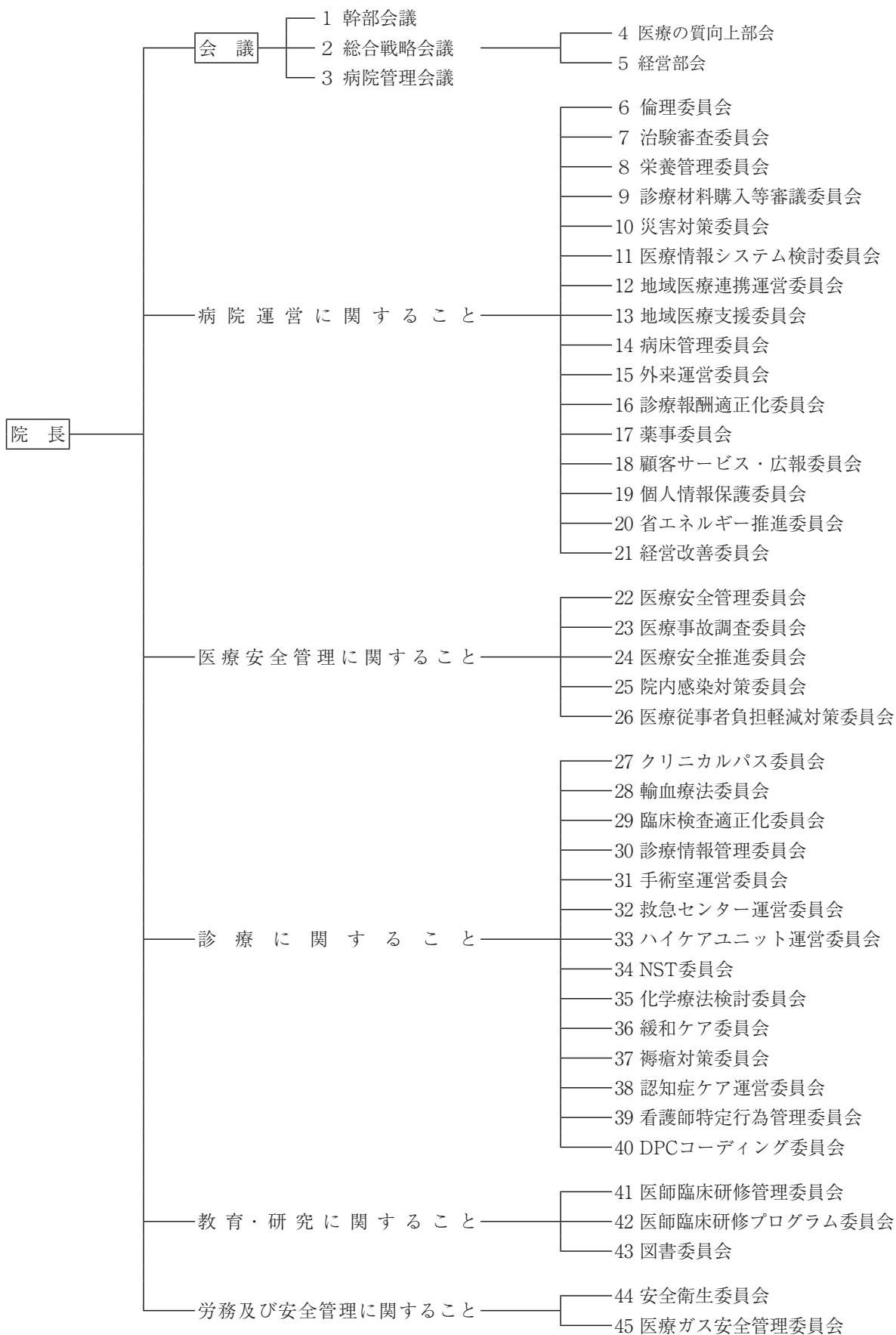
(3) 合計

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
(1) + (2)	568	61	629	608.9

5. 福島赤十字病院会議及び委員会

令和5年4月1日現在



6. 常備救護班編成表

(1)常備救護班 (令和5年4月1日現在)

	第1救護班	所属	第2救護班	所属	第3救護班	所属	第4救護班	所属
医 師	大須賀文彦	外科部	佐藤 法義	整形外科部	井上 卓哉	呼吸器外科部	浅間 宏之	消化器内科部
看護 師 長	柳田 美穂	4病棟	菅野いずみ	6B病棟	泉 弘子	手術室	鈴木 牧子	6A病棟
看護 師	田島 一樹	3病棟	渡辺みなみ	6A病棟	横山 郁美	HCU	佐藤 友里	外来
	磯松 咲乃	5B病棟	菊地悠示郎	5A病棟	野崎 美砂	3病棟	中沢 利樹	6B病棟
主 事	佐藤 隆昭	医療情報システム課	山名愼一郎	会計課	三浦 有樹	医事課	池田 久光	用度施設課
	明田 充弘	放射線科	村上 風太	臨床工学技術課	幕田 高平	検査部	相田 悦子	リハビリテーション科

	第5救護班	所属	第6救護班	所属	第7救護班	所属	第8救護班	所属
医 師	阪本 貴之	循環器内科部	菅野有紀子	消化器内科部	大原 美希	産婦人科部	多田 靖宏	耳鼻咽喉科部
看護 師 長	鈴木 安英	HCU	武井 明美	5A病棟	武田 里美	3病棟	安達 明美	外来
看護 師	三浦 愛	手術室	金子 尚代	6A病棟	玉手 智美	6B病棟	齋藤 幸恵	4病棟
	佐藤 祐子	5B病棟	森田 直子	外来	梅宮 誠	手術室	渡邊 泰昇	5A病棟
主 事	奈良輪大輔	医療情報システム課	金原 昭世	医事課	菅野 直樹	地域医療連携室	横山 剛	医療情報システム課
	小河原貴之	栄養課	三浦 義喜	検査部	佐藤 勝行	放射線科	秋元 礼智	リハビリテーション科

薬 剤 師	緑上 淳一	渡部 寿康	川村 早苗	酒井 亮	佐藤 南	井上可奈子	大竹麻衣子	寺内優紀恵
	菊池 洋平	古賀 彩織	安齋 英里	武藤 芳和	矢葺 優佳	猪股 育美		

助 産 師	赤井みゆき	橘 智寿子	齋藤 幸恵	金成 美和
-------	-------	-------	-------	-------

こころのケア 指 導 者	岩崎 睦子	看護部	武田 里美	3病棟	柳田 美穂	4病棟	佐藤 裕子	5A病棟
	高根 晴美	地域医療連携室	菅野 直樹	地域医療連携室	葛岡 大輔	総務課		

(2)統括DMAT(1人) (令和6年3月31日現在)

職種	氏名	所属	登録日
医 師	遠藤 豪一	外科	2011.07.14

(3)日本DMAT隊員(26人)

職種	氏名	所属	登録日
医 師	市川 剛	脳神経外科	2010.12.09
	渡部 研一	循環器内科	2014.02.06
	中村耕一郎	脳神経内科	2016.01.28
	今野 友貴	小児科	2024.01.13
看護 師	奈良輪弘美	医療安全推進室	2009.09.17
	泉 弘子	手術室	2011.07.14
	原田 瑞穂	3病棟	2011.07.14
	渡邊あゆみ	外来(E R)	2014.02.06
	鈴木 安英	HCU	2014.02.06
	金成 美和	4病棟	2015.01.16
	萩原 暁美	外来	2016.01.28
	梅宮 誠	外来	2016.01.28
	武田 良平	6A病棟	2019.02.28
	田島 一樹	3病棟	2019.09.27
	鈴木 直人	手術室	2019.09.27
	山口 広夢	HCU	2022.07.23
	北原 麻美	HCU	2024.01.13
業務調整員	渡部 寿康	薬剤部	2009.09.17
	久保 芳宏	支部事業推進課	2011.07.14
	橋本 健一	臨床工学技術課	2014.02.06
	野田 誠	事務部	2014.02.06
	野地 幸次	用度施設課	2016.01.28
	葛岡 大輔	会計課	2016.01.28
	野崎 謙司	支部事業推進課	2019.09.27
	松本 琢也	支部総務課	2020.01.11
	酒井 亮	薬剤部	2022.10.14

(4) 福島県DMAT隊員(8人)

職種	氏名	所属	受講年月
看護師	朝倉 恵実	5B病棟	2014.08.03
	北村 慶	感染管理室	2019.12.01
	高橋 健太	HCU	2023.11.19
業務調整員	三浦 有樹	医事課	2017.10.14
	佐藤 隆昭	医療情報システム課	2019.12.01
	渡辺 源貴	血液センター総務課	2019.12.01
	菊地 洋平	薬剤部	2023.11.19
	佐藤 竜馬	放射線科部	2023.11.19

(5) 福島県災害医療コーディネーター(4人)

職種	氏名	所属	任命日
医師	遠藤 豪一	外科	2023.04.01
	渡部 研一	循環器内科	2023.04.01
	市川 剛	脳神経外科	2023.04.01
事務職	久保 芳宏	支部事業推進課	2023.04.01

(6) 日赤災害医療コーディネーター(4人)

職種	氏名	所属	任命日
医師	遠藤 豪一	外科	2017.04.01
	渡部 研一	循環器内科	2018.04.01
	市川 剛	脳神経外科	2018.04.01
	中村耕一郎	脳神経内科	2020.04.01

(7) 日赤災害医療コーディネートスタッフ(13人)

職種	氏名	所属	任命日
看護師	安達 明美	外来	2018.04.01
	渡邊あゆみ	外来(E R)	2018.04.01
	奈良輪弘美	看護部	2020.04.01
	鈴木 安英	HCU	2020.04.01
	泉 弘子	手術室	2021.04.01
	武田 里美	3病棟	2021.04.01
事務職	久保 芳宏	支部事業推進課	2013.10.01
	野田 誠	事務部	2017.04.01
	渡部 寿康	薬剤部	2020.04.01
	野地 幸次	用度施設課	2020.04.01
	松本 琢也	支部総務課	2020.04.01
	野崎 謙司	支部事業推進課	2020.04.01
	葛岡 大輔	会計課	2021.04.01

(8) 日赤原子力災害医療アドバイザー(2人)

職種	氏名	所属	任命日
医師	中村耕一郎	脳神経内科	2019.04.01
診療放射線技師	海藤 隆紀	放射線科部	2015.10.01

(9) 原子力災害時医療中核人材研修修了者(12人)

職種	氏名	所属	修了日
医師	中村耕一郎	脳神経内科部	2017.11.10
看護師	成澤 裕美	支部事業推進課	2016.01.15
	小林 洋子	外来	2017.01.20
	岩崎 睦子	看護部	2017.07.28
	鈴木 牧子	6 A病棟	2018.08.03
	黒沢真由美	訪問看護ステーション	2018.08.03
	柳田 美穂	4 病棟	2019.08.02
診療放射線技師	清和 彩子	6 A病棟	2019.08.02
	海藤 隆紀	放射線科部	2017.07.28
	玉根 勇樹	放射線科部	2019.08.02
	明田 充弘	放射線科部	2020.10.09
事務職	葛岡 大輔	会計課	2021.08.25

(10) 原子力災害医療派遣チーム研修修了者(12人)

職種	氏名	所属	修了日
医師	市川 剛	脳神経外科部	2018.10.29
	中村耕一郎	脳神経内科部	2020.02.24
看護師	齋藤 幸恵	4 病棟	2018.10.29
	志賀 慶子	手術室	2018.10.29
	清和 彩子	6 A病棟	2021.12.12
	岩崎 睦子	看護部	2021.12.12
診療放射線技師	玉根 勇樹	放射線科部	2018.10.29
	海藤 隆紀	放射線科部	2020.02.24
	明田 充弘	放射線科部	2020.11.23
薬剤師	酒井 亮	薬剤部	2020.02.24
事務職	渡辺 源貴	血液センター総務課	2018.10.29
	葛岡 大輔	会計課	2020.11.23

III

統計

1. 令和5年度実績表

単位：人(患者延数、1日平均)、日(在院日数)、千円(診療稼働額)、円(診療単価)

	入 院			外 来			合 計
	患者延数	1日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	患者延数 1日平均 診療稼働額	
内 科	1	0.0	2.0	0	0	2,591 10.7 31,024	31,024
リウマチ・膠原病内科	3,179	8.7	17.5	168,323	52,948	6,273 25.9 125,170	293,493
消化器内科	18,047	49.3	11.1	980,147	54,311	15,315 63.3 336,148	1,316,295
糖尿病・代謝内科	831	2.3	15.3	34,889	41,984	8,944 37.0 84,844	119,732
小児科	322	0.9	3.6	17,622	54,726	3,999 16.5 37,485	55,107
外科	7,168	19.6	12.9	486,965	67,936	6,612 27.3 150,092	637,058
整形外科	13,614	37.2	18.0	921,417	67,682	10,054 41.5 69,700	991,117
脳神経外科	8,021	21.9	12.8	675,788	84,252	5,099 21.1 68,994	744,782
皮膚科	139	0.4	19.0	5,505	39,608	4,232 17.5 24,078	29,583
泌尿器科	1,580	4.3	4.7	105,523	66,787	6,693 27.7 74,337	179,861
産婦人科	2,621	7.2	5.4	252,888	96,485	6,169 25.5 66,612	319,500
眼科	1,251	3.4	1.1	123,433	98,668	6,421 26.5 50,729	174,163
耳鼻咽喉科	1,547	4.2	4.9	113,149	73,141	4,079 16.9 38,865	152,014
麻酔科	37	0.1	4.3	2,166	58,540	955 3.9 2,363	4,529
精神科	0	0.0	0.0	0	—	1,645 6.8 7,869	7,869
心臓血管外科	983	2.7	7.5	120,325	122,406	2,116 8.7 18,689	139,014
循環器内科	13,336	36.4	14.1	912,435	68,419	14,974 61.9 156,979	1,069,414
形成外科	166	0.5	6.3	12,168	73,301	2,595 10.7 36,625	48,793
脳神経内科	5,330	14.6	15.9	279,486	52,436	6,246 25.8 61,042	340,529
放射線科	0	0.0	0.0	0	0	15 0.1 413	413
呼吸器外科	4,608	12.6	14.1	341,620	74,136	5,033 20.8 168,816	510,436
救急科	1	0.0	0.0	0	0	571 2.4 16,668	16,668
合 計	82,782	226.2	11.2	5,553,851	67,090	120,631 498.5 1,627,544	7,181,394

2. 入院 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価

(1)入院患者数

(単位：人)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
リウマチ・膠原病内科	3,179	189	225	225	303	412	349	366	284	235	183	188	220
消化器内科	18,047	1,409	1,371	1,297	1,506	1,662	1,842	1,255	1,378	1,594	1,470	1,689	1,574
糖尿病・代謝内科	831	54	52	45	84	116	103	94	92	44	77	38	32
小 児 科	322	26	26	45	52	39	22	42	31	13	0	9	17
外 科	7,168	703	538	591	490	567	639	484	501	673	650	667	665
整形外科	13,614	1,139	1,084	1,172	1,017	915	853	1,104	942	1,255	1,400	1,486	1,247
脳神経外科	8,021	538	597	585	484	560	674	532	666	828	982	824	751
皮膚科	139	12	6	9	4	59	21	0	0	0	0	16	12
泌尿器科	1,580	60	103	108	173	155	126	177	142	112	133	149	142
産婦人科	2,621	367	330	369	214	235	193	205	130	137	152	127	162
眼科	1,251	104	112	120	109	91	94	128	127	92	96	99	79
耳鼻咽喉科	1,547	99	109	135	173	116	157	117	68	118	152	141	162
麻酔科	37	0	0	12	0	0	0	0	0	3	1	8	13
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	983	97	85	87	61	148	77	88	111	88	68	42	31
循環器内科	13,336	1,076	931	957	1,034	1,062	824	822	1,109	1,433	1,383	1,341	1,364
形成外科	166	13	6	3	8	6	6	3	16	7	9	10	79
脳神経内科	5,330	294	296	347	341	568	502	494	548	511	560	448	421
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器外科	4,608	365	383	483	379	311	328	390	315	470	334	371	479
救急科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合 計	82,782	6,545	6,254	6,590	6,433	7,022	6,810	6,301	6,460	7,613	7,650	7,653	7,451
1 日 平 均	226.2	218.2	201.7	219.7	207.5	226.5	227.0	203.3	215.3	245.6	246.8	263.9	240.4

(2)入院稼働額

(単位：千円)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リウマチ・膠原病内科	168,323	11,075	12,381	10,740	15,646	23,573	18,217	17,851	15,932	12,536	9,503	8,808	12,060
消化器内科	980,147	79,899	74,201	69,039	79,875	91,710	99,681	71,548	74,037	87,362	83,035	86,713	83,047
糖尿病・代謝内科	34,889	2,115	2,140	1,710	3,446	4,765	4,608	4,085	3,524	1,895	3,892	1,477	1,232
小児科	17,622	1,470	1,465	2,674	2,753	1,928	1,499	2,149	1,627	757	0	585	714
外科	486,965	47,285	38,515	42,738	34,864	37,320	44,267	30,187	40,397	43,715	41,991	41,755	43,930
整形外科	921,417	75,957	67,105	82,030	69,558	70,108	62,831	89,179	67,666	79,839	91,103	85,790	80,250
脳神経外科	675,788	43,327	47,087	56,432	46,693	51,697	51,181	44,994	63,978	70,311	82,201	55,051	62,836
皮膚科	5,505	513	279	283	200	2,217	806	0	0	0	0	666	540
泌尿器科	105,523	4,101	6,262	7,144	9,829	11,270	8,520	12,148	9,430	7,510	9,908	10,878	8,525
産婦人科	252,888	31,514	27,637	36,181	19,262	23,172	20,197	20,112	12,386	12,300	17,238	13,807	19,082
眼科	123,433	10,695	11,473	11,428	11,006	8,927	9,207	12,548	12,580	9,105	9,727	8,819	7,917
耳鼻咽喉科	113,149	6,783	8,063	8,929	11,677	8,489	13,055	10,075	5,050	7,800	11,369	10,225	11,635
麻酔科	2,166	0	0	598	0	0	0	0	0	346	130	597	495
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	120,325	11,924	9,754	10,706	8,208	16,304	7,062	9,470	12,794	12,622	6,426	10,144	4,909
循環器内科	912,435	70,217	66,574	82,426	67,620	74,123	57,418	56,038	74,715	99,268	87,458	85,703	90,876
形成外科	12,168	1,119	512	105	675	783	410	163	1,745	638	899	848	4,271
脳神経内科	279,486	15,011	15,495	18,527	19,509	33,154	28,778	22,509	27,835	25,318	28,587	23,852	20,912
呼吸器外科	341,620	29,151	29,265	33,842	28,675	24,709	24,241	29,499	24,245	31,959	27,650	26,320	32,064
合計	5,553,851	442,156	418,208	475,532	429,497	484,251	451,977	432,555	447,940	503,280	511,118	472,038	485,297

(3) 入院単価

(単位：円)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リウマチ・膠原病内科	52,948	58,596	55,029	47,733	51,638	57,217	52,198	48,774	56,097	53,346	51,929	46,850	54,820
消化器内科	54,311	56,706	54,122	53,229	53,038	55,180	54,116	57,010	53,728	54,807	56,487	51,340	52,762
糖尿病・代謝内科	41,984	39,160	41,155	38,005	41,029	41,077	44,738	43,462	38,301	43,061	50,545	38,870	38,495
小 児 科	54,726	56,551	56,328	59,427	52,941	49,433	68,159	51,156	52,490	58,248	-	65,026	42,016
外 科	67,936	67,261	71,589	72,315	71,151	65,821	69,275	62,371	80,633	64,956	64,602	62,601	66,060
整形外科	67,682	66,687	61,905	69,992	68,395	76,621	73,659	80,778	71,832	63,617	65,074	57,732	64,354
脳神経外科	84,252	80,533	78,872	96,465	96,472	92,317	75,937	84,576	96,063	84,916	83,708	66,809	83,670
皮膚科	39,608	42,773	46,513	31,457	50,103	37,579	38,394	-	-	-	-	41,608	45,034
泌尿器科	66,787	68,357	60,794	66,144	56,813	72,712	67,616	68,631	66,406	67,050	74,495	73,007	60,037
産婦人科	96,485	85,870	83,749	98,051	90,009	98,604	104,648	98,107	95,274	89,780	113,408	108,715	117,793
眼 科	98,668	102,841	102,441	95,236	100,975	98,102	97,943	98,030	99,052	98,967	101,323	89,086	100,218
耳鼻咽喉科	73,141	68,514	73,972	66,139	67,499	73,181	83,153	86,107	74,264	66,101	74,797	72,516	71,818
麻 酔 科	58,540	-	-	49,823	-	-	-	-	-	115,453	129,860	74,635	38,062
精神科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
心臓血管外科	122,406	122,930	114,758	123,063	134,559	110,162	91,713	107,612	115,265	143,436	94,507	241,530	158,345
循環器内科	68,419	65,257	71,508	86,129	65,397	69,796	69,682	68,173	67,372	69,273	63,238	63,910	66,625
形成外科	73,301	86,062	85,297	34,937	84,418	130,515	68,278	54,483	109,073	91,080	99,933	84,828	54,059
脳神経内科	52,436	51,057	52,349	53,391	57,210	58,370	57,326	45,564	50,793	49,546	51,048	53,241	49,673
呼吸器外科	74,136	79,866	76,410	70,066	75,659	79,449	73,904	75,638	76,969	67,997	82,785	70,944	66,940
平 均	67,090	67,556	66,871	72,160	66,765	68,962	66,370	68,649	69,341	66,108	66,813	61,680	65,132

3. 外来 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価

(1)外来患者数

(単位：人)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	2,591	202	212	223	221	245	207	222	232	213	220	201	193
リウマチ・膠原病内科	6,273	470	536	562	523	505	521	495	574	543	513	507	524
消化器内科	15,315	1,354	1,187	1,274	1,167	1,188	1,238	1,423	1,317	1,359	1,256	1,212	1,340
糖尿病・代謝内科	8,944	800	719	751	758	796	710	752	779	714	747	678	740
小 児 科	3,999	320	292	355	358	361	276	311	492	441	277	234	282
外 科	6,612	650	543	553	550	569	535	644	578	532	514	448	496
整形外科	10,054	857	787	883	892	809	863	850	880	886	779	782	786
脳神経外科	5,099	446	400	477	401	436	457	461	415	466	348	372	420
皮膚科	4,232	376	374	372	351	373	336	334	328	336	359	340	353
泌尿器科	6,693	470	508	514	524	534	531	573	580	627	600	603	629
産婦人科	6,169	844	699	697	542	546	470	487	410	370	340	367	397
眼 科	6,421	621	540	588	540	514	517	584	559	513	501	458	486
耳鼻咽喉科	4,079	324	363	345	345	365	363	355	306	334	310	304	365
麻酔科	955	97	79	85	73	77	96	95	76	72	78	57	70
精神科	1,645	174	166	171	125	149	132	127	142	111	114	124	110
心臓血管外科	2,116	171	174	189	165	198	173	189	192	180	162	172	151
循環器内科	14,974	1,237	1,227	1,238	1,255	1,218	1,271	1,273	1,299	1,248	1,232	1,206	1,270
形成外科	2,595	245	194	245	195	185	201	238	203	225	210	219	235
脳神経内科	6,246	501	539	514	502	545	533	554	530	508	501	510	509
放射線科	15	1	2	1	1	2	1	2	2	1	0	0	2
呼吸器外科	5,033	495	411	397	380	400	399	453	430	454	430	360	424
救急科	571	28	35	39	58	61	38	42	50	51	59	47	63
合 計	120,631	10,683	9,987	10,473	9,926	10,076	9,868	10,464	10,374	10,184	9,550	9,201	9,845
1 日 平 均	498.5	534.2	525.6	476.0	496.3	458.0	493.4	498.3	518.7	509.2	502.6	484.3	492.3

(2) 外来稼働額

(単位：千円)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	31,024	2,347	2,698	2,725	2,720	2,894	2,264	3,063	2,692	2,623	2,197	2,700	2,100
リウマチ・膠原病内科	125,170	9,456	10,464	11,441	10,477	10,673	10,160	9,852	10,845	10,274	10,425	11,166	9,938
消化器内科	336,148	29,549	27,384	29,987	26,133	25,757	24,925	32,342	30,085	31,551	25,232	26,725	26,478
糖尿病・代謝内科	84,844	7,449	6,984	7,129	6,985	7,589	6,721	7,034	7,338	6,764	7,132	6,640	7,079
小児科	37,485	3,072	3,949	4,282	3,431	3,340	1,144	3,081	2,962	3,071	3,116	2,927	3,110
外科	150,092	13,366	12,449	11,421	12,418	13,352	13,752	15,202	12,632	12,327	12,680	10,858	9,635
整形外科	69,700	5,439	5,402	5,810	6,433	5,799	5,856	6,056	6,215	5,674	6,146	5,624	5,246
脳神経外科	68,994	5,705	5,354	6,186	5,328	6,169	6,564	6,157	6,088	6,006	4,581	4,964	5,892
皮膚科	24,078	1,799	2,260	2,112	1,096	2,343	2,159	2,004	1,810	2,257	2,205	2,500	1,533
泌尿器科	74,337	5,737	5,677	5,585	5,896	6,022	6,062	6,540	6,136	7,457	6,305	6,357	6,564
産婦人科	66,612	8,737	6,325	6,553	4,938	6,000	5,338	5,427	4,975	4,664	4,215	4,411	5,029
眼科	50,729	4,986	4,269	4,879	4,659	4,110	3,888	4,417	4,184	4,146	3,733	3,670	3,789
耳鼻咽喉科	38,865	2,948	3,273	2,999	3,272	3,617	3,583	3,140	3,149	3,210	2,959	3,121	3,596
麻酔科	2,363	208	174	201	176	183	264	256	175	170	205	208	144
精神科	7,869	855	819	799	567	728	660	577	646	540	545	591	542
心臓血管外科	18,689	1,547	1,601	1,674	1,269	1,773	1,383	1,705	1,694	1,717	1,490	1,479	1,356
循環器内科	156,979	12,462	12,206	12,122	12,612	12,342	13,381	14,139	13,336	12,684	13,340	13,447	14,909
形成外科	36,625	3,092	2,551	3,786	3,038	2,663	3,236	3,432	2,690	3,155	2,952	2,764	3,266
脳神経内科	61,042	4,723	6,303	3,830	5,155	5,377	6,095	7,188	3,721	3,917	3,644	7,681	3,408
放射線科	413	31	79	30	28	59	29	34	58	29	0	0	36
呼吸器外科	168,816	16,129	14,778	13,492	13,958	15,777	12,489	14,007	14,954	13,192	14,950	11,859	13,232
救急科	16,668	714	724	956	1,461	1,391	1,228	1,199	1,615	1,723	1,775	1,700	2,183
合計	1,627,544	140,352	135,721	138,000	132,048	137,957	131,183	146,851	137,999	137,152	129,826	131,391	129,065

(3)外来単価

(単位：円)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	11,974	11,618	12,726	12,221	12,307	11,813	10,940	13,796	11,604	12,314	9,988	13,432	10,882
リウマチ・膠原病内科	19,954	20,119	19,522	20,358	20,032	21,135	19,500	19,904	18,894	18,921	20,321	22,024	18,965
消化器内科	21,949	21,823	23,070	23,538	22,393	21,681	20,133	22,728	22,843	23,216	20,089	22,051	19,760
糖尿病・代謝内科	9,486	9,312	9,714	9,493	9,214	9,533	9,467	9,353	9,419	9,473	9,548	9,794	9,566
小児科	9,374	9,600	13,523	12,063	9,585	9,252	4,146	9,908	6,020	6,963	11,248	12,508	11,029
外科	22,700	20,563	22,927	20,652	22,578	23,466	25,705	23,606	21,855	23,171	24,669	24,237	19,424
整形外科	6,933	6,347	6,864	6,579	7,212	7,169	6,786	7,124	7,062	6,404	7,890	7,192	6,674
脳神経外科	13,531	12,792	13,384	12,969	13,286	14,150	14,363	13,356	14,669	12,889	13,163	13,344	14,029
皮膚科	5,689	4,783	6,043	5,677	3,121	6,282	6,425	6,000	5,519	6,719	6,143	7,353	4,343
泌尿器科	11,107	12,206	11,175	10,866	11,252	11,277	11,416	11,413	10,580	11,893	10,508	10,542	10,435
産婦人科	10,798	10,352	9,049	9,402	9,110	10,989	11,358	11,144	12,133	12,606	12,396	12,018	12,669
眼科	7,901	8,029	7,905	8,298	8,628	7,996	7,521	7,563	7,485	8,082	7,452	8,012	7,795
耳鼻咽喉科	9,528	9,099	9,016	8,691	9,484	9,908	9,870	8,844	10,290	9,611	9,544	10,266	9,852
麻酔科	2,475	2,143	2,198	2,363	2,407	2,376	2,754	2,690	2,308	2,365	2,622	3,652	2,057
精神科	4,784	4,911	4,932	4,672	4,538	4,888	5,003	4,543	4,547	4,865	4,784	4,766	4,925
心臓血管外科	8,832	9,049	9,204	8,859	7,690	8,955	7,996	9,019	8,823	9,539	9,196	8,597	8,983
循環器内科	10,483	10,074	9,947	9,792	10,049	10,133	10,528	11,107	10,266	10,164	10,828	11,150	11,739
形成外科	14,114	12,619	13,150	15,453	15,581	14,392	16,101	14,419	13,251	14,024	14,057	12,623	13,900
脳神経内科	9,773	9,428	11,693	7,452	10,270	9,866	11,435	12,974	7,020	7,711	7,274	15,061	6,696
放射線科	27,550	31,470	39,480	29,710	27,570	29,450	29,190	17,190	29,170	29,190	—	—	17,770
呼吸器外科	33,542	32,584	35,956	33,984	36,732	39,441	31,300	30,921	34,776	29,058	34,767	32,941	31,207
救急科	29,190	25,499	20,685	24,516	25,185	22,806	32,307	28,539	32,296	33,790	30,080	36,167	34,648
平均	13,492	13,138	13,590	13,177	13,303	13,692	13,294	14,034	13,302	13,467	13,594	14,280	13,110

4. 診療科別・行為別稼働額

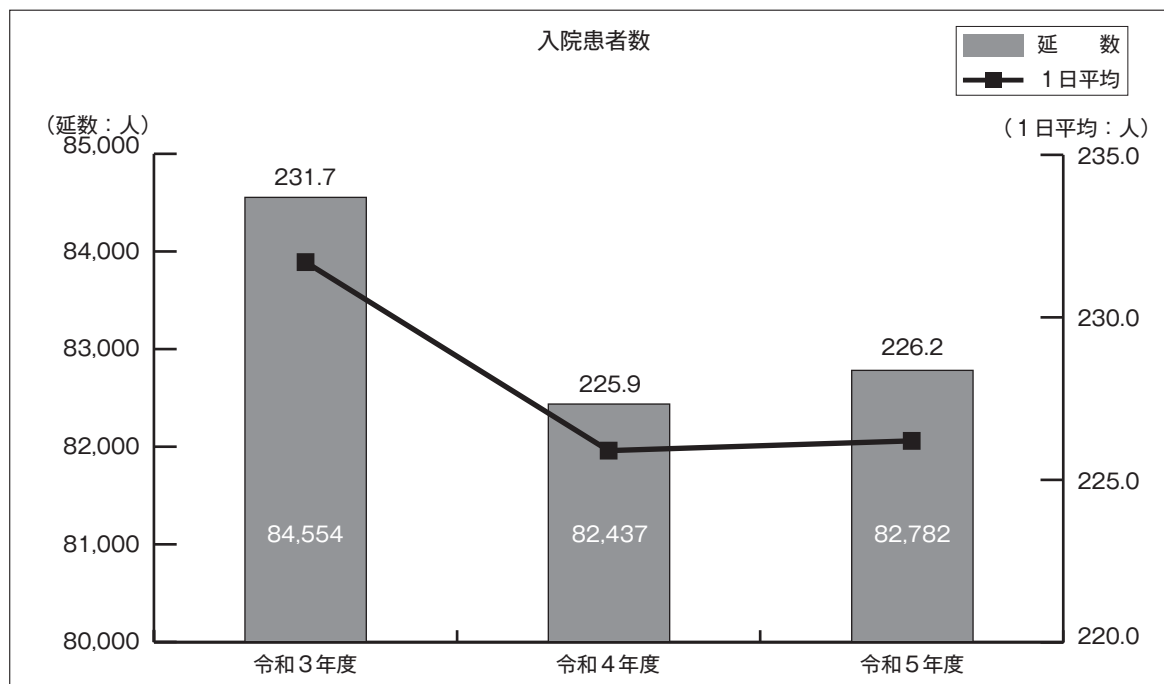
(単位：千円)

		入院料収益				入院診療収益／外来診療収益												自費収益(C)		合計 (A) + (B) + (C)
		DPC 稼働額	入院料	食事 療養費	計(A)	検査料	画像 診断料	投薬料	注射料	処置料	手術料 等	初診 再診料	医学 管理料	在宅 管理料	理学 療法料	精神 療法料	処方箋料 その他	小計(B)	室料 差額	
内科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	12,511	5,712	54	51	13	388	1,666	450	9,129	0	0	1,051	31,024	0	9,418
消化器科	入院	99,436	21,708	4,718	125,863	2,339	545	4,025	23,552	185	2,016	128	1,614	2,744	5,139	174	0	42,460	2,627	199
	外来	0	0	0	0	39,956	5,287	433	59,209	223	114	4,410	2,617	9,538	10	0	3,373	125,170	0	1,471
糖尿病科	入院	615,703	103,116	21,492	740,312	20,663	2,472	6,545	36,869	1,776	134,492	1,830	12,752	1,923	19,825	687	2	239,835	21,858	1,731
	外来	0	0	0	0	124,229	43,449	1,523	113,008	304	18,538	13,027	13,440	3,860	63	0	4,708	336,148	0	2,864
小児科	入院	26,615	3,697	1,597	31,908	337	35	181	420	19	131	22	577	505	742	12	0	2,981	544	47
	外来	0	0	0	0	38,924	807	82	30	0	0	5,841	922	32,877	0	0	5,358	84,844	0	246
外科	入院	11,126	5,123	378	16,628	286	8	20	3	8	104	174	386	0	0	4	0	994	0	13
	外来	0	0	0	0	2,627	200	14	1,342	6	0	1,053	9,715	22,013	29	0	484	37,485	0	25,443
整形外科	入院	235,648	44,558	7,670	287,876	4,950	1,058	1,572	7,047	444	170,985	486	4,851	276	7,181	241	0	199,090	8,601	627
	外来	0	0	0	0	28,169	31,105	288	64,257	275	3,741	4,691	14,168	1,328	32	0	2,038	150,092	0	1,377
脳神経外科	入院	396,487	64,922	24,389	485,799	4,059	1,013	1,759	886	2,577	372,966	1,671	12,086	121	38,000	469	12	435,618	16,254	415
	外来	0	0	0	0	9,439	25,888	293	5,496	2,195	6,134	10,055	4,308	696	1,072	0	4,124	69,700	0	4,141
皮膚科	入院	263,439	93,821	10,942	368,203	5,793	5,002	1,288	49,499	1,223	199,259	1,691	6,520	104	37,072	131	4	307,585	8,500	991
	外来	0	0	0	0	6,061	45,454	536	198	152	2,809	6,328	5,217	626	182	0	1,431	68,994	0	1,680
泌尿器科	入院	4,707	141	236	5,083	65	1	15	0	0	67	17	78	0	173	8	0	423	0	1
	外来	0	0	0	0	2,506	57	41	13,343	1,112	187	3,173	1,368	151	2	0	2,138	24,078	0	518
産婦人科	入院	44,147	17,637	1,953	63,736	11,408	47	223	219	134	27,197	53	1,539	91	860	17	0	41,787	2,505	146
	外来	0	0	0	0	19,324	18,751	61	14,766	3,425	2,139	5,281	4,521	4,018	0	0	2,053	74,337	0	684
	入院	81,638	17,645	2,624	101,907	3,091	42	564	84	866	143,190	99	2,796	169	35	46	0	150,981	7,380	1,254
	外来	0	0	0	0	34,231	17,384	37	4,024	359	550	4,115	4,792	6	0	0	1,112	66,612	0	10,534

(単位：千円)

		入院料収益				入院診療収益／外来診療収益												自費収益(C)		合計 (A)+(B) +(C)	
		DPC 稼働額	入院料	食事 療養費	計(A)	検査料	画像 診断料	投薬料	注射料	処置料	手術料 等	初診 再診料	医学 管理料	在宅 管理料	理学 療法料	精神 療法料	処方箋料 その他	小計(B)	室料 差額		文書検診 その他
眼科	入院	39,360	1,756	1,236	42,352	45	1	714	1	0	77,991	6	2,280	18	21	4	0	81,082	2,603	7	126,043
	外来	0	0	0	0	35,183	1,168	6	46	99	3,906	4,751	2,443	0	2	0	3,126	50,729	0	480	51,209
耳鼻咽喉科	入院	53,567	4,697	1,950	60,213	2,433	89	207	1,068	19	45,445	244	2,653	0	777	0	0	52,936	3,554	67	116,770
	外来	0	0	0	0	18,538	8,484	286	1,702	304	1,541	4,286	1,648	540	570	0	965	38,865	0	1,242	40,107
麻酔科	入院	1,379	531	54	1,965	49	2	15	0	0	53	14	38	0	0	28	0	201	35	1	2,202
	外来	0	0	0	0	68	95	11	12	21	744	636	226	0	5	0	546	2,363	0	50	2,413
精神科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	350	245	0	26	0	0	988	402	249	0	4,730	879	7,869	0	258	8,127
心臓血管外科	入院	37,446	7,235	1,515	46,196	321	118	321	398	881	70,363	101	750	0	865	12	0	74,129	585	107	121,017
	外来	0	0	0	0	7,479	8,051	6	10	18	0	1,767	647	69	0	0	642	18,689	0	245	18,935
循環器内科	入院	485,894	99,203	20,616	605,713	17,754	1,166	6,357	11,951	711	235,704	1,153	9,458	1,730	20,454	285	0	306,722	11,302	1,343	925,080
	外来	0	0	0	0	88,065	19,147	1,156	331	223	0	11,521	11,706	16,756	164	0	7,910	156,979	0	1,777	158,756
形成外科	入院	5,701	175	247	6,124	157	0	28	0	447	5,192	0	126	0	94	0	0	6,044	270	3	12,441
	外来	0	0	0	0	11,007	695	1,179	23	495	19,099	3,208	181	58	0	0	681	36,625	0	453	37,078
神経内科	入院	181,465	45,051	7,760	234,277	4,023	975	1,657	9,484	226	1,805	840	3,625	152	22,306	117	0	45,210	7,259	360	287,105
	外来	0	0	0	0	8,392	14,112	562	18,283	42	1,924	5,095	5,111	4,466	10	0	3,047	61,042	0	1,743	62,785
放射線科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	12	315	0	1	7	0	38	41	0	0	0	0	413	0	3,580	3,993
呼吸器外科	入院	164,507	38,457	7,562	210,526	4,985	872	1,365	15,694	663	92,463	277	4,307	1,439	8,246	181	602	131,094	5,257	458	347,335
	外来	0	0	0	0	24,477	41,520	378	78,888	69	72	3,659	12,446	5,867	192	0	1,250	168,816	0	1,025	169,841
救急科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	5,755	4,941	907	471	521	181	1,914	1,917	0	14	0	46	16,668	0	1,404	18,072
合計	入院	2,748,266	569,474	116,939	3,434,679	82,758	13,447	26,856	157,173	10,179	1,579,424	8,806	66,436	9,272	161,789	2,412	620	2,119,172	99,134	7,771	5,660,756
	外来	0	0	0	0	517,301	292,867	7,852	375,518	9,863	62,066	97,505	98,288	112,247	2,346	4,730	46,960	1,627,544	0	143,300	1,770,843

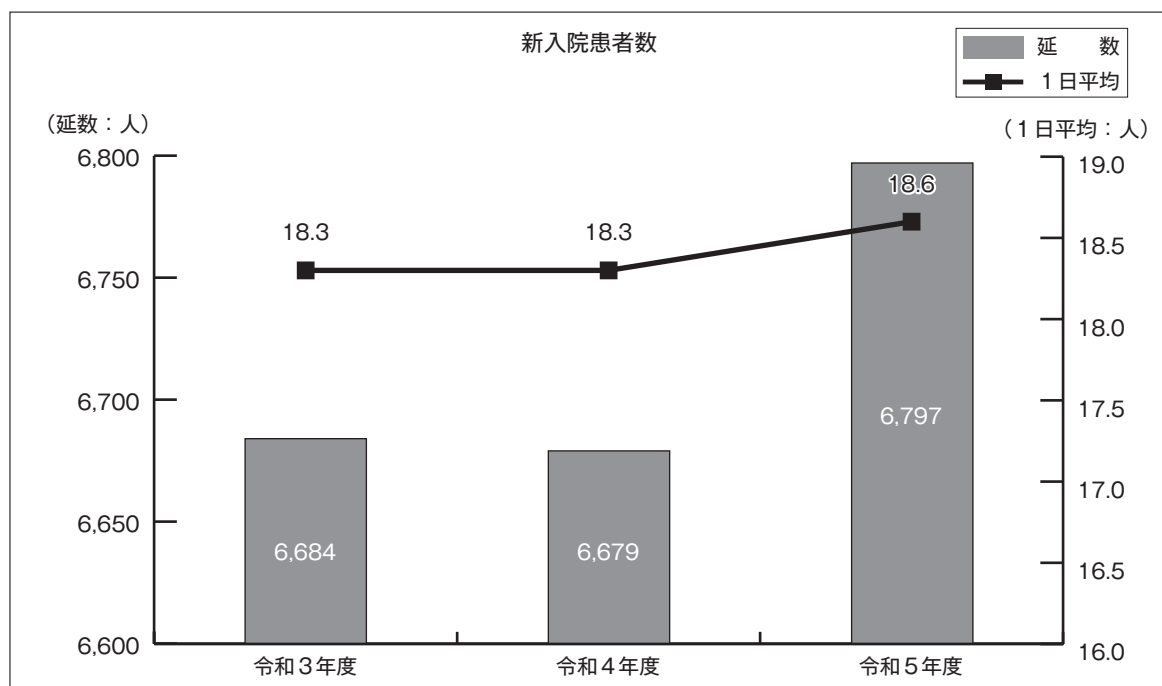
5. 入院患者数



(単位：人)

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	252	0.7	141	0.4	1	0.0
リウマチ・膠原病内科	2,652	7.3	2,980	8.2	3,179	8.7
消化器内科	15,829	43.4	15,709	43.0	18,047	49.3
糖尿病・代謝内科	1,737	4.8	1,444	4.0	831	2.3
小 児 科	224	0.6	164	0.4	322	0.9
外 科	8,488	23.3	8,023	22.0	7,168	19.6
整 形 外 科	15,716	43.1	15,007	41.1	13,614	37.2
脳神経外科	7,088	19.4	6,991	19.2	8,021	21.9
皮 膚 科	110	0.3	95	0.3	139	0.4
泌 尿 器 科	834	2.3	1,266	3.5	1,580	4.3
産 婦 人 科	5,468	15.0	5,193	14.2	2,621	7.2
眼 科	1,126	3.1	1,391	3.8	1,251	3.4
耳鼻咽喉科	1,569	4.3	1,434	3.9	1,547	4.2
麻 酔 科	20	0.1	12	0.0	37	0.1
精 神 科	1,689	4.6	530	1.5	0	0.0
心臓血管外科	1,330	3.6	1,208	3.3	983	2.7
循環器内科	10,569	29.0	11,599	31.8	13,336	36.4
形 成 外 科	204	0.6	150	0.4	166	0.5
脳神経内科	4,562	12.5	4,586	12.6	5,330	14.6
放 射 線 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
呼吸器外科	5,087	13.9	4,514	12.4	4,608	12.6
救 急 科	0	0.0	0	0.0	1	0.0
合 計	84,554	231.7	82,437	225.9	82,782	226.2

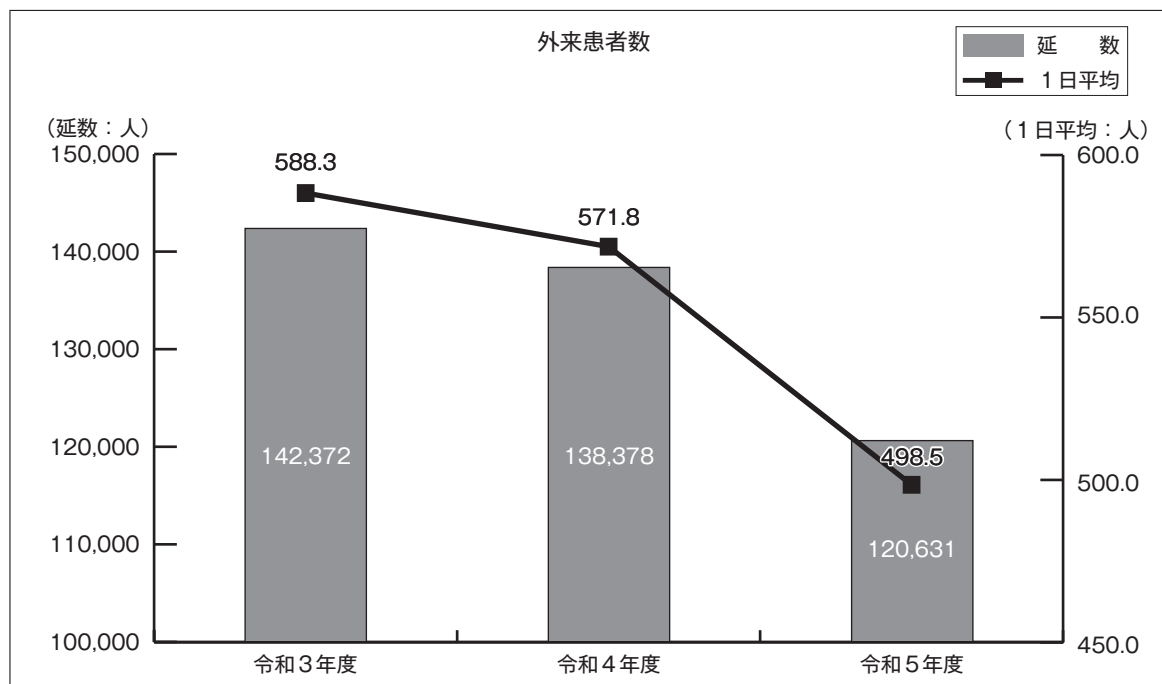
6. 新入院患者数



(単位：人)

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	16	0.0	6	0.0	1	0.0
リウマチ・膠原病内科	173	0.5	170	0.5	170	0.5
消化器内科	1,350	3.7	1,399	3.8	1,500	4.1
糖尿病・代謝内科	100	0.3	91	0.2	49	0.1
小 児 科	37	0.1	33	0.1	67	0.2
外 科	520	1.4	480	1.3	503	1.4
整 形 外 科	749	2.1	675	1.8	714	2.0
脳神経外科	552	1.5	534	1.5	586	1.6
皮 膚 科	11	0.0	6	0.0	8	0.0
泌 尿 器 科	126	0.3	207	0.6	271	0.7
産 婦 人 科	697	1.9	707	1.9	407	1.1
眼 科	537	1.5	650	1.8	591	1.6
耳鼻咽喉科	266	0.7	236	0.6	262	0.7
麻 酔 科	6	0.0	4	0.0	7	0.0
精 神 科	45	0.1	18	0.0	0	0.0
心臓血管外科	74	0.2	106	0.3	118	0.3
循環器内科	840	2.3	783	2.1	893	2.4
形 成 外 科	17	0.0	15	0.0	24	0.1
脳神経内科	263	0.7	252	0.7	322	0.9
放 射 線 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0
呼吸器外科	305	0.8	305	0.8	302	0.8
救 急 科	—	—	2.0	0.0	2.0	0.0
合 計	6,684	18.3	6,679	18.3	6,797	18.6

7. 外来患者数



(単位：人)

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	5,311	21.9	4,868	20.1	2,591	10.7
リウマチ・膠原病内科	6,421	26.5	6,293	26.0	6,273	25.9
消化器内科	16,421	67.9	16,843	69.6	15,315	63.3
糖尿病・代謝内科	9,341	38.6	9,445	39.0	8,944	37.0
小 児 科	2,404	9.9	3,375	13.9	3,999	16.5
外 科	7,795	32.2	7,118	29.4	6,612	27.3
整 形 外 科	14,009	57.9	11,210	46.3	10,054	41.5
脳神経外科	7,014	29.0	5,611	23.2	5,099	21.1
皮 膚 科	4,702	19.4	4,505	18.6	4,232	17.5
泌 尿 器 科	3,512	14.5	4,890	20.2	6,693	27.7
産 婦 人 科	10,956	45.3	10,666	44.1	6,169	25.5
眼 科	7,450	30.8	7,638	31.6	6,421	26.5
耳 鼻 咽 喉 科	4,965	20.5	4,212	17.4	4,079	16.9
麻 酔 科	734	3.0	917	3.8	955	3.9
精 神 科	8,994	37.2	6,869	28.4	1,645	6.8
心臓血管外科	1,598	6.6	2,152	8.9	2,116	8.7
循環器内科	16,725	69.1	15,914	65.8	14,974	61.9
形 成 外 科	2,564	10.6	2,790	11.5	2,595	10.7
脳神経内科	5,967	24.7	6,387	26.4	6,246	25.8
放 射 線 科	22	0.1	16	0.1	15	0.1
呼吸器外科	5,421	22.4	6,241	25.8	5,033	20.8
救 急 科	46	0.2	418	1.7	571	2.4
合 計	142,372	588.3	138,378	571.8	120,631	498.5

8. 診療科別稼働額

(単位：千円)

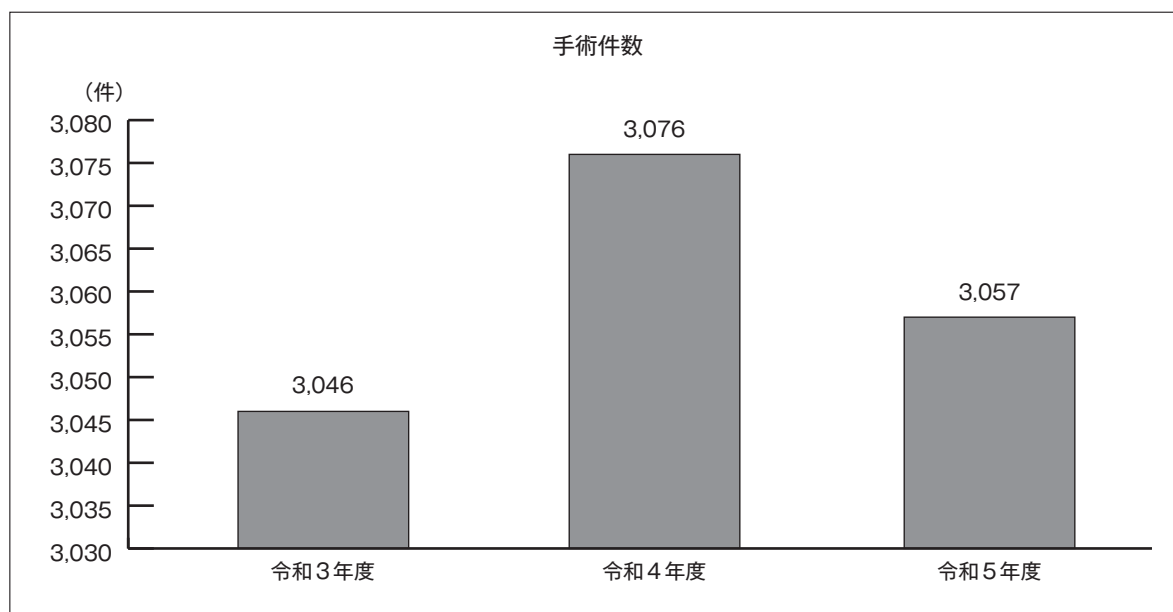
	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
内 科	10,980	70,781	81,761	5,239	62,078	67,317	0	31,024	31,024
リウマチ・膠原病内科	151,460	156,321	307,781	154,034	131,647	285,681	168,323	125,170	293,493
消化器内科	840,136	346,422	1,186,557	865,729	386,683	1,252,412	980,147	336,148	1,316,295
糖尿病・代謝内科	71,066	87,959	159,025	61,176	86,149	147,325	34,889	84,844	119,732
小 児 科	11,912	35,103	47,015	8,127	39,040	47,167	17,622	37,485	55,107
外 科	535,014	192,718	727,732	511,416	158,176	669,592	486,965	150,092	637,058
整 形 外 科	948,598	98,049	1,046,646	941,595	74,222	1,015,817	921,417	69,700	991,117
脳神経外科	537,158	88,447	625,605	502,091	73,688	575,779	675,788	68,994	744,782
皮 膚 科	4,697	19,954	24,652	3,758	24,571	28,329	5,505	24,078	29,583
泌 尿 器 科	43,406	36,590	79,996	75,092	54,542	129,634	105,523	74,337	179,861
産 婦 人 科	412,734	112,503	525,238	421,465	108,931	530,395	252,888	66,612	319,500
眼 科	110,548	56,111	166,660	136,131	59,181	195,311	123,433	50,729	174,163
耳鼻咽喉科	122,582	43,898	166,480	101,363	39,990	141,353	113,149	38,865	152,014
麻 酔 科	1,763	1,626	3,388	1,068	2,058	3,126	2,166	2,363	4,529
精 神 科	46,966	46,504	93,470	13,773	36,259	50,032	0	7,869	7,869
心臓血管外科	166,848	14,673	181,521	153,590	19,654	173,243	120,325	18,689	139,014
循環器内科	789,949	160,063	950,013	769,436	161,857	931,293	912,435	156,979	1,069,414
形 成 外 科	15,756	35,972	51,728	10,693	37,718	48,411	12,168	36,625	48,793
脳神経内科	229,103	44,805	273,907	232,231	56,430	288,661	279,486	61,042	340,529
放 射 線 科	－	796	796	－	591	591	－	413	413
呼吸器外科	363,265	219,668	582,933	350,762	221,646	572,408	341,620	168,816	510,436
救 急 科	－	1,855	1,855	－	12,543	12,543	－	16,668	16,668
合 計	5,413,940	1,870,818	7,284,757	5,318,769	1,847,652	7,166,421	5,553,851	1,627,544	7,181,394

9. 入院・外来単価(自費収益を含まない)

(単位：円)

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来
内 科	43,572	13,327	37,158	12,752	－	11,974
リウマチ・膠原病内科	57,112	24,345	51,689	20,920	52,948	19,954
消 化 器 内 科	53,076	21,096	55,110	22,958	54,311	21,949
糖 尿 病・代謝内科	40,913	9,416	42,365	9,121	41,984	9,486
小 児 科	53,178	14,602	49,554	11,567	54,726	9,374
外 科	63,032	24,723	63,744	22,222	67,936	22,700
整 形 外 科	60,359	6,999	62,744	6,621	67,682	6,933
脳 神 経 外 科	75,784	12,610	71,820	13,133	84,252	13,531
皮 膚 科	42,703	4,244	39,561	5,454	39,608	5,689
泌 尿 器 科	52,045	10,419	59,315	11,154	66,787	11,107
産 婦 人 科	75,482	10,269	81,160	10,213	96,485	10,798
眼 科	98,178	7,532	97,865	7,748	98,668	7,901
耳 鼻 咽 喉 科	78,127	8,842	70,685	9,494	73,141	9,528
麻 酔 科	88,126	2,215	89,013	2,245	58,540	2,475
精 神 科	27,807	5,171	25,988	5,279	－	4,784
心 臓 血 管 外 科	125,450	9,182	127,144	9,133	122,406	8,832
循 環 器 内 科	74,742	9,570	66,336	10,171	68,419	10,483
形 成 外 科	77,234	14,030	71,285	13,519	73,301	14,114
脳 神 経 内 科	50,220	7,509	50,639	8,835	52,436	9,773
放 射 線 科	－	36,193	－	36,951	－	27,550
呼 吸 器 外 科	71,410	40,522	77,705	35,514	74,136	33,542
救 急 科	－	40,325	－	30,008	－	29,190
合 計	64,029	13,140	64,519	13,352	67,090	13,492

10. 手術件数(手術室)



(単位：件)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
消化器内科	5	4	7
外科	442	410	399
呼吸器外科	116	110	97
整形外科	662	634	615
脳神経外科	102	81	128
産婦人科	372	385	291
心臓血管外科	47	64	66
耳鼻咽喉科	156	131	141
形成外科	474	481	546
泌尿器科	30	112	169
眼科	534	653	590
精神科	101	3	0
麻酔科	5	6	8
救急科	0	2	0
合計	3,046	3,076	3,057

11. 平均在院日数

(単位：日)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
内 科	14.8	22.5	2.0
リウマチ・膠原病内科	13.5	16.6	17.5
消 化 器 内 科	10.9	10.4	11.1
糖尿病・代謝内科	16.6	14.8	15.3
小 児 科	5.0	3.9	3.6
外 科	14.9	15.3	12.9
整 形 外 科	20.2	20.8	18.0
脳 神 経 外 科	11.9	12.3	12.8
皮 膚 科	9.5	12.4	19.0
泌 尿 器 科	5.6	4.9	4.7
産 婦 人 科	6.9	6.3	5.4
眼 科	1.1	1.1	1.1
耳 鼻 咽 喉 科	5.0	5.0	4.9
麻 酔 科	3.2	2.0	4.3
精 神 科	32.0	23.5	—
心 臓 血 管 外 科	16.7	10.6	7.5
循 環 器 内 科	11.7	13.9	14.1
形 成 外 科	10.3	9.4	6.3
脳 神 経 内 科	16.4	17.0	15.9
放 射 線 科	—	—	—
呼 吸 器 外 科	15.6	13.9	14.1
救 急 科	—	—	—
平 均	11.7	11.3	11.2

12. 病床稼働率(退院を含む)

(単位：床、%)

	稼働病床数	令和3年度	令和4年度
3 A 病棟 (HCU含む)	20	72.6%	72.5%
3 B 病棟	34	97.4%	96.6%
4 階 病 棟	40	84.9%	80.1%
5 A 病 棟	49	96.4%	93.6%
5 B 病 棟	46	93.6%	91.5%
6 A 病 棟	47	16.0%	27.6%
6 B 病 棟	46	99.6%	93.7%
7 階 病 棟 (精神病棟)	10	64.0%	58.4%
合 計	292	79.3%	77.3%

	稼働病床数	令和5年度
H C U 病 棟	8	64.9%
3 階 病 棟	46	82.8%
4 階 病 棟	40	77.9%
5 A 病 棟	49	87.1%
5 B 病 棟	46	88.9%
6 A 病 棟	47	56.3%
6 B 病 棟	46	90.7%
合 計	282	80.2%

※令和4年9月より7階病棟(精神病棟)閉鎖

※令和5年4月より3A病棟の一般病床(12床)と3B病棟(34床)を統合

13. 紹介率・逆紹介率(病院全体)

(単位：%)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
紹 介 率	92.5	102.6	117.8
逆 紹 介 率	101.8	123.6	132.0

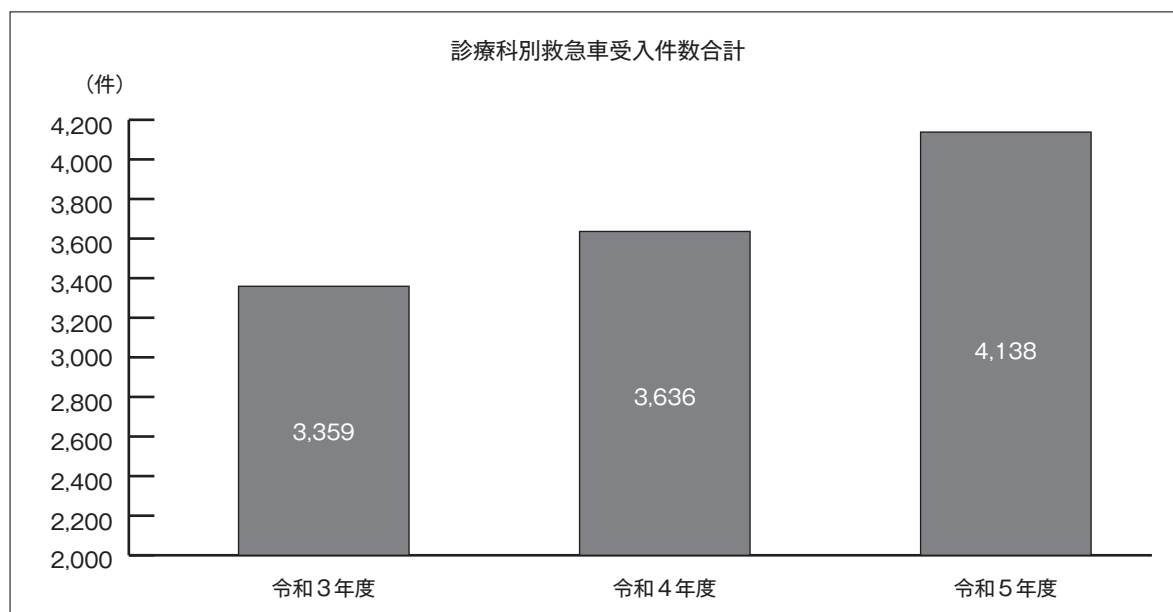
14. 分娩件数

(単位：件)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
自 然 分 娩	140	133	43
帝 王 切 開	37	39	15
合 計	177	172	58

※令和5年度で当院の産科診療は一時休診

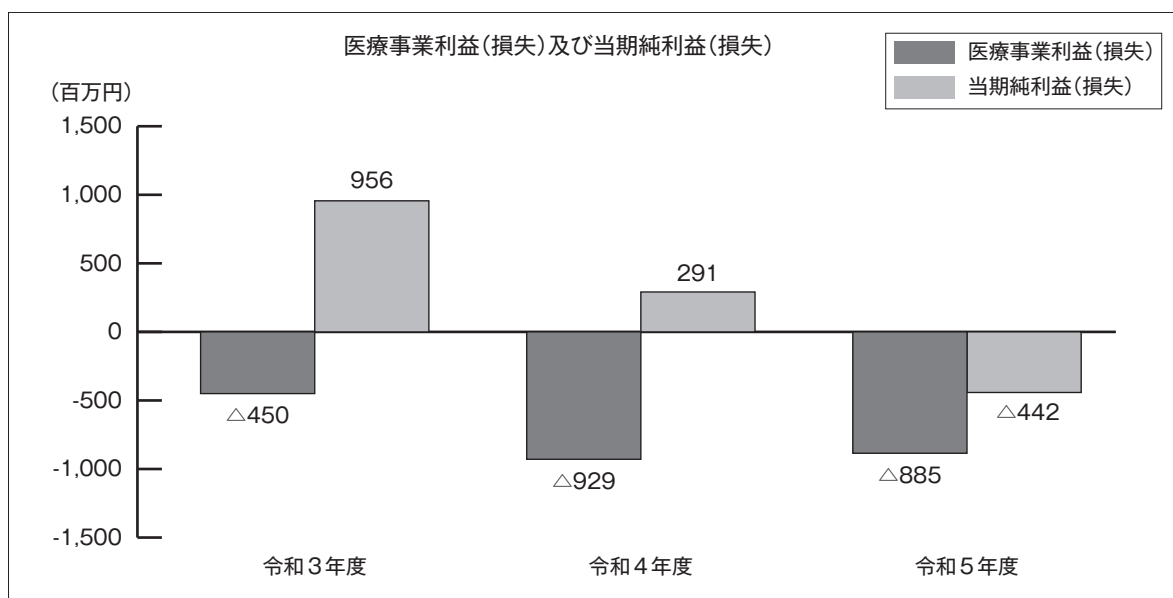
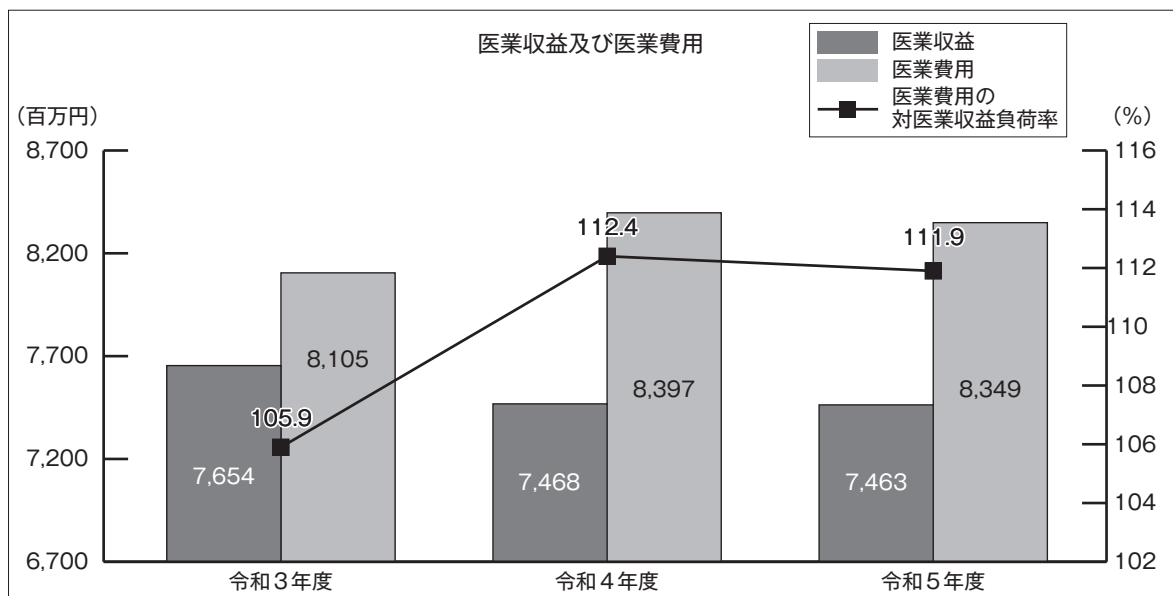
15. 診療科別救急車受入件数



(単位：件)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
内 科	209	14	3
リウマチ・膠原病内科	56	79	51
消 化 器 内 科	467	546	701
糖尿病・代謝内科	33	50	13
小 児 科	14	35	39
外 科	112	118	193
整 形 外 科	618	535	584
脳 神 経 外 科	784	739	826
皮 膚 科	16	16	12
泌 尿 器 科	47	65	82
産 婦 人 科	30	26	11
眼 科	2	1	1
耳 鼻 咽 喉 科	78	109	74
麻 酔 科	7	5	5
精 神 科	38	26	12
心 臓 血 管 外 科	31	29	27
循 環 器 内 科	497	583	624
形 成 外 科	0	1	3
脳 神 経 内 科	241	296	342
呼 吸 器 外 科	61	63	84
放 射 線 科	0	0	1
救 急 科	46	332	473
合 計	3,359	3,636	4,138

16. 損益推移



(単位：円、%)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
医業収益	7,654,434,628	7,468,059,967	7,463,300,264
医業費用	8,105,358,024	8,397,367,990	8,349,250,710
医業事業利益(損失)	△ 450,923,396	△ 929,308,023	△ 885,950,446
医業費用の対医業収益負荷率	105.9	112.4	111.9
医業外利益(損失)	1,492,314,037	1,324,817,292	577,695,286
医療社会利益(損失)	△ 85,895,262	△ 88,809,153	△ 137,657,217
付帯事業利益(損失)	5,831,616	△ 5,467,140	△ 5,401,572
特別利益(損失)	△ 5,939,156	△ 9,415,833	8,838,843
法人税等	△ 877,243	0	0
当期純利益(損失)	956,265,082	291,817,143	△ 442,475,106

17. 比較損益計算書

(単位：円)

	令和4年度	令和5年度	(4年度～5年度)	
			前年比	増減率
医療事業損益計算				
医療収益	7,468,059,967	7,463,300,264	△ 4,759,703	-0.1%
入院診療収益	5,323,770,381	5,563,989,769	240,219,388	4.5%
室料差額収益	109,604,000	107,547,200	△ 2,056,800	-1.9%
外来診療収益	1,852,152,356	1,631,323,429	△ 220,828,927	-11.9%
保険予防活動収益	143,276,512	134,841,491	△ 8,435,021	-5.9%
受託検査・施設利用収益	3,840,551	3,835,975	△ 4,576	-0.1%
その他の医療収益	45,119,487	37,444,032	△ 7,675,455	-17.0%
保険等査定減	△ 9,703,320	△ 15,681,632	△ 5,978,312	-
医療費用	8,397,367,990	8,349,250,710	△ 48,117,280	-0.6%
材 料 費	2,031,927,873	2,038,768,856	6,840,983	0.3%
給 与 費	4,181,845,738	4,188,102,004	6,256,266	0.1%
委 託 費	582,411,825	598,245,255	15,833,430	2.7%
設備関係費	1,241,949,133	1,179,761,753	△ 62,187,380	-5.0%
研究研修費	34,312,670	43,109,851	8,797,181	25.6%
経 費	324,920,751	301,262,991	△ 23,657,760	-7.3%
医療事業利益(損失)	△ 929,308,023	△ 885,950,446	43,357,577	-
事業損益計算				
医療外収益	1,360,009,934	611,964,960	△ 748,044,974	-55.0%
医療外費用	35,192,642	34,269,674	△ 922,968	-2.6%
医療外利益(損失)	1,324,817,292	577,695,286	△ 747,122,006	-56.4%
医療社会事業収益	1,654,176	1,654,176	0	0.0%
医療奉仕費用	90,463,329	139,311,393	48,848,064	54.0%
医療社会事業利益(損失)	△ 88,809,153	△ 137,657,217	△ 48,848,064	-
事業利益(損失)	306,700,116	△ 445,912,377	△ 752,612,493	-245.4%
経常損益計算				
付帯事業収益	37,938,871	39,333,048	1,394,177	3.7%
付帯事業費用	43,406,011	44,734,620	1,328,609	3.1%
付帯事業利益(損失)	△ 5,467,140	△ 5,401,572	65,568	-
経常利益(損失)	301,232,976	△ 451,313,949	△ 752,546,925	-249.8%
当期純損益計算				
特別利益	125,727	10,422,560	10,296,833	8189.8%
特別損失	9,541,560	1,583,717	△ 7,957,843	-83.4%
特別利益(損失)	△ 9,415,833	8,838,843	18,254,676	-
税引前当期純利益(損失)	291,817,143	△ 442,475,106	△ 734,292,249	-251.6%
法人税等	0	0	0	-
当期純利益(損失)	291,817,143	△ 442,475,106	△ 734,292,249	-251.6%
前期繰越利益(損失)	△ 3,290,813,366	△ 2,998,996,223	291,817,143	-
当期未処分利益(未処理損失)	△ 2,998,996,223	△ 3,441,471,329	△ 442,475,106	-

IV

活動実績

1. 内科	43	18. 耳鼻咽喉科	63
2. 消化器内科	44	19. 放射線科	64
3. 糖尿病・代謝内科	47	20. 麻酔科	67
4. 循環器内科	47	21. リウマチ・膠原病内科	68
5. 脳神経内科	49	22. 病理診断科	69
6. 精神科	50	23. 救急科	70
7. 小児科	50	24. リハビリテーション科	71
8. 外科	51	25. 薬剤部	74
9. 心臓血管外科	53	26. 医療技術部	78
10. 呼吸器外科	54	27. 看護部	81
11. 整形外科	55	28. 検査部	105
12. 脳神経外科	56	29. 事務部	107
13. 皮膚科	59	30. 医療安全推進室	119
14. 形成外科	59	31. 感染管理室	120
15. 泌尿器科	59	32. 診療支援室	122
16. 産婦人科	60	33. 地域医療連携室	123
17. 眼科	62	34. 福島赤十字訪問看護ステーション	126



1. 内科

【医師】 宮田 昌之(リウマチ・膠原病センター長)

■ 専門

リウマチ、膠原病、アレルギー疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

アメリカ内科学会 専門医

日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医

日本リウマチ学会 専門医 指導医

日本アレルギー学会 専門医 指導医

日本消化器病学会 専門医

日本肝臓学会 専門医

福島県立医科大学臨床教授

診療情報管理士

【医師】 松岡 直紀

■ 専門

リウマチ膠原病

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器病学会 消化器病専門医

日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医

日本リウマチ学会 リウマチ専門医

【外部医】 田中 健一

■ 専門

腎臓病・透析

■ 資格・所属学会等

日本腎臓学会 専門医・指導医

日本透析医学会 専門医・指導医

日本高血圧学会 専門医・指導医

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

<内科について>

・ 総合内科

高齢者の増加に伴い一人でいくつもの病気を抱えている患者が増加しております。それぞれの臓器別専門分野のエキスパートと連携し、総合的に内科診療を行ってまいります。どの診療科に行ったらよいのかわからない場合や、どの診療科で受診しても診断がつかないような場合に受診してください。

・ 一般内科

高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病や喘息、アレルギー疾患の診療をいたします。

・ 呼吸器内科

気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺癌、縦隔腫瘍、胸腺疾患などの呼吸器疾患に対して診断・治療をいたします。

・腎臓内科

腎炎、ネフローゼ、糖尿病・膠原病などによる腎疾患、末期の腎不全に対して診断・治療をいたします。

2. 消化器内科

【主任部長】 黒田 聖仁

■ 専門

肝炎、肝臓がん

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

日本肝臓学会 指導医

日本消化器病学会 指導医

日本消化器内視鏡学会 専門医

福島県立医科大学臨床教授・客員講師

【部長】 児玉 健太(兼 内視鏡センター長)

■ 専門

消化器病

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医

日本消化管学会 胃腸科専門医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

日本大腸検査学会評議員

【部長】 菅野有紀子

■ 専門

肝科、消化器科、肝臓疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医 指導医 評議員

日本消化器内視鏡学会 専門医

日本肝臓学会 専門医・指導医

日本リウマチ学会 専門医 指導医

日本門脈圧亢進症学会

【副部長】 紺野 直紀

■ 専門

消化器内科(特に胆・膵疾患)

■ 資格・所属学会等

日本膵臓学会 指導医、日本胆道学会

日本門脈圧亢進症学会

日本臨床腫瘍学会

日本内科学会 総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本肝臓学会 専門医

【副 部 長】 浅間 宏之

■ 専門

消化器内科一般
胆膵疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医
日本消化器病学会 専門医
日本肝臓学会 専門医
日本消化器内視鏡学会
日本臨床腫瘍学会
日本膵臓学会
日本門脈圧亢進症学会
日本胆道学会

【医 師】 入江 大樹

■ 専門

消化器全般
特に胆膵疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定医
JMECC インストラクター
日本消化器病学会 専門医
日本消化器内視鏡学会 専門医
日本肝臓学会
日本胆道学会
日本膵臓学会
日本門脈圧亢進症学会

【医 師】 亀岡 英介

■ 専門

消化器内科

■ 資格・所属学会等

日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会
日本内科学会

【外 部 医】 引地 拓人

■ 専門

消化器内視鏡の診断・治療

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医 指導医
日本消化器病学会 専門医 指導医
日本消化管学会 胃腸科認定医 胃腸科専門医 胃腸科指導医
日本カプセル内視鏡学会 専門医 指導医

日本肝臓学会 専門医
 日本ヘリコバクター学会 H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医
 日本門脈圧亢進症学会 技術認定医(内視鏡治療)
 日本高齢消化器病学会
 日本消化器がん検診学会
 日本胃癌学会
 日本膵臓学会
 PEG・在宅医療学会
 福島医学会
 America Society of Gastrointestinal Endoscopy (ASGE) 国際会員

【外 部 医】 中村 純

■ 専門

消化管癌の内視鏡診断・治療
 食道アカシアの診断・治療

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医
 日本消化器内視鏡学会 専門医・支部評議員
 日本消化器病学会 専門医・支部評議員
 日本消化管学会 胃腸科専門医
 日本ヘリコバクター学会 H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医
 日本門脈圧亢進症学会
 日本胃癌学会
 日本がん検診学会

<令和5年度活動実績>

当科は消化管(食道、胃、十二指腸、大腸)、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓疾患の診断、治療を行っている。コロナ禍で検査件数の減少がみられたが、低侵襲で安全な内視鏡検査、治療を心掛けており、食道、胃、大腸のESD(粘膜下剥離術)治療やEMR(粘膜切除術)の施行件数も年々増加している。吐血や下血に対する止血処置や総胆管結石へのEST(内視鏡的乳頭切開術)、閉塞性黄疸への内視鏡的ドレナージ、大腸癌によるイレウスへのステント留置等を緊急で施行できる体制を整えている。また、病理部の協力を得ながら、主に膵腫瘍の組織診断を目的に超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)を開始している。肝疾患専門医療機関であり、ウイルス性肝炎や自己免疫性肝疾患の治療の他、肝細胞癌には年間約50例にラジオ波焼灼療法、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的治療薬による治療、肝動脈塞栓療法を施行。また難治性腹水には腹水濃縮再注入療法を行っている。

上部消化管内視鏡検査	3,143件
下部内視鏡検査	683件
上部内視鏡粘膜切除術・ESD	43件
下部内視鏡粘膜切除術・ESD	622件
内視鏡的乳頭切開術	74件
内視鏡的胆道ステント留置術	116件
内視鏡的膵管ステント留置術	36件
下部消化管ステント留置術	46件
内視鏡的消化管止血術	67件
小腸結腸内視鏡的止血術	37件

<令和6年度目標>

肝胆脾、消化管領域とある程度全ての消化器領域に対応できるソフト・ハードが備わっており、救急を含め今まで以上に臨床での症例数を増やしていきたい。また、当院は健診のニーズも高いため可能な限り健診内視鏡の対応件数を上げられるようにスタッフともども業務を向上していきたい。

3. 糖尿病・代謝内科

【非常勤医師】 佐藤 義憲

■ 専門

糖尿病

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医

日本糖尿病学会 専門医・指導医

<令和5年度実績>

外来予約診療 948

入院 53

学会発表 1

論文発表 1

<令和6年度目標>

専攻医が今後着任するので、内分泌疾患の診療にも注力したい。

4. 循環器内科

【副 院 長】 大和田尊之(副院長 兼 循環器センター長)

■ 専門

循環器一般、虚血性心疾患、冠動脈疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会認定専門医・指導医

日本循環器学会認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定専門医

日本高血圧学会認定指導医

福島県立医科大学臨床教授

【部 長】 渡部 研一(循環器内科主任部長 兼 医療技術部長 兼 臨床研修センター長)

■ 専門

循環器一般、不整脈

■ 資格・所属学会等

日本内科学会認定専門医・指導医

日本循環器学会認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定医

日本不整脈学会

日本心臓病学会
日本心エコー図学会
日本DMAT隊員
日赤災害医療コーディネーター
福島県災害医療コーディネーター

【部 長】 阪本 貴之(循環器内科部長 医局長)

■ 専門

循環器一般、心血管インターベンション

■ 資格・所属学会等

日本内科学会認定専門医・指導医

日本循環器学会認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定専門医

【医 師】 芳賀 文香

■ 専門

循環器内科一般

■ 資格・所属学会等

日本内科学会

日本循環器学会

日本心血管インターベンション治療学会

日本心臓核医学会

【医 師】 草野 亮太

■ 専門

循環器内科一般

■ 資格・所属学会等

日本内科学会

日本循環器学会

日本心血管インターベンション治療学会

【外 部 医】 中里 和彦

■ 専門

循環器一般、心血管インターベンション、肺高血圧症の診断と治療

■ 資格・所属学会等

日本内科学会認定専門医・指導医

日本循環器学会認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定専門医

＜令和5年度実績＞

令和5年度も専攻医2名を含む5人の診療体制であった。コロナが5類相当になったもののまだ医療現場ではコロナに翻弄されている中、急患対応を断らない姿勢を貫き当科の救急車搬送件数や入院患者延数は増加、手術・処置件数も増加し稼働に貢献できた。また、福島県が進めている救急車12誘導伝送システムの運用に導入初期から協力し、市内で最多の伝送依頼を受けるなど救急隊からの信頼も得ることが出来た。

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

外来受診患者延数 14,974名(一日平均41.0名)

入院患者延数 13,366名(一日平均36.6名)

救急車搬送患者総数 624名

カテーテル関連

冠動脈造影 391例(うち緊急 101例)

右心カテーテル54例

経皮的冠動脈インターベンション(PCI) 228例(うち緊急PCI 83例)

下肢末梢血管インターベンション(EVT) 6例

その他IVR 1例

IABP 8例

経静脈一時ペーシング 44例(うち緊急 33例)

ペースメーカー移植術・交換術 69例

その他

CPAP/ASV治療・管理

ペースメーカー等デバイス管理

デバイス植え込み患者MRI撮像対応

他科手術時デバイス管理

その他、今年度も他の内科系診療科同様、コロナウイルス感染症患者の入院対応や新患を含む一般内科診療・高齢者当番入院対応など内科医としての役割も多く果たす事となった。

教育面では専攻医の成長・資格取得だけでなく、初期臨床研修医教育や指導を積極的に行い、学生見学も積極的に受け入れて、地域：循環器医療のレベルアップ及び初期研修医の獲得・後期研修医の派遣に協力出来た。

1月1日に起こった能登半島地震では発災当初から渡部・阪本の2名が救護班として活動したが、その間人数が少ない中でも診療体制を維持し対応、科として一致団結し当院の柱である診療と災害救護を両面から支えることが出来た。

<令和6年度目標>

令和6年度も地域の循環器医療に貢献するため、救急症例について例年通り盤石の受け入れ体制を維持し対応していくことに加え、昨年度増加した手術件数を維持しさらに増やすべく、地域の先生方との連携をさらに強化し、病診・病病連携ともに気軽に御相談いただける関係づくりを進めていき、さらには県北の循環器診療医療の中心として情報発信にも努めていくことで福島赤十字病院のアピールにも繋げていきたい。また医師の働き方改革が本格始動するため、積極的な業務の効率化・シフトの明確化による勤務間インターバルの確保および有給取得率の上昇を目指しつつも、質の高い医療の継続のための学会発表・参加等必要な自己研鑽も重ねて、安心・安全な高度医療を提供していく所存である。



5. 脳神経内科

【主任部長】 中村耕一郎

■専門

神経内科一般

■資格・所属学会等

日本神経学会 専門医・指導医

日本内科学会 総合内科専門医

福島県立医科大学 臨床教授

【部 長】 守谷 新

▪ 専門

神経内科一般

▪ 資格・所属学会等

日本神経学会 専門医・指導医

日本内科学会 認定内科医・総合内科 専門医

日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医

日本医師会認定産業医

＜令和5年度実績＞

令和5年度の入院件数は322件(前年比70件増)であった。

＜令和6年度目標＞

当科入院症例は救急および紹介症例が多数を占めるため、引き続き病診連携に努め神経救急患者の受け入れに努めていく。

6. 精神科

【副 部 長】 山本慎之助

▪ 専門

精神科

▪ 資格・所属学会等

日本臨床精神神経薬理学会

日本精神神経学会 精神科専門医・指導医

精神保健指定医

＜令和6年度目標＞

令和4年9月より精神科病棟は休止となった。常勤の精神科医1名での対応となったため、規模を縮小し、現在は身体合併症を有する認知症疾患及び精神疾患への対応を主に行っている。医療連携及び地域連携を大切に、円滑な診療体制を作っていく。

7. 小児科

【主任部長】 清水 裕美

▪ 専門

小児科一般

▪ 資格・所属学会等

日本小児科学会 専門医 指導医

日本周産期・新生児医学会 専門医

日本新生児成育医学会

日本産婦人科・新生児血液学会

【部 長】 今野 友貴

■ 専門

小児科一般

■ 資格・所属学会等

日本小児科学会 専門医

子どもの心相談医

日本DMAT隊員

日本小児循環器学会

日本アレルギー学会

日本小児救急医学会

＜令和5年度実績＞

外来は、感染症が多くを占めるが、特に思春期に多い、不登校のカウンセリングや起立性調節障害などの治療などにも対応している。一般外来のほか、腎臓、神経、心臓疾患の特殊外来や乳幼児健診・予防接種などを行っている。

入院は、気管支炎や胃腸炎などの感染症の治療のほか、食物経口負荷試験や成長ホルモン分泌刺激試験などにも対応している。

また、学校医として健康教育に携わり、子ども虐待対応院内組織(CPT)では、行政機関のほか、他の医療機関と積極的に連携をはかり、「福島市子ども虐待対応連絡会」が発足した。

＜令和6年度目標＞

引き続き、救急医療、二次医療の充実を維持する。また、予防接種や乳幼児健診および学校健診での要精検者の二次健診の拡充にも努める。CPT活動では、積極的に定例会や勉強会を開催し、昨年発足した「福島市子ども虐待対応連絡会」の院外連携を充実させることで、手助けを必要としている子どもや親をサポートしていきたい。

8. 外科

【主任部長】 遠藤 豪一

■ 専門

消化器外科、一般外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医 指導医

日本消化器外科学会 専門医 指導医

日本消化器外科学会 消化器がん外科治療 認定医

日本がん治療認定医機構認定医

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ読影認定医

福島県立医科大学臨床教授

日本DMAT隊員

【部 長】 大須賀文彦〔腹腔鏡外科〕

■ 専門

消化器外科、腹腔鏡外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医 指導医

日本消化器外科学会 専門医

日本がん治療認定医機構認定医

日本消化器外科学会消化器がん外科治療 認定医
日本癌治療学会
日本臨床外科学会
日本内視鏡外科学会
日本大腸肛門病学会
日本静脈経腸栄養学会

【副 部 長】 山内 直人

- 専門
消化管外科
- 資格・所属学会等
日本外科学会
日本消化器外科学会
日本臨床外科学会
日本内視鏡外科学会

【医 師】 塚田 学

- 専門
外科
- 資格・所属学会等
日本外科学会 専門医
日本消化器外科学会 専門医
日本臨床外科学会
日本内視鏡外科学会
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医

【医 師】 川又 崇弘

- 専門
消化器外科
- 資格・所属学会等
日本外科学会
日本消化器外科学会
日本臨床外科学会
日本内視鏡外科学会
日本大腸肛門病学会
内痔核治療法研究会四段階注射法講習会修了

<令和5年度実績>

手術症例(一般外科手術症例)

1) 乳腺

乳腺悪性腫瘍手術 6例 (乳房温存手術3例)

2) 胃

胃悪性腫瘍手術 12例 (腹腔鏡下手術5例)

潰瘍穿孔手術 2例

3) 小腸

部分切除術 6例

4) 大腸(結腸)

結腸悪性腫瘍手術 56例 (腹腔鏡下手術45例)

その他 4例

- 5)直腸
 - 直腸悪性腫瘍手術 13例 (直腸切断術 5例、腹腔鏡下手術 8例)
 - その他 2例
- 5)虫垂炎
 - 虫垂切除術 34例 (腹腔鏡下手術34例)
- 6)消化管(その他)
 - 腹膜炎(胃潰瘍を除く)手術 3例
 - 腸閉塞症手術 5例 (腹腔鏡下手術 1例)
- 7)胆嚢
 - 胆嚢結石症 85例 (腹腔鏡下手術74例)
 - 胆嚢炎 20例 (腹腔鏡下手術15例)
 - 胆嚢腫瘍 1例 (腹腔鏡下手術 1例)
- 8)ヘルニア
 - 単径ヘルニア 90例(腹腔鏡下手術66例)
 - 大腿ヘルニア 4例(腹腔鏡下手術 3例)
 - 腹壁癍痕ヘルニア 4例
- 11)その他
 - CVポート造設術 51例
 - 皮下腫瘍 2例

<令和6年度目標>

基本的治療方針として、個々の患者様の状態、患者様の生活環境等にも配慮した適切な治療(手術)を行う事を目標としています。

現在は患者様の体への負担の少ない腹腔鏡下手術を積極的に施行しています。年々腹腔鏡手術の適応は拡大し、大腸癌においては進行大腸癌も含め半数以上の患者様において腹腔鏡手術を施行しています。その他の疾患では胆石症では8割以上、虫垂炎では全例の患者様において腹腔鏡下手術を施行しております。

今後も患者様の体への負担が少ない腹腔鏡下手術等の手術適応をさらに拡大し、より多くの患者様に体への負担の少ない治療(手術)を行えるように進めていきます。

9. 心臓血管外科

【部 長】 籠島 彰人

■ 専門

成人心臓、血管

■ 資格・所属学会等

日本心臓血管外科学会 専門医
 日本外科学会 専門医
 日本脈管学会 専門医
 腹部ステントグラフト実施医・指導医
 浅大腿動脈ステントグラフト実施医
 日本血管外科学会
 日本胸部外科学会
 日本循環器学会
 日本心臓血管外科学会
 日本冠動脈外科学会

【医師】 佐戸川弘之(末梢血管病センター長)

■ 専門

心臓血管外科学

■ 資格・所属学会等

日本心臓血管外科学会 専門医・修練指導者

日本外科学会 外科専門医・指導医

胸部外科学会 指導医

日本脈管学会 脈管専門医

日本静脈学会

日本循環器学会 循環器専門医

下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施医・指導医

日本心臓血管内視鏡学会 指導医

腹部ステントグラフト実施医

＜令和5年度実績＞

ステントグラフト内挿術(腸骨動脈) 1例

ステントグラフト内挿術(腹部大動脈) 6例

バイパス移植術(その他の動脈) 10例

バイパス移植術(下腿動脈) 1例

バイパス移植術(大動脈) 2例

冠動脈バイパス移植術(2吻合以上) 1例

冠動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないもの)(2吻合以上) 2例

大動脈瘤切除術(腹部大動脈・その他のもの) 3例

大動脈瘤切除術(腹部大動脈・分枝血管の再建を伴うもの) 1例

弁形成術(2弁のもの) 1例

弁置換術(1弁のもの) 2例

下肢静脈瘤血管内塞栓術 3例

下肢静脈瘤血管内焼灼術 22例

※令和6年5月で常勤医退職となる

10. 呼吸器外科

【部長】 菅野 隆三(兼 感染管理室長)

■ 専門

呼吸器外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医・指導医

日本胸部外科学会 専門医 指導医

日本呼吸器外科学会 専門医 指導医

日本消化器外科学会 認定医

呼吸器外科専門医合同委員会認定呼吸器外科 専門医・評議員

日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡 専門医・指導医

日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医

福島県立医科大学臨床教授・客員講師

【副 部 長】 井上 卓哉

■ 専門

呼吸器外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医

日本呼吸器外科学会 専門医

日本がん治療学会 認定医

日本胸部外科学会、日本肺癌学会

日本呼吸器内視鏡学会

日本臨床外科学会

日本バイオセラピー学会

IASLC

臨床研修指導医講習会受講

日本がん治療認定医機構認定医

<令和5年度実績>

肺悪性腫瘍手術 47件(胸腔鏡下8件)

胸腔鏡下 気胸手術 33件

<令和6年度目標>

令和6年度初頭に呼吸器外科部長が交代しました。日本気胸・嚢胞性肺疾患学会に所属していますので気胸の治療の数と治療方法を増やすように努めてまいります。

11. 整形外科

【部 長】 村上 和也(兼 リハビリテーション科部長)

■ 専門

足の外科、膝関節外科

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会認定 専門医

日本整形外科学会スポーツ 認定医

日本整形外科学会運動器リハビリテーション 認定医

日本膝関節学会評議員

東北膝関節研究会幹事

【副 部 長】 佐藤 法義

■ 専門

整形外科一般

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会 専門医

日本股関節学会

日本人工関節学会 認定医

骨折治療学会

【副 部 長】 小平 俊介

■ 専門

整形外科一般

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会 認定専門医・認定スポーツ医

東北整形災害外科学会

東日本整形災害外科学会

日本人工関節学会

日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会

＜令和5年度実績＞

令和5年度の整形外科の年間新入院患者数は714人、一日平均入院数は35.3人であり、平均在院日数は18日であった。年間手術件数は616件と昨年度とほぼ同数であった。手術の内訳は、人工関節置換術の数が年々増加しており、令和2年度が102件、令和3年が133件、令和4年度が160件、令和5年度が150件であった。これは地域連携医療機関からの紹介が増えているためと考えられ、引き続き地域の連携を強め、手術成績の向上に向けて務めていきたいと考えている。また、近年増加の一途を辿っている大腿骨近位部骨折の手術症例は人工骨頭置換術が51件、骨接合術が104件と福島県北地区では最も多い手術数となっており、当院の救急医療の一翼を担っていると思われる。

＜令和6年度目標＞

令和6年度は昨年度に引き続き、村上和也、佐藤法義、小平俊介の3名のスタッフに加え、手の外科を専門とされている佐々木信幸先生が新しく加わりパワーアップする。地域の救急医療を担うためには心強いスタッフを得て、救急医療、地域連携医療機関からの紹介に今まで以上に対応していきたいと考えている。

12. 脳神経外科

【院 長】 鈴木 恭一

■ 専門

脳卒中の診断と治療

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医

日本脳卒中学会 専門医 指導医 評議員

日本脳卒中の外科学会 代議員

日本脳卒中の外科学会 技術指導医

日本脳神経外科光線力学学会幹事

日本リハビリテーション医学会 認定臨床医

福島県立医科大学 臨床教授

■ トピックス

第15回鈴木二郎賞(日本脳卒中の外科学会)受賞

第24回中村隆賞金賞(東北脳血管障害懇話会)受賞

【脳神経外科部長 兼 救急センター長 兼 脳卒中センター長】 市川 剛

■ 専門

脳神経外科一般、血管内治療

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医 指導医
日本脳神経血管内治療学会 専門医 指導医
日本脳卒中の外科学会技術指導医
日本神経内視鏡学会 技術認定医
日本DMAT隊員
日本脳神経外科コンgres
日赤災害医療コーディネーター
福島県立医科大学 臨床教授

【医 師】 小祝 萌

■ 専門

脳外科一般

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医
日本脳神経血管内治療学会 専門医
日本脳卒中学会
日本脳神経外科コンgres
日本神経内視鏡学会

【医 師】 本多 潤

■ 専門

脳神経外科

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会

<令和5年度実績>

I. 診察

令和5年度の入院患者総数は582名であり、その内訳は、脳血管障害が325例(脳梗塞：166例、脳出血：92例、くも膜下出血：34例、未破裂脳動脈瘤：22例、脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻：6例、もやもや病：5例)、脳腫瘍が18例、頭部外傷が85例、てんかんが25例、水頭症・奇形が2例、機能的疾患が5例、感染症が38例、その他が84例であった。

手術件数は196例で、そのうち開頭手術は42例で、脳動脈瘤クリッピング術：14例、脳腫瘍摘出術：10例、脳内血腫除去術：4例、神経血管減圧術：4例、急性硬膜下血腫除去術：3例、脳腫瘍生検術：2例、脳動脈吻合術：1例、頭蓋形成術：1例、その他：3例であった。血管内手術は90例であり、機械的血栓回収術：33例、脳動脈瘤コイル塞栓術：26例、頸部頸動脈ステント留置術：13例、腫瘍塞栓術：5例、硬膜動静脈瘻塞栓術：4例、脳動脈瘤フローダイバーター留置術：4例、脳血管拡張術：3例、脳血管ステント術：2例であった。それ以外の手術は64例で、慢性硬膜下血腫：36例、水頭症手術：10例、神経内視鏡手術：9例、その他：9例であった。

II. 教育

リハビリテーションカンファランス：脳卒中急性期リハビリテーションによる更なる機能改善を目指して、医師・リハビリテーションスタッフ・看護師・薬剤師・栄養士による入院患者さんの検討会を2回／月で開催した。

脳神経内科・脳神経外科合同カンファランス：脳疾患治療の進歩に迅速に対応するための勉強会を第2、4月曜に開催した。研修医も参加し、当院における脳疾患治療の底上げを目指している。

回復期リハビリテーション施設との症例検討会：不定期ではあるが開催して、顔の見える関

係を構築し、県北地域の脳卒中治療成績の向上を目指している。

若手医師・スタッフを対象とした教育セミナー：例年、脳神経外科治療のスキルを向上させるため、血管内治療(カテーテル)のハンズオンや、顕微鏡手術下での縫合練習等を開催した。

Ⅲ. 社会貢献

当病院長の鈴木恭一が日本脳卒中協会福島県支部副支部長を務めており、日本脳卒中協会との共同事業として講演会を例年開催している。令和5年度も開業医教育研修事業としてセミナーを2回開催し、脳卒中の予防と治療に関する啓蒙を行った。

Ⅳ. 研究

主に脳卒中に関する臨床研究を継続して行い、その成果を国内外の学会で発表した。福島医大脳神経外科を中心に行っている臨床研究にも参加・協力している。

<令和6年度目標>

I. 診療

令和5年度も福島医大脳神経外科から医師を派遣していただいた(令和5年4月から令和5年10月まで本多潤医師が勤務)。今年度も継続して伊藤裕平医師、小祝萌医師、卯月大医師を派遣していただいております、診療のレベルアップを目指したい。

当院の使命として、県北医療圏における重症疾患や緊急手術への対応が挙げられる。新病院移転時(令和元年)に最新式の脳血管装置を導入した。手術用顕微鏡も更新し、併せて手術用ナビゲーションシステムを導入した。ナビゲーションシステムは、病変や重要な神経路の位置を確認しながら顕微鏡手術を進めることを可能とするもので、県北医療圏では福島医大病院と当院のみに設置されている。加えてこれまで積極的に取り入れてきた血管内治療や神経内視鏡手術を組み合わせることにより、従来は対応が困難であった手術をより安全で確実に行うことが可能となった。今後引き続き良好な医療を続けたい。

当院では「脳神経・脳卒中センター」を開設している。県内に5施設ある日本脳卒中学会一次脳卒中センターコア施設の一つであり、他院からの転院も受け入れている。脳卒中はもちろんのこと脳神経疾患全般を脳神経外科医、脳神経内科医が協力して行うことで、神経疾患に対する診療レベルの向上に努めている。

脳神経外科疾患においては、急性期治療のみ上手くいけば良いというものではない。急性期から慢性期まで切れ目のない治療の継続が求められる。地域の医療機関や回復期リハビリテーション病院との連携をより一層強化し、患者さんの満足度が高まることを目指したい。

Ⅱ. 教育

当院は、日本脳神経外科学会専門医研修連携施設の他、日本脳卒中学会研修教育施設、日本脳神経血管内治療学会研修施設に認定されている。特に日本脳神経血管内治療学会研修施設は福島県内に3カ所のみであり、血管内治療医を目指す若手の教育を継続していきたい。脳卒中の外科認定技術指導医、神経内視鏡学会技術認定医も在籍しており、脳神経外科全般にわたる指導も継続していく。臨床研修指定病院としての役割も担う当院は、初期研修医の教育にも重点を置いていく。脳神経外科治療を院内の多職種で共有出来るような教育の場を増やし、スタッフの学会発表・論文作成を支援することにより、病院全体のレベルアップに努めていきたい。

Ⅲ. 社会貢献

日本脳卒中協会福島県支部の活動を継続し、脳卒中の予防、早期治療の重要性などに関する啓発活動を中心として社会貢献に努めていきたい。新型コロナウイルスが5類に移行したことを受け、今年度は市民公開講座の開催も予定している。福島県循環器病推進計画にも記載されているが、救急隊と連携し、県北地域の脳卒中治療の成績向上を目指したい。

13. 皮膚科

【部 長】 元木 良和

▪ 専門

皮膚科一般

▪ 資格・所属学会等

日本皮膚科学会 専門医

＜令和5年度実績＞

統計のページを参照。

＜令和6年度目標＞

福島医大皮膚科と連携して、診療の質の維持・向上を図る。

14. 形成外科

【部 長】 浅井 笑子

▪ 専門

形成外科一般

再建外科

▪ 資格・所属学会等

日本形成外科学会 専門医・領域指導医

皮膚腫瘍外科分野指導医

日本創傷外科学会 専門医 分野指導医

＜令和5年度実績＞

令和5年4月1日～令和6年3月31日までの手術件数528件（うち全身麻酔15件）

＜令和6年度目標＞

患者さんが快適で安心して受けられる医療を、単独で可能な範囲内で提供していく。

15. 泌尿器科

【部 長】 片岡 政雄

▪ 専門

泌尿器悪性腫瘍、泌尿器内視鏡手術、女性泌尿器科

▪ 資格・所属学会等

日本泌尿器科学会 専門医・指導医

日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会

腹腔鏡技術認定医 泌尿器ロボット支援手術プロクター（前立腺・膀胱） 代議員

日本内視鏡外科学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医

日本排尿機能学会 代議員
日本癌治療学会
日本泌尿器腫瘍学会
日本女性骨盤底医学会
日本骨盤臓器脱手術学会
福島県立医科大学泌尿器科学講座臨床准教授

【副 部 長】 本田瑠璃子

- 専門
泌尿器科一般
- 資格・所属学会等
日本泌尿器科学会 専門医
日本小児泌尿器科学会
日本泌尿器内視鏡学会
日本排尿機能学会
日本泌尿器腫瘍学会
日本癌治療学会

【外 部 医】 丹治 進

- 専門
泌尿器科一般
- 資格・所属学会等
日本泌尿器科学会 専門医・指導医
日本性機能学会 専門医
岩手医科大学泌尿器科客員教授

＜令和5年度実績＞

経直腸式前立腺生検術：60件
MRI/TURS融合型経会陰式前立腺生検術：85件
TURBT：50件
腹腔鏡下仙骨膿固定術：5件
膣閉鎖術：2件
尿失禁防止術：1件
腹腔鏡下腎尿管全摘除術：2件
腹腔鏡下腎摘除術：1件
前立腺レーザー蒸散術：1件

16. 産婦人科

【部 長】 矢澤 浩之

- 専門
内視鏡手術
(腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術)
婦人科腫瘍学、不妊症
- 資格・所属学会等
日本産科婦人科学会 専門医

日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医
日本生殖医学会 生殖医療専門医
福島県立医科大学 臨床教授

【副 部 長】 大原 美希

■ 専門

産婦人科

■ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会 専門医

日本産科婦人科内視鏡学会

日本生殖医学会

日本人類遺伝学会

日本遺伝カウンセリング学会

【医 師】 矢澤 里穂

■ 専門

産婦人科

■ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会

日本産科婦人科内視鏡学会

＜令和5年度活動実績＞

子宮筋腫や卵巣腫瘍など婦人科良性疾患に対しては患者様の負担軽減のため可能な限り低侵襲性手術(内視鏡下手術)を選択してきました。学会や研修会に積極的に参加し内視鏡下手術のスキルアップに努めその適応拡大を行っています。「より多くの患者様へ、より質の高い内視鏡手術の提供」を目標として掲げ、当院で診療を受けられる患者様、特に手術を受けられる患者様のQOLの向上に心掛けるべく日々研鑽を重ねています。

その他、骨盤性器脱の管理や性感染症の診断治療など多くの産婦人科疾患に対応できる体制で診療を行っています。

婦人科悪性疾患では、診断、治療から終末期管理や在宅医療への移行まで一貫した管理を行っていましたが、医師不足の現状を鑑み、本年度より新規患者の受け入れを一時制限させて頂いているのが現状です。

産科診療では、外来妊婦健診および周産期管理を行っていますが、医師不足の現状を鑑み、来年度以降、産科診療を一時停止とさせて頂く方針としました。

不妊症治療では、妊娠に関する相談、タイミング法、腹腔鏡下による検査、治療から顕微授精を含むART治療までを一貫して行ってきましたが、新病院での診療体制に合わせて平成30年度よりART治療は中止としました。

＜令和5年度手術実績＞

総手術件数：341件

境界悪性卵巣腫瘍に対する根治手術：1件

腹腔鏡下手術：198件(卵巣腫瘍：103件、子宮全摘：81件、筋腫核出：12件、異所性妊娠：0件、骨盤臓器脱：1件、など)

子宮鏡下手術：16件

開腹子宮全摘術：56件

開腹子宮筋腫核出術：13件

開腹卵巣腫瘍手術：6件

円錐切除術：24件

骨盤臓器脱手術：0件

帝王切開：25件 など

分娩件数：96件 [うち帝王切開：25件(26%)](2023年10月まで、以降は産科休診)

<令和6年度の目標>

- *学会や研修会に積極的に参加し、最新の診断、治療法の習得や手技の向上に努めます。
- *婦人科診療は、主に良性子宮腫瘍(子宮筋腫等)、良性卵巣腫瘍で手術を要する患者様の治療を中心に行っており、特に、低侵襲手術である内視鏡手術(腹腔鏡・子宮鏡手術)を積極的取り入れ、これまで通り「より多くの患者様へ、より質の高い内視鏡手術の提供」をモットーとし手術適応の拡大し、手術を受けられる患者様のQOLの向上に心掛けるべく日々研鑽を重ねていきます。
- *初期研修医、後期研修医がさらに充実した研修を行えるように努めます。
- *産科診療、婦人科悪性腫瘍手術について：
産婦人科医不足の現状を鑑み、当院での産科診療および婦人科悪性腫瘍の手術に付きましては2023年度をもちまして一時休診とさせていただきます。
診療体制が整い次第、産科診療の再開、婦人科診療の再拡大を目指して行く所存であります。

17. 眼科

【部 長】 山田 文子

■ 専門

白内障手術

■ 資格・所属学会等

日本眼科学会 専門医

日本眼科手術学会

日本眼循環学会

日本コンタクトレンズ学会

福島県立医科大学臨床教授

福島県立医科大学研修指導医

福島県眼科医会副会長

【視能訓練士】 秋山 妙子、湯野川 樹理、渡邊 恵、塩田 美弥

<令和5年度実績>

統計ページを参照。

他に周辺虹彩切除術、結膜囊部分形成術、霰粒腫摘出術、後発白内障切開術、網膜光凝固術、虹彩光凝固術など施行

<令和6年度目標>

軽微な疾患で定期通院している近隣在住の患者様を地域の先生方にお任せする一方、急患を含め入院対応や他科との連携の必要な患者様を積極的に受け入れ、地域に貢献したい。白内障手術を中心にクリニックの先生方の手に余る難易度のやや高い手術手技を要する方、社会的家族的支援の脆弱な方、認知症や精神的に弱く局麻下手術に難のある方などを引き受けるよう努力する。またクリニカルパスを最大限活用し、外来・病棟・手術室他のスタッフの負担を軽減し、効率よ

く入院手術加療を施行したい。ERを通していないためか当院で眼科の急患も承っていることが院内でも浸透しておらず、診療時間以外、当科の知らないうちにお断りしてしまう現状を改善したい。

18. 耳鼻咽喉科

【主任部長】 多田 靖宏(兼 嚥下・ボイスセンター長
兼 鼻・副鼻腔センター長 兼 医療情報部門責任者)

■ 専門

耳鼻咽喉科一般、音声外科領域(声帯ポリープ・声帯麻痺)
鼻副鼻腔領域(慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症)
気管食道科領域(嚥下障害)、医療情報学領域鼻

■ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門医 指導医
日本気管食道科学会 認定専門医
日本音声言語医学会 音声言語認定医
日本嚥下医学会 認定嚥下相談医
日本鼻科学会
日本喉頭科学会
日本耳鼻咽喉科臨床学会
日本頭頸部外科学会
補聴器相談医
喉頭形成手術実施医
福島県立医科大学臨床教授
福島県立医科大学非常勤講師

【部長】 三浦 智広(兼 嚥下・ボイスセンター副センター長
兼 鼻・副鼻腔センター副センター長)

■ 専門

耳鼻咽喉科疾患一般
耳鼻咽喉科救急疾患
鼻副鼻腔領域、血管性浮腫

■ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医 指導医
補聴器相談医
日本鼻科学会
日本頭頸部癌学会
日本頭頸部外科学会医
日本嚥下医学会 相談医

【医師】 大河内幸男(非常勤)

■ 専門

耳鼻咽喉科一般

■ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医
日本気管食道科学会 専門医

日本耳科学会
日本鼻科学会
耳鼻咽喉科臨床学会

【外 部 医】 松井 隆道(非常勤)

▪ 専門

耳鼻咽喉科一般
耳科領域

▪ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医
日本耳科会
補聴器適合判定医師

＜令和5年度実績＞

令和5年度の新入院患者数は262名で、その内訳は手術目的の予定入院164名、救急入院は98名であった。手術症例は全身麻酔284名、局所麻酔105名であった。

＜令和6年度目標＞

1. 国内および国際学会で積極的に発表を行う。
2. 手術研修や講習会に積極的に参加する。
3. 各専門外来を充実させ、より専門的な治療を提供する。
4. 耳鼻咽喉科に関わるコ・メディカルと連携し、チーム医療を充実させる。



19. 放射線科

【部 長】 菊田 学(放射線科部長)

▪ 専門

画像診断(特にCT・MRI)

▪ 資格・所属学会等

日本医学放射線学会専門医

【技 師 長】 佐藤 勝行(放射線科部技師長)

【課 長】 相澤 浩樹(第1放射線技術課長 兼 一般撮影係長)

阿部 直人(第2放射線技術課長)

【係 長】 海藤 隆紀(第2放射線技術課 画像情報係長)

【診療放射線技師】 五十公野純子、三次 鏡太、菅野 徹、伊藤 美穂、明田 充弘

佐藤 竜馬、玉根 勇樹、外山 歩、佐藤 香歩、島田 翔平

【放射線科助手】 八巻 弘美

<令和5年度活動実績>

1. 検査件数

(単位：件)

	令和4年度	令和5年度
CT検査	12,921	12,959
MRI検査	5,696	5,571
血管撮影	535	688
一般撮影	28,733	28,318
乳房撮影	1,601	1,596
透視撮影	1,303	1,278
骨密度測定	544	572
ポータブル	4,365	4,908
術中透視	388	350
PACS画像取込・複写	6,026	5,934

<令和6年度の目標>

1. 院内接遇No.1の放射線科を目指す
2. 安全な医療の提供に努める
3. 病院を良くするための取り組みを行う
4. 勉強会・研究会等へ積極的に参加する
5. 医療被ばく線量管理の分析と報告を行う
6. スタッフ満足度を向上させる

<研修会・Web研修会>

1. 第5回 福島県CTテクニカルセミナー ～ Deep Learning Reconstruction ～
令和5年6月10日(土) 福島テルサ 佐藤 勝行、相澤 浩樹
2. デジタルマンモグラフィ精度管理・品質管理講習会
令和5年6月17日(土) 東北大学病院 臨床講堂 五十公野 純子、佐藤 香歩
3. 第22回 福島県MR技術研究会 ～整形・頭部・救急領域のMRI～
令和5年6月24日(土) Web 阿部 直人、海藤 隆紀
4. 令和5年度 日本赤十字社診療放射線技師学術総会
令和5年7月7日(金)～8日(土) 京都市国際交流会館 外山 歩
5. 第20回 東北MR技術研究会 ～整形領域のMR撮影技術～
令和5年7月8日(土) Web 阿部 直人
6. 第2回 東北IVR技術研究会 ～血管撮影装置の正しい線量表示値についてなど～
令和5年7月8日(土) Web 海藤 隆紀
7. 県北地区協議会 夏季勉強会 ～読影レポートの既読管理について～
令和5年8月30日(水) Web 佐藤 勝行、相澤 浩樹、阿部 直人、海藤 隆紀、佐藤 竜馬
8. 第22回 福島県乳腺画像研究会 ～トモシンセシスガイド下生検について～
令和5年9月2日(土) Web 五十公野 純子

9. 令和5年度 甲状腺簡易測定研修 ～甲状腺被ばくの簡易測定実習など～
令和5年9月23日(土) 福島県立医科大学附属病院 海藤 隆紀
10. 第23回 県北MDCTカンファレンス ～Dual Energy CTについて～
令和5年9月30日(土) 福島テルサ 佐藤 勝行、相澤 浩樹、海藤 隆紀
五十公野 純子、玉根 勇樹
11. 令和5年度 福島県放射線技術学術大会
令和5年10月22日(日) 星総合病院ポラリス保健看護学院メグレズホール 相澤 浩樹、島田 翔平
12. 第9回 福島県血管撮影技術セミナー(FANTA)
令和5年11月11日(土) ふくしま医療機器開発支援センター 海藤 隆紀、明田 充弘、佐藤 竜馬
13. 令和5年度 福島県DMAT養成研修
令和5年11月18日(土)～19日(日) 福島県立医科大学附属病院 佐藤 竜馬
14. 令和5年度 日本赤十字社放射線技師会東北ブロック研修会
令和5年11月25日(土) 福島赤十字病院 研修棟 佐藤 勝行、相澤 浩樹、阿部 直人、海藤 隆紀、五十公野 純子
三次 鏡太、菅野 徹、明田 充弘、佐藤 竜馬、玉根 勇樹、外山 歩
佐藤 香歩、島田 翔平
15. 県北地区協議会 冬季勉強会 ～医療AIを使った診断支援ソフトの現状と展望～
令和6年2月1日(木) Web 佐藤 勝行、阿部 直人
16. 診療放射線技師会主催 厚生労働省告示第273号研修
令和6年2月3日(土) 福島県立医科大学 海藤 隆紀、五十公野 純子

<研修会等発表>

1. 第13回 東北放射線医療技術学術大会
令和5年11月3日(金)～4日(土) 山形テルサ
「福島県内の血管撮影における水晶体被ばく被ばく防護について」 海藤 隆紀
2. 令和5年度 日本赤十字社放射線技師会東北ブロック研修会
令和5年11月25日(土) 福島赤十字病院 研修棟よりハイブリッド開催
「血管撮影室におけるにおける防護眼鏡の着用状況、および
水晶体被ばく線量管理の実態に関するアンケート報告」 海藤 隆紀
「診療用放射線に係る安全管理体制について」 明田 充弘

<原子力災害関連研修>

1. 令和5年度 第1回日本赤十字社 原子力災害対応基礎研修(第1ブロック)
令和5年7月21日(金) 日本赤十字社本社
(災害医療救護活動における放射線の基礎知識：海藤隆紀 講師) 海藤 隆紀
2. 令和5年度 第1回原子力災害医療基礎研修
令和5年7月30日(日) 福島赤十字病院 研修棟3階
(線量防護、汚染検査・除染について：海藤隆紀 講師) 相澤 浩樹、海藤 隆紀

3. 令和5年度 第2回原子力災害医療基礎研修
令和5年9月18日(月) 福島赤十字病院 研修棟3階
(線量防護、汚染検査・除染について：海藤隆紀 講師)

佐藤 勝行、海藤 隆紀

20. 麻酔科

【部 長】 出羽 明子

■ 専門

手術麻酔、緩和ケア、带状疱疹後神経痛

■ 資格・所属学会等

日本麻酔科学会 専門医・認定医

日本臨床麻酔学会

日本緩和医療学会

日本ペインクリニック学会

福島県立医医科大学 臨床教授

【副 部 長】 江花 英朗

■ 専門

手術麻酔

■ 資格・所属学会等

日本麻酔科学会 専門医

周術期経食道心エコー(JB-POT) 認定医

日本臨床麻酔学会

日本集中治療医学会

日本心臓血管麻酔学会

【医 師】 安達 守

■ 専門

星状神経節ブロック

■ 資格・所属学会等

日本麻酔科学会 専門医

<令和5年度実績>

麻酔科管理件数	1,717件
ペインクリニック	94件
緩和ケア	48件
初期研修医指導	延べ16名

<令和6年度目標>

安全な手術麻酔と緩和ケアの充実
院内急変対応チームによる重症患者への迅速な対応

21. リウマチ・膠原病内科

【医 師】 宮田 昌之(リウマチ・膠原病センター長)

■ 専門

リウマチ、膠原病、アレルギー疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

アメリカ内科学会 専門医

日本リウマチ学会 専門医 指導医

日本アレルギー学会 専門医 指導医

福島県立医科大学臨床教授

診療情報管理士

【医 師】 松岡 直紀

■ 専門

リウマチ・膠原病

■ 資格・所属学会等

日本内科学会認定内科医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

日本リウマチ学会リウマチ専門医

【外 部 医】 田中 健一

■ 専門

腎臓病・透析

■ 資格・所属学会等

日本腎臓学会専門医・指導医

日本透析医学会専門医・指導医

日本高血圧学会専門医・指導医

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

当科ではリウマチ・膠原病を中心に不明熱なども含めて複雑な病態の患者さんを診療しております。

リウマチ・膠原病は一般に認知度が低いと思われませんが慢性的な痛みなどに苦しんでいる患者さんは非常に多くおられます。整形外科が担当する患者さんも多くおられますが当科ではリウマチ・膠原病を中心に原因不明の発熱、関節痛、筋肉痛など複雑な病態の患者さんの診療しております。

慢性的な発熱、痛みなどに苦しんでいる患者さんは非常に多くおられます。整形外科が担当する患者さんも多くおられますが、少なくとも一部はリウマチ・膠原病です。リウマチ・膠原病の領域は免疫学、炎症学、分子生物学と非常に関連が深くこれらの分野の進歩とともに診療内容も変貌してまいりました。

リウマチ・膠原病は自己免疫疾患ともいわれますが、自己抗体が検出されない病気もあるのはご存じかと思います。例えば高安病、仙腸関節炎、乾癬性関節炎などは自己抗体が検出されません。リウマチ・膠原病は自己抗体が検出され獲得免疫異常が主に病態形成に関与している疾患群と自己抗体が検出されず自然免疫異常が主に病態形成に関与している疾患群に分類されるようになりました。当科ではいずれも診断治療の対象として診療しております。

診療や治療での進歩が速い領域かと思います。多岐にわたる進歩を導入するため多職種の方の

診療協力を得ながら診療しております。

診療に欠かせない自己抗体の測定は分子生物学の進歩によって著しい進歩を遂げているのです。膠原病の多くはそれぞれの疾患の特徴となる自己抗体を持っております。この新しい自己抗体の発見、臨床の現場での応用はとてリウマチ・膠原病疾患の診断に有用です。疾患によって異なり、自己抗体を測定することで診断から、治療法、その患者さんの予後まで予測可能な場合もあります。

また、最近の画像診断の発展により診断が困難であった疾患も比較的容易に診断できるようになりました。例えば関節リウマチにおける関節エコー検査とか仙腸関節炎におけるMRIの応用、高安病におけるPETの応用などです。高安病は造影CTなどでもある程度診断が可能です。PETは全身を一度に検査することができその有用性が認められ保険収載されております。

免疫学、分子生物学的技術の進歩によって病態が次第に解明され20年ほど前までほとんど有効な治療がなかった関節リウマチにおいては抗サイトカイン療法やJAK阻害薬(Janus kinase inhibitor)などを用いて炎症を根本的に抑え込むこともできるようになりました。

当科ではこれらの診療、治療の進歩をいち早く取り入れてリウマチ・膠原病の患者さんの診療にあたっております。リウマチ学会、アレルギー学会、臨床リウマチ学会、内科地方会、リウマチ地方会などのほか関連の研究会でも発表を行い、まとまった報告については論文化するように心がけております。

リウマチ・膠原病内科では患者さんの全身を診療いたします。プライマリケア習得が目標の臨床研修にも力を入れており、研修で得たことについては発表の機会を設けて症例を掘り下げ深く考えるような習慣を身に付けていただくことに心掛けております。

22. 病理診断科

【検査部長】 田崎 和洋

■ 専門

外科病理学一般
悪性リンパ腫の病理

■ 資格・所属学会等

日本病理学会認定病理専門医・指導医
日本臨床細胞学会認定細胞診断専門医・指導医
日本リンパ網内系学会
福島県立医科大学 臨床教授

【課 長】 根本 浩(検査部病理検査課長)

【係 長】 佐藤 由峰(検査部病理検査係長)
石川 梓(検査部病理検査係長)

【技 師】 三浦 義喜(臨床検査技師)

<令和5年度実績>

組織診断件数	3,118件
術中迅速組織診断件数	108件
細胞診断件数	3,222件
術中迅速細胞診断件数	169件(EUS-FNA13件を含む)
病理解剖件数	1件

<令和6年度目標>

- ・医療安全上、きわめて重大な問題となる「担当医による病理診断書の見落とし」の根絶を目指すため、週毎に前2週間分の未閲覧症例を抽出し担当医に報告するとともに、毎月開催される報告書確認対策チームのカンファレンスに参加し、集計した未閲覧数を次月の医局会にて報告する。
- ・ルーティンにて提出された病理検体については、免疫染色を要する症例や難解例を除き、可能な限り速やかに報告書を発行するように努める(turnaround timeの短縮)。
- ・報告書に標本のマクロまたはミクロ写真を添付し、診療担当医に理解しやすく、同時に患者様にも説明しやすい報告書の作成を心がける。
- ・外科系(呼吸器外科、乳腺外科、婦人科他)および消化器内科との連携によるコンパニオン診断(外注によるオンコマイン、PD-L1, HER2, MSI検査etc.)を円滑に進める。また、MSI検査(遺伝子変異、外注)から、互換性のあるMMR検査(免疫染色、自家検査)への移行を積極的に推進する。
- ・細胞診検討会を月に一度開催して診断困難事例や組織診断との乖離を認めた症例等について改めて検討を行い、細胞検査士と病理医両者の問題意識を共有するとともに診断のスキルアップに努める
- ・剖検例を用いたCPC(臨床病理検討会)に向けて、研修医が症例の概要をプレゼンテーションしやすい環境を整える。

23. 救急科

【部 長】 市川 剛(兼 脳神経外科部長 兼 救急センター長 兼 脳卒中センター長)

■ 専門

脳神経外科一般、血管内治療

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医
 日本脳卒中学会 専門医 指導医
 日本脳神経血管内治療学会 専門医 指導医
 日本脳卒中の外科学会技術指導医
 日本神経内視鏡学会 技術認定医
 日本DMAT隊員
 日本脳神経外科コンGRES
 日赤災害医療コーディネーター
 福島県立医科大学 臨床教授

【副 部 長】 大久保 怜子

■ 専門

救急医療

■ 資格・所属学会等

日本救急医学会救急科専門医
 日本集中治療学会
 日本外傷学会
 日本航空医療学会
 日本集団災害医学会

<令和5年度実績>

当院は、県北医療圏における2次救急医療の基幹施設です。核となる部署は救急センターで、内科的疾患や外傷の他、心疾患、脳疾患等の多岐にわたる病態に対応しています。また、救急看護認定看護師を中心に看護体制の強化も図っています。

令和5年度救急車受け入れ台数は4,138件、搬入患者の入院割合は51.3%、Walk-inの救急患者数は1,863名と、地域の急性期医療に大きく貢献しています。

<令和6年度目標>

病院移転の際に、最新設備と医療機器をそろえた救急センターを設置しました。ER(救急外来)、救急病床12床、HCU 8床、さらに循環器センター、脳卒中センターを整備しています。ERアクセスが良く、CT・MRI等の診断医療機器も充実しており、搬入後の検査や処置、治療まで迅速に行うことができます。発症から治療までの経過時間が重要な血管障害に対してはPhilips社製の最新の血管撮影装置を2台導入し、24時間体制で対応しております。感染症等に対応できる陰圧室の他、屋上にはヘリ搬送対応のためヘリポートを投置しています。

また当院ではER型の救急診療を行っております。平日日中は救急専門医1名が常駐し初期診療を行い、各専門診療科と密接に連携し対応しています。専門性の高い疾患や紹介患者さんにつきましては初療より各専門科が関わり、速やかな診断・治療を進められる体制としています。夜間・休日は当直医師が診療し、院内各科や地域の各病院に適切につなげられる診療を行っております。

今後も円滑な救急車の受け入れと各医療機関や施設からの救急要請への対応を行い、県北医療圏の救急医療に貢献しつづけたと考えております。

24. リハビリテーション科

【部長】 村上 和也(兼 整形外科部長)

■資格・所属学会等

日本整形外科学会認定 専門医
日本整形外科学会スポーツ 認定医
日本整形外科学会運動器リハビリテーション 認定医
日本膝関節学会評議員
東北膝関節研究会幹事

【係長】 大室 祐司(第1リハビリテーション科係長、理学療法士)

■資格・所属学会等

柔道整復師、心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士、
認定理学療法士(呼吸)、認定理学療法士(循環)、登録理学療法士

藤橋 伸弘(第2リハビリテーション科係長、理学療法士)

■資格・所属学会等

心臓リハビリテーション指導士、認定理学療法士(循環)、登録理学療法士
AHA・BLSプロバイダー、福祉住環境コーディネーター2級

【理学療法士】 近澤 久美子

■資格・所属学会等

認知症ケア専門士、認定理学療法士(脳卒中)、登録理学療法士、介護支援専門員

相田 悦子

鈴木かおり

- 資格・所属学会等
登録理学療法士

三浦 友輔

- 資格・所属学会等
3学会合同呼吸療法認定士、認定理学療法士(呼吸)、登録理学療法士、
AHA・BLSプロバイダー

金子みなみ

- 資格・所属学会等
3学会合同呼吸療法認定士、登録理学療法士、福祉住環境コーディネーター2級

淵澤 慎也

- 資格・所属学会等
3学会合同呼吸療法認定士

大室 康騎

秋本 礼智

- 資格・所属学会等
認定理学療法士(運動器)、登録理学療法士

萩原 幸樹

菅野 颯海

【作業療法士】 高橋 美和

佐藤ゆかり

- 資格・所属学会等
AHA・BLSプロバイダー

橋本 楓

- 資格・所属学会等
認知症ライフパートナー2級、AHA・BLSプロバイダー、
肝炎医療コーディネーター

菅野 尚之

【言語聴覚士】 齋藤 隆徳

- 資格・所属学会等
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

渡部 藍里

- 資格・所属学会等
肝炎医療コーディネーター

東海林祐実

■ 資格・所属学会等

肝炎医療コーディネーター

菅野 信世

【事務】 鈴木真紀子(派遣事務員)

<実績>

1. リハビリテーション業務実績

部 門	実患者数合計	延べ患者数合計	総単位数
理学療法部門	2,291	27,418	34,416
作業療法部門	412	8,434	11,514
言語聴覚療法部門	481	10,074	12,342

2. 耳鼻咽喉科外来業務(音声外来患者対応)

3. カンファランス開催

- ・ 整形外科ケースカンファランス
- ・ 脳血管疾患リハビリカンファランス
- ・ 呼吸器疾患リハビリカンファランス
- ・ 心大血管疾患リハビリカンファランス

4. チーム(委員会)活動への参加

- ・ EAT
- ・ NST
- ・ RST
- ・ 早期離床リハビリテーションチーム
- ・ 褥瘡対策チーム
- ・ 肝炎治療チーム
- ・ 認知症ケア委員会
- ・ 緩和ケア委員会

<目標>

1. 方 針

- (1) 患者満足度と職務満足度の向上
- (2) 質の高いリハビリテーションの提供
- (3) 病院収益への貢献
- (4) 人材育成

2. 具体的目標

- (1) 処方された全ての患者様へ、適切なリハビリテーションを提供する
- (2) ハード面、ソフト面の充実
- (3) 地域連携パスの適切で効果的な運用
- (4) 診療報酬改訂に対応し、規定範囲内で最大限の算定を行う
- (5) 業務改善の提案
- (6) 他部門との連携強化
- (7) 各種リハビリテーション文書の統一化
- (8) 臨床実習の受け入れを行う



25. 薬剤部

【部 長】 市橋 淳(薬剤部長)

- 資格・所属学会等
ケアマネージャー(福島県介護支援専門員)

【課 長】 緑上 淳一(薬品管理課長)

渡部 寿康(調剤製剤課長兼調剤製剤係長)

- 資格・所属学会等
がん薬物療法認定薬剤師
緩和薬物療法認定薬剤師
ケアマネージャー(福島県介護支援専門員)
日病薬病院薬学認定薬剤師
日本薬剤師研修センター認定薬剤師
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
日本DMAT隊員
麻薬教育認定薬剤師
日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト

川村 早苗(病棟業務課長)

- 資格・所属学会等
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

【係 長】 酒井 亮(薬品管理係長)

- 資格・所属学会等
医薬品情報認定薬剤師
日病薬病院薬学認定薬剤師
日本DMAT隊員
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

【主 任】 佐藤 南

- 資格・所属学会等
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

井上可奈子

- 資格・所属学会等
外来がん治療認定薬剤師

【薬 剤 師】 武藤 芳和

- 資格・所属学会等
外来がん治療認定薬剤師
日病薬病院薬学認定薬剤師
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

菊地 洋平

- 資格・所属学会等

外来がん治療認定薬剤師
日病薬病院薬学認定薬剤師

大竹麻衣子

■ 資格・所属学会等
医療情報技師
日病薬病院薬学認定薬剤師

古賀 彩織

■ 資格・所属学会等
心不全療養指導士
日病薬病院薬学認定薬剤師

寺内優紀恵

■ 資格・所属学会等
日本糖尿病療養指導士

安齋 英里

矢葺 優佳

■ 資格・所属学会等
日病薬病院薬学認定薬剤師

猪股 育美

■ 資格・所属学会等
日病薬病院薬学認定薬剤師

西丸未希翔

太田 昂希

村上 美里

横田 有希

【薬剤助手】 太田 順子、東瀬ちさと(2023年6月～)、佐藤愛希子(2024年2月～)

<令和5年度実績>

1. 薬剤管理指導件数 月平均：596件
2. 病棟薬剤業務実施加算算定
3. 退院時薬剤情報管理指導数 月平均：376件
4. 6年制薬剤師長期実務実習受入件数
Ⅱ期(令和5年5月22日～8月4日) 3名
Ⅲ期 なし
Ⅳ期 なし
5. 化学療法ミキシング件数
外来実施件数：1307件
入院実施件数：236件

6-A. 【院 外】学会・研修会発表、雑誌寄稿依頼

開催日	発表者名	場所	学会名等	演題名
20230520	緑上 淳一	郡山市	福島県薬剤師感染制御・ 抗菌化学療法研究会	「ダイヤモンド・プリンセス号の救護活動報告」
20230627	市橋 淳	昭和村	日本赤十字社 福島支部	「正しい薬の知識」
20230923	渡部 寿康	福島市	制吐療法を考える会 in FUKUSHIMA	「臨床現場から制吐療法を考える」
20231014	古賀 彩織	八戸市	第24回東北ブロック 赤十字病院薬剤師研修会	「福島赤十字病院における 院内フォーミュラリーの策定について」
20231014	渡部 寿康	八戸市	第24回東北ブロック 赤十字病院薬剤師研修会	「診療報酬関連の薬剤部での取り組み」
20231103	渡部 寿康	仙台市	第33回日本医療薬学会 年会	「PBPMを用いた薬剤師による 化学療法施行患者に対する 肝炎対策の取り組み」
20231104	武藤 芳和	仙台市	第33回日本医療薬学会 年会	「当院における病棟配置薬 (BZ系睡眠薬)の見直し」
20231109	緑上 淳一	京都市	第59回日本赤十字社医 学会総会	「J-SIPHEを活用したタゾバ クタム／ピペラシリンの適 正使用に向けた取り組み」
20240331	緑上 淳一	定期誌	福島県病院薬剤師会雑誌 No.117掲載	「ダイヤモンド・プリンセス号の救護活動報告」

6-B. 【院 内】研修会発表

開催日	発表者	所属・委員会名等	演題名
20230405	市橋 淳	医療安全推進室	新規入職者対象のオリエンテーション 「医療安全研修①」
20230406	緑上 淳一	薬剤部	研修医1年目対象者研修 「処方・注射オーダーの方法と注意点」
20230518	古賀 彩織	3病棟	麻薬・向精神薬の管理について
20230726	渡部 寿康	6 B病棟会	化学療法の副作用対策と抗がん剤漏洩 時の対処法について
20230803	渡部 寿康	緩和ケア委員会	令和5年度 福島赤十字病院 緩和ケ ア研修会 「オピオイドについて」
20230823	緑上 淳一	感染対策チーム／抗菌 薬適正使用支援チーム	令和5年度 感染研修 第1回「抗菌 注射薬適正使用について基礎編」 オ ンライン研修
20231124	緑上 淳一	感染対策チーム／抗菌 薬適正使用支援チーム	令和5年度 第3回感染対策向上加算 合同カンファレンス「2022年 抗菌注 射薬の当院の年間使用状況について」 「J-SIPHEの活用について」 オンライン報告
20231211	市橋 淳	医療安全推進室	正職員対象者研修「医療安全研修②」
20240306	渡部 寿康	令和5年度福島赤十字 病院化学療法レジメン 研修会	「ガイドライン変更に伴うレジメンの 変更点(制吐剤、点滴漏洩時対応)」
20240306	菊地 洋平	令和5年度福島赤十字 病院化学療法レジメン 研修会	化学療法施行患者症例報告①
20240306	武藤 芳和	令和5年度福島赤十字 病院化学療法レジメン 研修会	化学療法施行患者症例報告②

20240306	緑上 淳一	感染対策チーム／抗菌薬適正使用支援チーム	令和5年度 感染研修 第2回「抗菌薬使用のワンポイントアドバイス」オンライン研修
----------	-------	----------------------	--

6-C. 学会参加

開催日	参加者名	場所	学会名等
20230525	渡部 寿康	WEB	第17回日本緩和医療薬学会
20230415	大竹麻衣子	WEB	第21回九州沖縄医療情報技師会
20230510	渡部 寿康、 他11名	郡山市	日本病院薬剤師会東北ブロック第12回学術大会
20230610	酒井 亮	京都市	第25回日本医薬品情報学会 総会・学術大会
20230524	渡部 寿康	WEB	日本緩和医療薬学会 第28回教育セミナー
20230717	渡部 寿康	WEB	日本緩和医療薬学会 2023年7月pSMILE
20230727	酒井 亮	WEB	第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会
20230730	渡部 寿康	WEB	日本緩和医療薬学会 2023年度pSMILE
20230903	渡部 寿康	郡山市	第16回福島県薬剤師がん化学療法研究会
20230903	菊地 洋平	郡山市	第16回福島県薬剤師がん化学療法研究会
20230903	武藤 芳和	郡山市	第16回福島県薬剤師がん化学療法研究会
20230910	渡部 寿康	WEB	令和5年度福島県肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会
20230923	渡部 寿康	福島市	制吐療法を考える会 in FUKUSHIMA
20231014	市橋 淳	八戸市	第24回東北ブロック赤十字病院薬剤師研究会
20231014	渡部 寿康	八戸市	第24回東北ブロック赤十字病院薬剤師研究会
20231014	古賀 彩織	八戸市	第24回東北ブロック赤十字病院薬剤師研究会
20231019	渡部 寿康	横浜市	第61回日本癌治療学会学術集会
20231019	菊地 洋平	横浜市	第61回日本癌治療学会学術集会
20231101	渡部 寿康	WEB	令和5年度がん薬剤師集中教育講座
20231103	渡部 寿康	仙台市	第33回日本医療薬学会年会
20231103	武藤 芳和	仙台市	第33回日本医療薬学会年会
20231103	古賀 彩織	仙台市	第33回日本医療薬学会年会
20231103	大竹麻衣子	仙台市	第33回日本医療薬学会年会
20231109	緑上 淳一	京都市	第59回日本赤十字社医学会総会
20231121	渡部 寿康	福島市	第17回県北地区薬薬連携研究会
20231121	大竹麻衣子	福島市	第17回県北地区薬薬連携研究会
20231121	菊地 洋平	福島市	第17回県北地区薬薬連携研究会
20231209	渡部 寿康	WEB	がん疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会
20231210	渡部 寿康	郡山市	第11回福島県薬剤師緩和ケア研究会
20231210	菊地 洋平	郡山市	第11回福島県薬剤師緩和ケア研究会
20231210	大竹麻衣子	郡山市	第11回福島県薬剤師緩和ケア研究会
20231228	渡部 寿康	WEB	令和5年度がんゲノム医療従事者養成WEB研修会
20240120	渡部 寿康	WEB	医薬品安全管理責任者講習会
20240201	渡部 寿康	仙台市	令和5年度第2回東北ブロックDMAT技能維持研修
20240215	大竹麻衣子	横浜市	第39回日本栄養治療学会学術集会
20240215	矢葺 優佳	横浜市	第39回日本栄養治療学会学術集会
20240222	菊地 洋平	名古屋市	日本臨床腫瘍学会年会
20240222	武藤 芳和	名古屋市	日本臨床腫瘍学会年会
20240302	菊地 洋平	神戸市	日本臨床腫瘍薬学会学術大会
20240302	武藤 芳和	神戸市	日本臨床腫瘍薬学会学術大会
20240309	市橋 淳	東京	第73回日赤薬剤師会総会・第57回臨床薬学研修会

20240309	渡部 寿康	東京	第73回日赤薬剤師会総会・第57回臨床薬学研修会
20240309	横田 有希	東京	第73回日赤薬剤師会総会・第57回臨床薬学研修会
20240309	村上 美里	東京	第73回日赤薬剤師会総会・第57回臨床薬学研修会
20240308	古賀 彩織	WEB	第88回日本循環器学会学術集会

<令和6年度目標>

1. 薬剤管理指導件数
月平均 729件以上(全国日赤の中で病床数の近い集団の平均値以上)
2. 病棟薬剤業務実施加算の継続
3. 6年制薬剤師長期実務実習受入件数(予定)
Ⅱ期: 2名 Ⅲ期: 3名 Ⅳ期: 0名
4. 化学療法ミキシング件数
外来実施件数: 1400件以上
入院実施件数: 250件以上
5. 学会・研修会・論文発表: 3件以上

26. 医療技術部

栄養課

【部 長】 渡部 研一(循環器内科主任部長 兼 医療技術部長)

【課 長】 菊地 利恵(栄養課長 兼 第一栄養係長事務取扱)

- 資格・所属学会等
静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士
NST専任管理栄養士

【係 長】 小河原貴之(第二栄養係長)

- 資格・所属学会等
NST専任管理栄養士
服部みゆき(調理係長)

【管理栄養士】 野崎 華織

- 資格・所属学会等
NST専任管理栄養士、日本栄養治療学会NST専門療法士

葛城 美貴

- 資格・所属学会等
福島県体育協会認定スポーツ栄養士、NST専任管理栄養士

野沢 雅美

【栄養士】 齋藤那緒美、蓬田 ゆみ、角田奈々葉、香野 友希、渡辺 龍羅、佐藤 亜美

【調理師】 釜田 雄一、中尾ひろみ、齋藤 蘭、小林 玲子、菅野由香利

【業務員】 片平 純子、本多由美子、菱沼美佐子、山田 弘美、佐藤 栄寿

<令和5年度実績>

・給食管理業務

項目	区分	年間実績	備考		対前年度増減
食事提供数	一般食	106,452食	特別治療食 (加算有)割合	40.50%	+ 426食
	特別治療食(加算有)	72,454食			- 2,839食
行事食回数		32回			—

- (1)4月：新人教育マニュアル作成、運用
- (2)10月：嗜好調査実施
- (3)11月：災害食を現状把握し管理(整理整頓)
- (4)5・8・9・11・2月：管理栄養士、栄養士の実習生を6校(10名)受け入れた

・栄養管理業務

項目	区分	年間実績	備考		対前年度増減
栄養指導件数	外来指導	655件	算定件数	644件	+60件(算定+48件)
	入院指導	1,049件	算定件数	937件	+231件(算定+242件)
NST件数		310件	算定件数	267件	—
個別栄養食事管理加算		362件			+124件
栄養管理計画書		4,068件	60.16%		-160件
集団栄養相談教室	プレママ	12回			—
個食対応		1,024件			+351件

※緩和ケア診療対象の患者に対して行う個食対応は、個別栄養食事管理加算件数として数える。

- (1)目標栄養指導件数1,220件に対し、1,704件実施。目標達成率約139%
- 実施件数は前年比で+291件と大幅に増加した。

<令和6年度目標>

- 1. 栄養管理及び栄養指導の技術向上
- 2. 調理技術向上
- 3. 業務改善及び効率化
- 4. NST加算実施件数UP

臨床工学技術課

【課 長】 橋本 健一(臨床工学技士・医療機器安全管理責任者
医療安全推進室員・特定高圧ガス取扱主任者・日本DMAT)

【係 長】 早坂美智子・中山 彩

【課 員】 塩澤 将太・村上 風太・齋藤 巧・佐久山 歩

<令和5年度活動実績>

◆臨床業務

- アンギオカテーテル業務 ・心臓 391件(PCI 228件)

- ・末梢血管EVT 21件
 - ・IVCフィルター 4件
 - ・肝臓 27件(TACE他)
 - ・新規埋込み術・電池交換術 69件
 - ・植込み型ペースメーカー外来：指導管理料 2310回
 - ・体外式ペースメーカー管理料 79日
- ・血栓除去 4件
- ・脳血管 152件(造影・コイル他)
- ・大動脈ステントグラフト 6件
- 心臓ペースメーカー業務
- 心臓手術(人工心肺業務含む) 6件
- 補助循環装置管理料
- 血液浄化アフェレーシス療法業務 30回(HD・CHDF・DHP・腹水濾過再静注)
- ラジオ波腫瘍焼却術(RFA) 5件
- 手術室業務
- 内視鏡室業務
- ◆医療機器管理業務 (医療機器安全管理料1算定)
- 中央管理・点検業務
 - 輸注ポンプ・人工呼吸器・除細動器・全身麻酔器・閉鎖式保育器・血液透析装置
 - 補助循環装置(IABP・PCPS)・ペースメーカー・パルスオキシメーター・
 - 生態情報モニター・低圧持続吸引器・電気メス など
- 医療機器研修会開催 5回(病棟単位での研修会含む)
- ◆参加委員会 等

●医療安全推進室	●医療安全推進委員会	●医療ガス安全管理委員会
●医療機器整備委員会	●HCU運営委員会	●手術室運営委員会
●ER運営委員会	●災害対策委員会	●省エネ委員会
●医療情報システム委員会		●NESスタッフ

<令和6年度目標>

- 1) 管理機器における点検表の整備
- 2) 各臨床業務分野における知識・技術の向上



27. 看護部

看護部目標(2021年度～2023年度)

1. 倫理観のある心温まる看護を提供し、看護の質の向上を図る。
2. アセスメントに基づいた看護実践能力の向上を図る。
3. 看護要員の計画的な人材育成を図る。
4. 病院経営への参画を意識した看護要員の確保及び労務管理を行う。
5. 時代の変化に即応した赤十字看護師の役割を果たす。

2023年度 短期目標

1. 患者の意思を尊重した継続的な質の高い看護の実践をする。
 - ・受け持ち看護師役割の向上
 - ・病棟、外来看護師の連携強化
 - ・倫理的なカンファレンスの実施
 - ・看護記録の充実
2. タスクシフト／シェアを推進し、看護の専門性を発揮する。
 - ・応援体制の整備
 - ・業務の改善
 - ・看護補助者の教育と協働
 - ・他職種との協働
3. 新人教育、現任教育の継続的な支援と評価に取り組み人材育成を図る。
 - ・看護ケアの実践能力、コミュニケーション能力の向上
 - ・目標管理の推進
 - ・現任教育体制の整備
4. 感染対策を徹底した入院患者の療養環境を整備する。

管理者配置

2023年4月

看護部	看護部長	鈴木 佳子
	看護副部長	車田 真美
	看護師長(教育担当)	岩崎 睦子
	褥瘡管理者(看護係長)	佐藤 美絵 (皮膚・排泄ケアCN、特定行為研修修了者)
外来	看護師長 1F外来	渡邊 あゆみ(救急看護CN)
	看護師長 2F外来	安達 明美
	看護係長	小林 洋子 萩原 暁美 野地 静香 (がん化学療法看護CN)
HCU	看護師長	鈴木 安英 (クリティカルケアCN 特定行為研修修了者)
	看護係長	菅野智恵子
3 病棟	看護師長	武田 里美
	看護係長	吉田 和恵(感染制御実践看護師) 國分 朋子 田島 一樹(慢性心不全看護CN)
4 病棟 産科・婦人科外来 助産外来	看護師長	柳田 美穂
	看護係長	齋藤 幸恵 大槻 里美 橘 智寿子
5 A病棟	看護師長	武井 明美
	看護係長	佐川奈美子(認知症看護CN) 佐藤 裕子
5 B病棟	看護師長	三浦 将克 (脳卒中リハビリテーション看護CN)
	看護係長	八木沼裕子(摂食嚥下障害看護CN) 北原奈緒美(皮膚・排泄ケアCN)
6 A病棟	看護師長	清和 彩子
	看護係長	鈴木 牧子 安藤 敦子
6 B病棟	看護師長	菅野いづみ
	看護係長	今野 暁子(慢性呼吸器疾患看護CN)
手術室 中央材料室 麻酔科外来	看護師長	泉 弘子
	看護係長	三浦 愛(感染制御実践看護師) 本田 祐子
訪問看護ステーション	所長・看護師長	齋藤 泉

2023年度 看護部委員会・部会 メンバー表

委員会・部会	委員長	副委員長	開催日	HCU	3	4	5A	5B	6A	6B	外来	手術室	訪看
看護記録委員会		野地係長		片平 真由	角田 恵	赤井みゆき	阿蘇由美子	上杉 梢	鈴木 宏美	箭内 良磨	渡辺 和恵	小林 理恵	
重症度・医療・看護 必要度部会	武井師長	大槻係長	第3火										
クリニカルパス部会	三浦師長		適宜										
医療安全リンクナース会	武田師長	本田係長 萩原係長 吉田係長	第1金	野木 拓実	神子 美江	田島 真樹	金内 杏美	馬場 梢	伊佐美知美	渡邊 義文	近藤 沙織	佐久間由美子	
感染対策リンクナース会	安達師長	三浦愛係長 北村CN	第3金	北原 麻美	黒田 桃子	菊田 純子	渡邊 泰昇	山家 菜碧	高島 詩織	布施美奈子	成尾ありさ	斎藤 駿	黒沢真由美
褥瘡対策リンクナース会	菅野師長	佐藤美係長 (CN) 齋藤幸係長	第4火	相川亜里咲	菅野 陽子	渡邊由美子	野田 康代	渡部 友紀	牧野江美子	本間 香織	菅野 奏	本田 賀絵	高橋美千代
認知症ケア部会	佐川係長	北原係長 (CN)	奇数第1水	渡邊 厚子	野崎 美砂	石井 美咲	木村 琴乃	瀬戸 雅子	保住 朋美	飛田 依麻	神尾 泰子	伊藤紗也加	安田みどり
エンドオブライフケア 部会	清和師長	今野係長 小松CN 新國CN	奇数第2火	移川 美穂	東由 香里	我妻 美咲	三次あやみ	金澤 美咲	菅野 里子	小松真由子	新國 智子	八巻 美沙	中村 広子
摂食・嚥下障害ケア部会	三浦師長	八木沼係長 (CN) 佐藤裕係長	偶数第2木	山口 広夢	伊藤 廉	古俣紗由美	宮崎 遼人	渡辺七夏海	齋藤 文子	堀切 智子	佐藤 要子	高橋 潤	
現任教育委員会	岩崎師長	田島係長 (CN) 安藤係長	第2金	江畑 聖也	大須賀香織	中村 留美	野坂 雄史	高島 雄一	渡辺みなみ	八巻 歩美	佐藤 友里	鈴木 直人	
看護基準・手順 キャリア開発ラダー推進 部会	鈴木安師長	八木沼係長 (CN) 佐藤裕係長	第2金	江畑 聖也	大須賀香織	中村 留美	野坂 雄史	高島 雄一	渡辺みなみ	八巻 歩美	佐藤 友里	鈴木 直人	
新人教育委員会	車田副部長	鈴木安師長	係長会開催時	菅野智係長	國分係長	齋藤係長	佐川係長	八木沼係長	鈴木牧係長	今野係長	萩原係長	本田係長	
臨地実習指導者会	柳田師長	菅野智係長 國分係長	第1木	松野 祥子	渡邊 君枝	高橋 沙綾	南 栗	磯松 咲乃	高島 恵子	中沢 利樹	吉内 絵美	高野 都	
災害対策リンクナース会	泉師長	小林係長	偶数第2火	横山 郁美	安達麻菜美	佐藤あゆみ	菊地悠示郎	安斎 亜美	相良久美子	後村 隆晴	森田 直子	梅宮 誠	
CS委員会	渡邊師長	橋係長	第3木	芳賀 幸奈	菅野 忍	伊藤由佳子	菅野 綾子	渡邊ちひろ	小林 実央	穴戸まどか	秋葉 裕子	今野 歩美	
実践者キャリア開発ラ ダー認定委員会	看護部長 教育担当師長	看護副部長 教育担当師長											
管理者ラダー認定委員会	看護部長	看護副部長 師長		鈴木安師長	武田師長	柳田師長	武井師長	三浦師長	清和師長	菅野師長	安達師長 渡邊師長	泉師長	
看護補助者会	看護部	補助者会担 当	第2木		菅野ゆう子	齋藤 順子	瀬戸麻衣子	橋 麻紀	五十嵐恵子	菅野智嘉子			
職能団体連絡委員会	安達師長	小林係長		安藤 沙紀	長瀬 海	金成 美和	佐藤 良子	加藤 怜奈	佐藤 香葉	堀切 智子	小林 洋子	橋脇 聡美	
看護研究	車田副部長	鈴木牧係長											
看護部倫理委員会	看護部長	看護副部長 教育担当師長											

2023年度 師長会担当	看護補助者会担当 菅野いづみ	武田 里美	・看護補助者会の運営 ・研修会の企画運営 ・夜勤補助者の勤務表作成 ・補助者採用時の補助
	医療監査担当 安達 明美	武井 明美	・保健所監査、厚生局監査受審に向けての準備・調整、受診後の報告記録
	コスト担当 泉 弘子	清和 彩子	・コスト削減に向けての取り組みの発信 ・SPDの適正な管理の確認 ・省エネ委員会の出席

2023年度 看護部委員会・部会の目標 最終評価と課題

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
看護記録委員会	1) 患者が見える看護記録の継続とアセスメント力を上げる 2) 重症度、医療・看護必要度に関わる評価の質を向上する	・量監査に対し全スタッフへ周知したことと監査入力率は99.4%まで上がったが100%には至らず今後個別指導が必要である。質監査に關して10月よりクロス監査とした。委員が監査を行うのではなくスタッフが監査できるよう質監査の内容を周知することと日々の記録を見直すことが出来た。 ・全患者1日1回SOAPによる看護記録記載を行い根拠のあるアセスメント力を養うために各病棟事例を持ち寄り内容の確認等を実施、内容を各病棟へ委員から発信するようにしていたが全スタッフへの周知までとはいかなかったが記載することの習慣化はできている。 ・看護サマリー活用は各病棟、外来との内容の実例紹介は目標値以下だったがサマリーでの連携が定着し始めている。継続を要する。 ・パス監査は現在記録委員と医事課にて行っているためパス監査は医事課へ依頼しパスの適正化の検討とすべきか、パス部会での活動もあるため検討を重ねたい。 ・看護必要度は現在B項目のみの入力になっているためか、テスト正答結果が低い状況であった。今後の動向を踏まえながら評価精度を維持していく。	業務の中で看護記録に費やす時間は各勤務から得る情報より看護は成り立っている。記録の簡略化ではなく残す記録の場所を残るよう看護性のある看護が記録に残るよう看護記録の質の面を強化する。また、電子カルテの活用、連動についてシステム課と協働する。 看護サマリーの形式に関して複数枚にならないように見直しを行い、変更後の評価へ繋げる。
医療安全リンクナース会	1. 看護を安全に提供するための環境づくりを支援する 2. 看護を安全に提供するためのスタッフ教育を行う	・リンクナースが自部署のヒヤリハットを把握しリンクナース会で共有し対策などを話し合うことが出来た。話し合った中で必要時、安全推進室師長へも相談し対策を検討した。また、KYT訓練やなぜなぜ分析を各部署で行いスタッフのリスク感性の向上を図り、委員会の中で他部署の取組みを共有することが出来た。KYT訓練に関しては各部署の取組みをこれからマイページで全看護スタッフへ配信する予定。 ・身体拘束カンファレンスの質の向上を目指し、各部署の身体拘束カンファレンスの事例をリンクナース全員で検討した。認知症看護認定看護師にアドバイスをもらいながら徐々にポイントを押さえたカンファレンスが出来るようになってきた。	・リンクナース会で共有したヒヤリハットやKYT訓練、なぜなぜ分析をどのようにに部署へ伝達していくかが課題であり、今後リンクナースを巻き込みながら定期的に情報を伝達するような方策を検討する。 ・身体拘束カンファレンスについて、身体拘束に向けたカンファレンスが解除のようになっているが、継続して事例検討を行う。今年度は選んで事例を持参したものが今後は事例の選び方も検討する。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
感染対策 リンク ナース会	1, 標準予防策・感染経路別予防策を行い感染対策の徹底を図る 2, 感染対策教育を通して感染対策の充実を図る	・手洗いチェックを2回/年実施(実施率100%)し手洗いの重要性和手技の確認ができた ・個人アルコール製剤使用量平均185ml。病棟間での差があり133～239ml。また1回1患者あたりのアルコール製剤の使用回数平均は6.8回。10回を目標で声掛けしていたがなかなか上がらなかった。また手指衛生直接観察では適切に手指衛生がされた実施率は16.8%であった。多くの機会の手袋が手指衛生の代わりとなっていることが理由の1つだと思われる。今後も継続して手指衛生向上に取り組んでいく。 ・eラーニングを活用し感染対策に必要な知識を身に付けることができた(受講率100%)	・アルコール製剤使用量の増加と1回1患者あたりのアルコール製剤の使用回数を10回以上になるように対策を考える。 ・手洗いチェック・環境チェック・eラーニング学習を継続し感染対策の知識と技術習得を継続する。 手指衛生が適切な6つのタイミングで各々が確実に実施できるように対策を考え取り組む。
褥瘡対策 リンク ナース会	1. 褥瘡発生予測リスクアセスメントを実践・指導が行える。 2. 部署内の創傷事例を通して、予防・治療ケアの実践を学び、チーム内で情報共有が行える 3. 深部静脈血栓症予防機器使用に必要な観察、使用時の予防対策の実践・指導が行える 酸素療法関連機器使用に必要な観察、使用時の予防対策の実践・指導が行える	1. 評価平均実施率98.3%。前年の97.7%よりはわずかに上昇。7部署中6部署で評価実施率は上昇できた。 2. 8部署・8症例の症例報告を行った。今年度は、院内発生症例(2症例)に対して問題提起し、自部署内で対策などカンファレンスを行うことができた。 3. 記録監査実施。医師指示未確認・無し状況で弾性ストッキング着用現状は、安全管理室・システム課・看護部の協力を得て医局会を通し医師への周知を実施。記録不備等が多いが、医師指示無しでの創装着件数は減少した。 経鼻酸素カニューラによる圧迫創傷発生事例から、医療機器の規格・使用方法を安全管理室と対応し周知実施。	次期、機能評価受審や適時調査等でカルテレビューが求められる。ケア実施記録、看護計画、実践ケアの評価・教育が重要である。 1. 患者様の安楽及び褥瘡予防の体位変換変更における、ケア実施定着・ケア用品(マットレス、介助グローブ等)の確認ラウンド等を検討する。 深部静脈血栓症予防機器使用時の観察記録をはじめ、褥瘡予防・治療計画内容、リスクアセスメント等の記録評価を検討する。
認知症 ケア部会	各部署の看護師が認知症ケアに関する学びを共有し、看護計画を展開し、尊厳ある看護が提供できる	・認知症アセスメントシート作成について、フロー通り作成されていない割合が昨年度より1～2割程度減り、徐々にフロー通りに作成されるようになってきている。 ・看護計画の評価・修正等は、各病棟で評価日を決めて概ね実施されているが、時折抜けることもあった。 ・認知症ケアチーム依頼内容について、アセスメント内容が記載されていない場合の方がやや多かった。 ・ペーパーペイシエントでの倫理事例検討では、アセスメントが概ね出来るようになってきているが、現場のカンファレンス内容は看護師視点で記載されているものがある。 ・期限内の視聴、テスト100点達成に至っていないスタッフがあった。	・引き続き、認知症アセスメントシートのフローに沿った作成、計画評価、認知症ケアチーム依頼内容について適切に実施できるよう、部会での評価周知・声掛け、個別の声掛けを行う。 ・倫理事例検討の適切なアセスメントについて、リンクナースからスタッフへの周知が必要である。 ・eラーニングについて、次年度は途中経過の評価を行い、期限内の視聴・テスト実施を目指す。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
エンドオブライフケア部会	1. 終末期の事例を振り返る事でエンドオブライフケアの質の向上に繋げる事ができる。 2. エンドオブライフケアと緩和ケア委員会(緩和ケアチーム)が連携した活動を行う事で質の高いケアが提供できる。 3. 終末期看護ケアの質の向上に向けて、部員が働きかけていける。	1. 部会内で終末期の事例を作成し、各部署で事例をもとにカンファレンスを行い、終末期看護に関する話し合いの場を提供した。各部署でカンファレンスを実施することで、活発な意見交換とあった。 2. 緩和ケア認定看護師の提案により、普段関わる患者の終末期の緩和ケアで悩んでいる事例や、困っている事について話し合う時間を部会内で作った。この活動により、部会委員が緩和ケア認定看護師に介入依頼を行う件数が増加した。 3. 終末期看護に関する看護基準の見直しを部会委員が担当箇所を行った。また、終末期の看護に関する新人研修を計画通りに企画・運営した。	1. 毎年開催している作成事例のカンファレンスの開催方法の再検討をし、より効果的な意見が聞かれる場にする。 2. 今年度新たに行なった取り組みがあり、来年度も継続して行いたい、目的と評価方法をより明確にして取り組んでいく。 3. 看護基準マニュアルの修正の入力実施まで至らなかったため、来年度は修正版の完成を行い、看護実践に活用できるようにする。
摂食・嚥下障害ケア部会	① 経口摂取開始時の摂食嚥下機能評価実施率の向上を目指す ② 摂食嚥下障害看護に関する知識と技術の維持を目指す	・ 経口摂取開始時の実施率を可視化し、さらにデータの正誤性を評価した。できない要因について各自呼びかけを行うことで、未実施率70.3%から58.7%に低下した。 ・ eラーニング2項目の100%視聴とテスト100点の実施できた ・ EATの評価報告書について勉強会を1回実施できた。しかし、カンファレンス参加への調整ができなかった。	経口摂取開始時嚥下機能評価は、来年度以降も不定期で実施し、未実施率が増加しないようにする。EATやNSTの活動が患者のケアにつながるような活動をケア部会で検討する。
現任教育委員会	I-1. 看護実践者としての能力の向上を目指す、自己研鑽することができる場を提供する 2. IVナースの研修会の運営を行い、適切な知識、技術をもった看護師を育成する 3. 急変時対応に必要な知識技術を習得できる II-1. 3年目看護師が事例を振り返り、自己の看護について学びを深めることが出来る 2. 看護研究を通して看護の質の向上を図る III. 質の高い看護を提供するために院内の看護基準・手順を整備する	I-1、2、3に対して、予定通りの研修内容を実施できた。看護部の目標に沿った研修の実施は出来ている。レベル別研修では、キャリア開発ラダー取得予定者は受講できている。3の急変時シミュレーションについては参加人数のばらつきがあった。 II 1について、今年度より2、3年目の看護師に対して、ローテーション研修、フォローアップ研修を実施した。受講者の反応も良好であり、教育委員会としてどのような看護師になっほしいか、成長してほしいかなど目標が伝えられた。また3年目看護師に対してのケースレポートでは、本人たちだけでなく指導する側の研修も取り入れ、レポート内容の充実がはかれていると考える。教育委員の質問なども成長を促すことができると考える。教育委員会として成長を手助けする姿勢も見られた。 IIIに対しては今年度看護計画に見直しリストを作成した。来年度作成予定である。	看護師の育成目標に沿った研修プログラムの作成と運営を来年度も実施する。今後は研修の成果を何で評価するのかなど検討が必要である。また、急変時シミュレーションの実施方法について1月1回の部署もあれば年1回全員参加でない部署もあった。実施方法、頻度、参加者などについて検討が必要である。 IIについては引き続き継続していく。リーダーや委員だけでなくスタッフ全員が教育できるような環境づくりを目標に今後も進める。 IIIについて来年度は看護計画の見直しと指示の紐付け作業を進める。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
キャリア開発ラダー推進部会	推進メンバーが質の高い看護を提供できる看護師を計画的に育成する	- 実践者ラダー申請予定者に対する実際の申請者は97.6%。その中で認定者は95%の38名が修了した。 I 9名 II 22名 III 6名 IV 1名 【管理 I 1名】 - 実践者ラダー(レベル I)取得を目指すスタッフ支援について、キャリア開発ラダー推進部会メンバーの手引きを作成した。部会メンバーで分担し支援のポイントや流れについて確認し作成しており、部会メンバーのラダーに関する知識や支援力の向上に繋がった。 「実践者ラダー申請日程表」を活用したこと、同僚評価会の設定や資料の提出が予定日を目標に実施されるようになった(85.0%提出)。 - 推進メンバーへ部署内で相談するよう声掛けし、各部署次年度のラダー申請予定者を年度内に提出している。	- 各部署の申請予定者をもとに年間計画を立て、計画的な支援を継続する。 「推進部会メンバーの手引き」や「実践者ラダー申請日程表」の活用について師長係長で共有し、ラダー取得(申請、評価、書類確認)に関連する支援を徹底する。
新人教育委員会	- 新人看護教育計画に沿って教育研修を行い、新人看護職としての基本的姿勢・態度・基礎看護技術の習得を支援する - 実習指導に必要な知識・技術・態度を習得し効果的な実習指導ができるよう支援する	- 新人看護職員看護計画は、看護実践能力に活かすことを目的とし、フィジカル・アセスメント研修を継続して取り入れた研修を企画した。OJTにおける習得内容について部署統一を図るために、OJT内容を事前に周知し、集合研修を開催し技術習得の支援をした。また、新人看護師が関わったヒヤリハットについては集合研修内で共有し対策について研修する時間を都度設けた。アセスメント力の向上を目的として、昨年度からベア受け持ち方式を導入し、新人1人あたり2例の看護展開を行った。プリセプター研修は3回実施し、指導や関わり方に対するの悩みや不安の共有を行った。 - 臨地実習については、委員会内で実習目的や指導方法、注意点を事前に周知し、実習後に振り返りを実施した。	- 次年度の新人看護師の特徴や看護教育、医療体制、福祉の動向を踏まえた集合研修を企画・運営する。OJTについては、全病棟で統一した指導と新人看護師の育成が出来るよう委員会内で説明や周知を行う。また、今年度新たに導入した研修やベア受け持ち制について再度評価し検討する。 - OJTや集合研修へ関わりを通して新人教育担当者の育成を図る。 - 新人看護職員研修内で使用しているレポート用紙、評価表等の見直しを行い、電子化の検討を進める。 - 臨地実習の目的、内容、実習指導者が求められる能力や指導方法について研修を行い教員と連携して実習をサポートする体制作りを目指す。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
クリニカルパス部会	部会メンバーが多職種と連携しながらクリニカルパスを推進し、正しい運用について知識を高める。	- 当該パス修正内容の内訳をアンケート調査で収集した。修正や見直しが行われている一方で、複数部署に関わるパスは、修正の窓口や責任がどこになるかはっきりと決められておらず取り組み疑問が生じた。 - 部会で対面での意見交換や情報共有が今年度出来なかった。	- 複数部署で使用するクリニカルパスの修正・見直し方法を検討する。 - アウトカム入力漏れに対する監査を行い、改善策を考えていく。 - クリニカルパスに関する疑問を抽出し、勉強会を開催していく。
災害対策リンクナース会	スタッフの減災意識を高め、災害発生時において患者の安全を図り迅速かつ円滑な対応ができるようにする。減災、救護活動に必要な知識と技術の習得を支援し、常に救護体制を整備する	常に連絡網は最新のものに更新するように整備し、例年通り伝達訓練を実施し、結果をフィードバックすることが出来た。 リンクナース中心に、毎月日常における災害対策チェック、防災チェックを実施。災害パトロールを通じて各部署で出来ていなかった箇所を改善するよう啓蒙した。 災害用備品の整理整頓、5S活動を実施。 院内災害訓練の参加、院外の災害訓練等に多く参加することが出来た。救護員養成研修を計画的に開催し11名の救護員が研修過程を終了し、登録予定である。 令和6年能登半島地震の救護活動については、実働経験したことのない救護員も多く活動することが出来た。	継続した防災設備の点検、パトロールを実施する。 救護資機材の見直し、整備を行う。 院内外の救護訓練等の参加の協力をする。 令和6年度救護員養成研修の運営を行う。 災害救護活動の振り返り、まとめを行い次の活動に活かす。
CS委員会	接遇マナーの向上を図るとともに、患者様やご家族のご意見をもとに優しくして安心な病院をめざす	①接遇研修会eラーニング(新規)配信、100%視聴 ②身だしなみチェック2回実施。他者チェックによって啓蒙 ③ご意見箱の意見から改善を5件実施。点滴スタンドの購入に至った。	今年度実施したことを継続して行う。特に身だしなみや接遇マナーに関してより力を入れる。
看護補助者会	1、他職種と協働し安全で安心な療養環境を提供する 2、感染対策を徹底した療養環境を提供する	- 安全で安心な直接ケアを看護師と共に提供できるよう今年度は「移動のお世話」についてナーシングメソッドの視聴とテスト、リハビリ課による講義と演習、振り返りレポート提出までリンクするよううに実施した。アンケートでも演習できたことで理解が深まったという意見が多くあった。 - 他職種と協働するため、各自メンバースhipについて考えてもらいレポートを提出してもらった。2月に次年度の行動につなげられるように自身で考えるメンバースhipについて一年間行動できたかの振り返りを行う。 - 療養環境の提供については、各部署で5S活動を行った。成果発表会では全部署で取り入れても良い内容もあり、情報共有ができ、次年度の課題が見いだせた。	- 直接ケアに関しては、アンケートで「口腔ケア」「食事のお世話」などが上がっており、他職種と協働しながら研修を行う。 5S活動は継続して実施し、今年度の活動で全部署共通で出来そうなものを整理し実践する。 - 看護師と協働するために必要な考え方や行動について考える機会をつくり、安全で安心なケアの提供に繋げる。また、看護師側の補助者との協働についてe-ラーニング以外の教育も現任教育と検討する。
コスト削減・省エネ担当	用度施設課と協働しコスト削減・省エネ活動を継続する。	定期的な省エネパトロール実施。省エネ委員会で共有した。部署で医療材料事故伝票の報告をするように啓蒙した。	内容を検討し、問題提起・分析・計画・実践できるような取り組みに協力する。

2023年度 看護部各部署の目標 最終評価と課題

部署	目標	最終評価	次年度の課題
HCU	急性期医療・重症集中医療を要する患者に対して、適切な医療・看護を提供する 1)クリティカル領域における専門的知識・技術の向上を図り、適切な看護を展開できる。 2)クリティカル領域から退院後の生活を見据えシームレスな看護を提供できる。 3)クリティカル領域に則した職場環境を整える。	・系統別チームと勉強会係が協働して、勉強会を工夫して実施することが出来た。スタッフの経験年数やレディネスに合わせた研修を企画した。 ・シームレスな看護の提供のために術前訪問だけでなく退院後訪問を開始した。しかし介入対象者、介入方法など検討段階であり、今後実施件数を増やしていく。 ・器材定数、物品配置などだけでなく、勉強環境を整えるため、雑誌だけでなく教科書なども購入し、最新知見を知る環境を整えた。	・継続した勉強会の開催と知識の定着化を図る。基礎研修修了後、トランプシミュレーションの実施など臨機応変に対応できる人材の育成を図る。 ・新入職看護師の教育体制の再構築を図る。 ・以前作成した教育プログラムを見直し、現状に合ったプログラムを構築する。 ・知識面だけでなく、技術面の学習を図れる環境を整える。
3病棟	患者・家族に寄り添った尊厳ある質の高い医療と看護を提供する 1. 質の高い看護の提供 ・固定チームナースングを理解し実践する ・患者、家族の意思決定を支援する ・倫理的視点を高め、患者の安全なケアな看護を提供する ・アセスメント能力と看護実践能力向上を図る 2. 多職種や地域と連携した入退院支援 ・カンファレンスを充実させ、協働性・継続性のある看護を提供する 3. 感染対策の徹底 ・感染対策を徹底し、患者の療養環境を整える	・生活指導や意思決定支援に関する受け持ち看護師主体のカンファレンスや事例検討が出来るようになってきた。また、受け持ち看護師が不在でも伝言板を活用してカンファレンスや事例検討ができた。カンファレンスを活かした個別性のある看護計画修正まではできなかった。 ・アセスメント能力と看護実践能力向上のため急変時シミュレーションや勉強会を開催したが計画通りでないものもあった。外来の小児科のミニ勉強会に参加し小児の急変対応について学び、また看護協会の急変対応や心不全看護の研修、他の院外の研修に参加し能力向上に努めることが出来た。 ・救急チームでも入院時から退院支援の視点が持てるよう勉強会を開催し、入院時にできるだけ退院支援に必要な情報を集め日々スタッフが変わる中でつながらるよう伝言板を活用し情報共有できた。	・受け持ち看護師主体のカンファレンスの継続と定着に向け方法を検討する。カンファレンスを活かした個別性のある看護計画修正まで繋げられるようにする。 ・救急病棟に入院する患者を3Fスタッフ全員がケアできるような様々な疾患の勉強会を開催する。個人で参加した研修のプレゼンテーションの場を作り、病棟スタッフが共有できるようにする。

部 署	目 標	最終評価	次年度の課題
4 病棟	- 産科領域の技術やアセスメント能力を向上させ、妊産婦のニーズに寄り添った助産ケアの提供をする。 - 患者様の意思決定を尊重する看護の提供をする。 - パスの効率化を図り、質の高い看護を提供する。 - 働きやすい職場環境を整え、安全で質の高い看護を提供する - 専門的知識とアセスメント能力の向上につとめ、質の高い看護を提供する - 感染対策を考慮し患者様の療養環境を整備する	- 産科休止となった10月まで、NCPRやグレードA帝王切開についての勉強会やシミュレーションを実施し安全な分娩や助産ケアに努めた。 - 婦人科クリニカルパス定期的に見直し修正を行い、効率化を図った。 - 産科休止後の病床運用を見据えたチーム編成の見直しや業務内容の修正、チーム間統一を図った。 - 多診療科の勉強会の企画・実施、倫理カンファレンスや受け持ちカンファレンス、多職種カンファレンスを定着させ、ケアの統一や看護する中でのジレンマの共有、質の高い看護の提供に努めた。 - 病室内や患者様のベッド周囲の感染対策を考慮した環境整備を実施した。	- 働きやすい職場環境の整備、安全で質の高い看護を提供するため、チーム編成や業務内容についての現状分析を行い、評価修正を行う。 - 病棟で対応する多くの診療科についての専門的知識とアセスメント能力の向上を図ると共に、受け持ち看護師としての役割意識を高め、個別性を重視していくためのカンファレンス、退院支援の充実を図る。
5 A 病棟	- 受け持ち看護師として個々の役割を理解し、患者様に責任を持ち個別性のある質の高い看護につなげる - 個々の患者背景を考慮した、安全・安心な療養環境を常に心掛ける	- 固定チームナースニングの理解を深める目的で勉強会を開催、受け持ち看護師の役割を全スタッフに周知、さらに受け持ち看護師が実践できているか可視化するためのチェックリストを作成、実践することので日々のカンファレンスで主体的に取り組むことが出来た。 - 受け持ち看護師としての自己評価を前期・中期・後期と実施したこと受け持ち看護師としての役割意識向上につながった。しかし、基本であるベッドネームに名前を入れることが54%止まりであった。 - 安全で安心な療養環境を提供するためには環境整備を小集団の取り組みの一つとして取り組んだ。ベッド周囲の環境整備の見本を作り毎週ラウンジを行い実践してきた。患者背景を視野に入れ、車椅子・歩行器などが入りやすいようベッド左右の広さを考慮すること転倒、転落リスクの回避に努めた。今年度年間転倒件数27件(1月現在、昨年度より減)であった。患者アンケート回収率を上げること振返りが出来ると判断し、患者へ渡すタイムミンゲを取り決め平均59.7%の回収率で目標60%には到達できなかつた。年々評価が上がっていることは看護の質の評価と可視化できる一方、指摘事項に対して真摯に改善策に努める。	- 患者、家族に寄り添い添い温まる看護の提供とは、質を上げるために行われる支援とは何かを看護師一人一人の看護観と照らし合わせ、自ら主体的に取り組めることのできるスタッフを育成する。 - 現状分析を細やかに行い、効率化、協働を図りタイムスケジュールの見直し、カンファレンスの内容、記録内容、質向上を検討する。 - スタッフからの提案を取り入れ、活気があり互いを認め合う病棟づくりを目指す。

部 署	目 標	最終評価	次年度の課題
5 B 病棟	1. 疾患だけに着目せず、合併症も予測したフィジカルアセスメント能力の向上と予防ケアの実行 2. 受け持ち看護師の意識を高め、協働性・継続性がある看護に結びつける 3. お互いが支え合い、やりがいと達成感を持てる環境を整備する	・当該診療科に関する勉強会・急変時シミュレーションを計8回、個人自己研鑽として協会研修参加96.3%(退職者、感染罹患のため欠席除けば100%)実施できた。 ・様々なカンファレンスをを行い、情報の共有・ケアの統一性、継続性に結びつける取り組みを行った。これらを通じ受け持ち看護師としての役割・意識をアンケートで集計した結果、多くのメンバーが良い向上につながった。 ・安全保護対策実施者にショートカンファレンスやフォローを基にアセスメントし削減に努めた。 ・業務改善の一環に当該クリニカルパスの見直しを行った。耳鼻咽喉科は今年度見直しを終了、泌尿器・脳神経外科は現在も修正中。 ・SPD棚の定数見直し、医療材料の定数・商品をファイン化した。	時間の確保・やりがい・質向上・チーム協力体制の強化に着目したアクションプランを病棟全体で立案する。
6 A 病棟	1. 受け持ち看護師が中心となつて、より良い療養環境を提供する。 2. 感染病床と一般病床が混在する環境下でも、患者の安全を守った看護提供ができる。 3. 病棟内の学習環境を整える。 4. 分かりやすく収納し、作業効率を上げる。	・受け持ち看護師の役割を明確化し、患者に責任と継続したケアを提供するため小集団活動を行った。受け持ち看護師発信のカンファレンスを定着するため、他職種カンファレンス実施までの流れを作成した。活動により自宅退院困難な患者が自宅退院でき、現在も自宅で生活している。看護指示を整え清潔ケアの質を改善すること、受け持ち看護師の清潔ケアに対する満足度の向上がみられた。業務を見直し、受け持ち看護師の役割が分かる業務分担表に改善した。 ・せん妄リスク患者のカンファレンスを実施し、症状発症予防したことで、せん妄発生率が低下した。また、身体拘束使用の低減のため身体拘束患者の家族に説明を行い、情報共有と不安の軽減に努めた。 ・現任教育委員が中心となり、病棟に必要な疾患、治療看護に対する勉強会を定期的に開催した。担当者を割り振り、講師をスタッフで担った事でそれぞれの学びになった。 ・病棟の仕様の变化に伴い、物品収納の配置や表示など看護補助者が中心になり、看護師の動線に合わせ整理、整頓を行った。看護師による物品に関する問い合わせがなくなり、作業効率の改善につながった。	・多職種カンファレンスままでの流れを提示し、行動の定着はしてきたがカンファレンスの内容の評価に至っていない。受け持ち看護師主体の事例の振り返りを行う。清潔ケアに関しては、患者の満足度を評価する。また、改善した業務分担表に沿った行動により評価を行う。 ・身体拘束使用0に向けて更なる取り組みを考え実践する。 ・継続的に学習の機会を設け、病棟全体の看護の質向上に繋げる。 ・看護師と看護補助者との協働業務を洗い出し、業務の効率化を図る。

部 署	目 標	最終評価	次年度の課題
6 B 病棟	チーム医療を推進するために専門性を発揮し、倫理観のある医療と看護を提供する 1. 周術期看護の統一したケアを提供する 2. 個別性のある看護を継続的に提供するため、看護記録の充実を図る 3. 多職種カンファレンスを実施し患者・家族の意思決定支援を推進する 4. 勉強会を実施し専門的知識の習得や技術向上を図る	チーム医療を推進するための、医師を交えた定期的な多職種カンファレンスは定着してきている。カンファレンスの内容分析を実施した結果では、治療方針やケアの方針だけでなく、終末期医療についてなど、倫理的視点での話し合いも行えるようになってきている。また、倫理コンサルテーションも3事例行い、治療方針の決定や意思決定支援、退院調整に繋げることができた。 外科チームの取り組みでは、周術期看護の統一したケアのために手術チェックリストの作成、スタッフ全員が技術チェックを受けて、手術チーム管理では病棟スタッフ全員が技術チェックを受けて、手術習得をすることができた。 医師や各認定看護師を講師に迎え、急変シミュレーションや呼吸管理の勉強会、緩和ケア認定看護師が中心となって開催したデスカンファレンスを実施したこととでスタッフのアセスメント能力や看護実践能力の向上に努めることができた。	スタッフが固定チームにおける受持ち看護師として個別性のある看護を継続的に提供するため、看護計画の評価修正を行い、看護記録の充実、退院支援へとつながるよう取り組めるよう支援する。 病棟の特性に応じた専門的知識、技術習得のための勉強会は継続する。
訪問看護	1. 利用者が住み慣れた自宅で安心して過ごせるよう支援を実践する 2. 訪問看護の質向上を図るための体制作りを行う 3. 地域連携を強化し利用者のニーズに沿い、統一した支援を提供する	1. 在宅看取り利用者12例のナラティブ本を作成する。 QCサークルで発表し成果の報告を行うことができた。 認知症対応能力向上については、認知症専門看護師による勉強会を実施することができた。症例検討については目標数を実践できなかった。 2. カンファレンスについては定着し3回/週実施することができた。 カンファレンスの記録忘れが後期になり目立つようになっていった。 看護業務マニュアルに関しては、作成リストに掲げたマニュアル(BCP含む)は完成した。 3. 自己研鑽研修はスタッフが1回以上参加できていた。 勉強会系の研修企画がおろそかになっていった。 地域連携に関しては所長が主となってしまい、個々のスタッフが密にかかわることは少なかった。	意思決定支援・認知症対応支援の充実を継続する。 カンファレンスについては定着してきているので、記録の仕方や質向上に力を入れる。 地域の多職種連携に関しては、スタッフが自発的に連携できる組織作りが必要である。問題点を明らかにし解決できるよう取り組む。 自己研鑽研修は継続する。 BCP訓練と見直しを次年度計画的に実施する。

部 署	目 標	最 終 評 価	次 年 度 の 課 題
手術室・サプライ	【患者の思いに寄り添い、安全安楽な手術看護を実践する】 1. 安全・安楽な医療・手術を提供する。(医療安全の強化・感染予防対策・多職種連携を図る) 2. 手術看護記録の質の向上。チーム間での情報共有・アセスメント能力の向上を図る。 3. 現任教育・新人(異動者)の教育支援。 4. コストを意識した物品管理を行い、安全な医療材料の提供を行う。 5. 働きやすい職場環境を整える。目標管理と労務管理。 6. 正しく滅菌物を管理し、安全な医療材料を提供する。(中材)	手術後の一般機械の紛失については、昨年から取り組みを継続してカウント方法見直しダブルチェックを強化したことにより紛失が大幅に減少した。 ・0～1レベルヒヤリハット報告件数が増えるようスタッフへ管理者・安全委員が中心となり指導した。 ・手術部位感染(SSI)に対し手術室看護係(感染制御実践看護師)感染管理認定看護師と協働し医師に協力を得ながらデータを抽出することができた。 ・手術室看護記録の量的監査の継続。質的監査表の見直しと実践までにはいたらなかった。 ・術前後訪問の結果を手術看護記録の中から分析し次の課題や看護ケアを見直すきっかけとなった。 ・異動者に対して継続的に振り返りを行い、具体的な実践計画を提示し支援を行った。現任では新しい手術に対して、医療機器・材料に関する勉強会を定期的にを行った。 ・医療材料の事故伝票をチームで積極的に報告し内容の分析を行いフィードバックすることができた。 ・コスト削減に繋がりQC活動の発表をすることができた。 ・各科医師や多職種と連携を図り効果的な手術室運営ができるようスケジュール調整を行った。 ・正しく滅菌できるように勉強会を定期的に開催。マニュアルを見直し、マニュアルを見ながらセットを包装できるようになった。 問題が起きた時には状況を把握・分析し改善するようにした。(中材)	・医療安全では0～1レベルの報告件数が増え内容など傾向が可視化できたが、それらを分析し改善策を見出し次年度の活動に生かしていく。 ・SSI結果は今後も感染管理認定看護師と協働してする。 ・質監査の見直しと、結果をフィードバックし看護記録の記載について教育する。 ・術前後訪問から患者のニーズを把握し看護ケアを実践・SOAP記録に残す。病棟や多職種とも情報共有し症例カンファレンス等充実させる。 ・継続教育、医療材料のコスト削減、手術室運営、中材による継続教育と正しい滅菌を管理するについても継続して活動する。
外来	①倫理的視点を持って患者様の意思決定を支援し、継続看護を提供する ②患者様から選んでいただける病院になるために、質の高い接遇マナーとホスピタリティを実践する ③思いやりの気持ちで、業務改善と応援体制の整備をする	①CNを中心に工夫を凝らしながら倫理カンファレンスを実施した。また、合同カンファレンスへの参加とともに継続看護のための情報共有を行った。 ②部署内で接遇研修会を実施した。 ③曜日ごとの応援体制の整備を実施した。業務改善計44件。特にERにおける情報共有は、安全や効率化に役立っている。	今年度の目標の継続と、質の向上を目指す(業務改善の内容、合同カンファレンスにおいて専門的意見を述べる、主体的な倫理カンファレンスの実践と内容など)。

令和5年度新人教育研修

新人看護師 16名 担当：新人教育委員会

NO.	研修名	開催日	参加人数
1	感染管理の基本～標準予防策～	4月5日(水)	16名
2	他部門ローテーション研修	4月中	16名
3	プリセプター研修	4月6日(木)	9名
4	基礎看護技術①	5月13日(土)	16名
5	NPPVの管理方法の実際を知る	5月24日(水)	9名
6	3ヶ月フォローアップ研修	6月1日(木)	16名
7	基礎看護技術②	6月17日(土)	8名
8	基礎看護技術③	7月15日(土)	16名
9	基礎看護技術④	7月29日(土)	16名
10	医療安全研修	8月4日(金)	15名
11	基礎看護技術⑤	8月26日(土)	16名
12	急変時シミュレーション 脳外科フィジカルアセスメント	10月20日(金)	16名
13	6ヶ月フォローアップ研修	11月2日(木)	16名
14	第1期ローテーション研修	12月(1名/日)	16名
15	終末期の看護	1月10日(水)	16名
16	1年の振り返り	3月7日(木)	16名

令和5年度(2023年度)看護部教育研修実績

1. ラダーレベルⅡ相当研修

令和6年3月31日

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
急変時対応	急変時に素早く対応する能力を高める	現任教育委員会 (各部署毎)	4月～	各部署内、シミュレーション等	延べ134名
ケースレポートを支援するために	対象のケースレポートをチームで共有し、看護観を深められるように支援する	現任教育委員会	5月12日	研修棟3階	看護職員22名
ケースレポートのまとめ方	ケースレポートをまとめることで自己の看護観を深める	現任教育委員会	5月19日	研修棟3階	看護師25名
認定看護師によるケースレポート発表会	3年目対象看護師の支援として、認定看護師の発表から、ケースレポートのまとめ方や発表態度を学ぶ	現任教育委員会	8月25日	研修棟3階 マイページ	看護師20名
第Ⅱ期ローテーション研修	救急医療の実際を経験することで、救急医療施設としての役割を知り、自部署での臨床看護実践に活かす	現任教育委員会	12月	ER	2年目 看護師8名
第Ⅲ期ローテーション研修	在宅医療の実際を経験することで、在宅医療の役割を知り、自部署での臨床看護実践に活かす	現任教育委員会	6月～8月	訪問看護	3年目 看護師16名
フィジカルアセスメント 呼吸編	身体的健康上の問題を明らかにするために必要な基本的なフィジカルアセスメント能力を高める	現任教育委員会	6月9日	研修棟3階	看護師22名
フィジカルアセスメント 循環編	身体的健康上の問題を明らかにするために必要な基本的なフィジカルアセスメント能力を高める	現任教育委員会	7月14日	研修棟3階	看護師18名
フィジカルアセスメント 脳神経編	身体的健康上の問題を明らかにするために必要な基本的なフィジカルアセスメント能力を高める	現任教育委員会	9月8日	研修棟3階	看護師18名
看護倫理	患者の意思が尊重され最善の意思が決定されるよう支援する能力を高める	現任教育委員会	8月2日	研修棟3階	看護師28名
グローバルヘルス	自施設のある地域のアセスメント能力を高める	現任教育委員会	2月	マイページ	看護師249名

2. ラダーレベルⅢ相当研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
フィジカルアセスメント	臨床推論を学び、看護実践に結び付ける方法を学ぶ	現任教育委員会	10月13日	研修棟3階	看護師13名
看護倫理	実際の症例を検討し、実践方法について考えることができる	現任教育委員会	11月10日	研修棟3階	看護師10名

3. 専門コース(IVナース養成研修)

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
①導入の意義と継続教育の概要	・IVナース導入の意義と役割について学ぶ ・静脈注射を安全に実施するために必要な養成研修及び継続研修プログラムについて知る	現任教育委員会	11月1日 配信開始	e-ラーニングによるオンライン研修	静脈注射に関わる看護師全員受講 302名
①安全対策と事故防止	・静脈注射実施における法的責任と関連法規について学ぶ ・静脈注射実施時におけるインフォームドコンセントと倫理的配慮について学ぶ ・静脈注射における安全対策と事故発生時の対応について学ぶ				
②感染管理	・静脈注射実施時における感染対策を学ぶ ・器具・器材の適切な選択、取扱いと管理について学ぶ	現任教育委員会		e-ラーニング	302名
③静脈注射の実際	・静脈注射に関する基礎知識を学ぶ(種類、投与方法等) ・静脈注射の観察ポイントを学ぶ ・静脈注射に伴う合併症と予防とその対処方法について学ぶ	新人教育委員会	新人教育研修に参加		302名
④薬剤の基礎知識と管理	・静脈注射に関する基礎知識を学ぶ(種類、投与方法等)	現任教育委員会 (医療安全)		e-ラーニング	302名
⑤静脈注射に使用する医療機器	・輸液ポンプ、シリンジポンプの取扱い、注意点について学び、安全に使用することができる				
⑥輸血用血液製剤	・輸血用血液製剤の種類と用法、輸血の副作用と安全対策について学ぶ	現任教育委員会 (輸血療法委員会)		マイページ	280名
⑦体液管理	・輸液療法における体液管理について学ぶ ・循環器で使用する特殊薬剤の種類と使用方法、観察のポイントについて学ぶ	現任教育委員会		e-ラーニング	280名
⑧アナフィラキシー	・アナフィラキシーショックの原因・症状・治療について学び救急時に対応できる	現任教育委員会			280名
⑨薬剤の知識と管理	・抗がん剤・麻薬・催眠作用のある薬などの知識、管理、使用方法、観察ポイントについて学ぶ ・循環器で使用する特殊薬剤の種類と使用方法、観察ポイントについて学ぶ	現任教育委員会		e-ラーニング	280名
⑩CVポートの抜針	・技術演習を通してCVポートの抜針について学ぶ	現任教育委員会		実技演習	302名

4. 院内インストラクター研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
静脈注射インストラクター	職場内での安全で正確な看護技術の提供の推進者となること ができる 役割モデルを発揮できる看護師を育成する	現任教育委員会	2月	e-ラーニング	師長推薦者 8名
必要度インストラクター養成研修	重症度、医療・看護必要度院内指導者研修を受講、合格し、各部署での指導を担えるものを育成する	重症度、医療・看護必要度部会	6月	オンライン研修	10名

5. 救護員養成研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
救護員養成研修	救護員看護師としての必要となる災害救護活動時の感染対策や知識について実際の事例を通して学習する	防災リンクナース			15名

6. 全体(その他の研修)

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
AHA BLS研修	一次救命処置の理解・習得		5月14日	研修棟3階	8名 院内推薦者
重症度、医療・看護必要度インストラクターフォローアップ研修	必要度の正しい評価方法を再確認し、必要度評価の精度向上につなげる	重症度、医療・看護必要度部会	10月24日	研修棟3階	院内インストラクター 9名
看護補助者との協働	看護師が看護補助者と協働するための知識と考え方について学ぶ	看護部	9月～12月	e-ラーニング	看護師286名
医療安全	看護師が医療安全の知識を高める	医療安全リンクナース会	6月～12月	e-ラーニング	看護師276名
摂食嚥下	摂食嚥下障害看護に関する知識と技術の維持を目指す	摂食嚥下ケア部会	7月～12月	e-ラーニング	看護師274名
重症度、医療・看護必要度	必要度評価の精度向上を図る	重症度、医療・看護必要度部会	9月～12月	e-ラーニング	9月 260名 12月 253名
感染対策	医療施設内で勤務する看護職員として標準予防策を理解し実践するための自己学習とする	感染リンクナース会	5月～6月	e-ラーニング	看護師274名
接遇・マナー	より良い看護サービスの提供ができる	CS委員会	5月～6月	マイページ	病院職員 610名
認知症・高齢者看護	認知症について理解を深め、認知症高齢者の安全と尊厳を守り個別性を考慮した看護を実践できる	認知症ケア部会	6月～12月	e-ラーニング	看護職294名

7. 看護補助者研修

研修名	ねらい	担当	日時	場所、方法	参加人数
今年度の看護部目標の説明	医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者業務を理解する	看護補助者会	4月13日	多目的ホール	全看護補助者13名
移動のお世話	日常生活に関わる業務	看護補助者会	6月8日	多目的ホール	全看護補助者12名
医療安全	看護補助者における医療安全について	看護補助者会	8月10日	多目的ホール	全看護補助者15名
感染防止対策について	看護補助者における感染防止について	看護補助者会	10月5日	多目的ホール	全看護補助者12名
認知症患者の対応	看護補助者業務を遂行するための基礎的な知識・技術	看護補助者会	12月14日	多目的ホール	全看護補助者15名

8. 看護管理者研修

研修名	担当	日時	場所、方法	参加人数
ベッドコントロールの実際 ～効率的・効果的な運用～徳島赤十字病院の例	病院	7月4日	集合研修	35名
臨床倫理における看護管理者の役割	看護部	9月13日	Web研修	14名
看護職の障害学習支援体制 ～看護職の生涯学習支援体制の構築～	看護部	10月25日 26日	集合研修	18名
SWOT分析 組織分析とディスカッションにより 自施設の現状と課題から看護管理者の課題を理解する	看護部	12月	集合研修	13名

令和5年度 院外研修・学会等参加者

内容	開催日	参加者
医療安全管理者フォローアップ研修	5月24日(水)	奈良輪弘美
看護師等の人材確保・定着に関する研修会	6月19日(月)	4名
看護必要度院内指導者研修 (オンライン研修)	6月1日～8月31日	移川 美穂 松野 祥子 吉田 和恵 田巻 悦子 渡邊 泰昇 磯松 咲乃 齋藤 文子 玉手 智美 泉 弘子 萩原 暁美
在宅医療推進のための訪問看護人材育成研修	6月～10月(12日間)	黒沢真由美
福島県看護協会 認定看護管理者教育課程 ファーストレベル研修	6月6日(火)～7月14日(金) 19日間	小松真由子 秋葉 裕子 原田 瑞穂
看護管理者研修 看護師等の人材確保・定着 に関する研修(臨時)	6月19日(月)	鈴木 佳子 車田 真美 岩崎 睦子
赤十字医療施設の看護管理者研修会 (web研修)	6月27日(火)	管理者12名
県看護協会 新人看護職員研修 教育担当者 研修	7月19日(水)～21日(金)	田島 一樹
病院、施設・在宅領域で働く看護師合同職 能集会	7月22日(土)	中村 広子
看護補助者の活用推進のための看護管理者 研修	7月27日(木)	今野 暁子 吉田 和恵
福島県看護協会 認定看護管理者教育課程 ファーストレベルフォローアップ研修	7月28日(金)	田島 一樹 國分 典子 八巻 歩美
東北ストマリハビリテーション講習会 (e-ランニング+参集1日)	8月	穴戸まどか
認知症高齢者の看護実践に必要な知識 (Web研修)	9月7日(木)～8日(金)	吉田 和恵 山守真由美
赤十字医療施設看護管理者研修会 看護師 の労務管理(web研修)	9月14日(木)	管理者12名
県看護協会 看護職の賃金モデル実践者研 修	9月14日(木)	車田 真美
医療安全管理者交流会	9月28日(木)	奈良輪弘美 柳田 美穂 鈴木 安英
看護の専門性の発揮に資するタスク・シフ ト/シェア 全国セミナー(Web)	10月3日(火)	管理者9名
高齢者への身体抑制の実態と課題 診療報酬 の観点から考える(Web)	10月13日(金)	管理者4名
看護職員認知症対応力向上研修	10月19日(木)・20日(金)・ 27日(金)	渡邊あゆみ
中小規模病院における看護職の働き方の展 開 ～働き方の未来を考える～(Web)	10月23日(月)	管理者3名
認知症高齢者の看護実践に必要な知識 (Web研修)	11月14日(火)～15日(水)	菊地悠示郎 片平 真由
赤十字医療施設東北ブロック看護管理者研 修(web研修)	11月23日(木)	管理者19名
看護の業務改善 看護職がいきいきと働くた めに(Web)	11月17日(金)	管理者22名

内容	開催日	参加者
県看護協会 医療機関における看護力向上支援事業報告会	12月13日(水)	鈴木 佳子 佐川奈美子
2024年第1回NST専門療法士受験必須セミナー(Web開催)	令和6年 3月26日(火)～27日(水)	佐藤 裕子

看護補助者

内容	開催日	参加者
赤十字医療施設 東北ブロック合同看護補助者研修会	10月17日(火)	羽田真由美 橘 麻紀
福島県病院協会 県北看護補助者研修会	12月18日(月)	菅野ゆう子 高橋 美紀 加藤由紀子 宮崎さおり 武藤 里奈

学会・研究会参加者(発表者別紙)

内容	開催日	参加者
第24回日本赤十字看護学会学術集会	7月29日(土)～30日(日)	座長 三浦 将克 参加者: 鈴木 佳子 岩崎 睦子
環境感染学会	7月20日(木)～22日(土)	北村 慶
第27回日本心不全学会学術集会	10月6日(金)～8日(日)	田島 一樹
第61回日本癌治療学会学術集会	10月19日(木)～21日(土)	野地 静香
福島県看護学会	11月29日(水)	菅野いづみ 安達 明美
固定チームナースング研究会(主催) 第18回東北地方会開催	12月16日(土)	看護部主催 54名
福島県看護協会県北支部 看護研究発表会(web)	令和6年 2月3日(土)	渡辺七夏海
第51回日本集中治療医学会学術集会	3月14日(木)～16日(土)	鈴木 安英
第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会(オンデマンド)	3月～4月	佐藤 裕子

令和5年度 学会等発表者一覧

1. 看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師 佐藤 美絵
日本創傷・オストミー・失禁管理学会 2023年7月9日
「COVID-19専用病棟における間接的介入での創傷対応」
2. 看護部 認定看護管理者 車田 真美
日本赤十字看護学会学術集会 2023年7月29日～30日
「尊厳ある看護の実践に向けて 身体拘束ゼロに向けた多職種連携での取り組み」
3. HCU病棟 集中ケア認定看護師 鈴木 安英
日本赤十字看護学会学術集会 2023年7月29日～30日
「人工呼吸器関連肺炎予防に向けた取り組み」
4. 外来 がん化学療法認定看護師 野地 静香
日本赤十字看護学会学術集会 2023年7月29日～30日
「外来化学療法室での患者栄養指導につなげる取り組み
管理栄養士とのタスクシェアでがん患者の食を支援する」
5. 6 A病棟 清和 彩子
福島県緩和医療研究会 2023年8月5日
「エンドオブライフを考える研究会の開催
グループウェアを活用した事例検討会の活動報告」
6. 外来 緩和ケア認定看護師 新國 智子
緩和ケアフォーラム in Fukushima 2023年8月29日
「当施設での緩和ケアの取り組み」
7. 5 A病棟 武井 明美
日本赤十字医学会総会 2023年11月9日
「看護補助者との連携・協働に向けた取り組み カンファレンスの活用を通して」
8. 5 A病棟 認知症看護認定看護師 佐川 奈美子
日本赤十字医学会総会 2023年11月9日
「身体拘束をしない看護に向けて 倫理カンファレンス内容の見直し」
9. 外来 森田 直子
日本脳神経血管内治療学会 2023年11月23日
「脳血管内治療における全身麻酔管理の変更 血管撮影室看護師の立場から」
10. 手術室 本田 祐子
日本脳神経血管内治療学会 2023年11月23日
「脳血管内治療における全身麻酔管理の変更 手術室看護師の立場から」

令和5年度看護学校実習受入実績

学校名	実習人数	領域
福島看護専門学校	52	母性看護学 成人看護学Ⅰ 成人看護学Ⅱ 老年看護学Ⅱ 訪問看護 健康状態別看護 地域・在宅の生活を支える看護
宮城県白石高等学校	12	母性看護学
福島東陵高等学校	9	母性看護学 小児看護学
国際医療看護福祉大学校	9	小児看護学 基礎看護学
東北福祉看護学校	9	母性看護 小児看護学 成人看護学 看護の統合

令和5年度 看護学校講師派遣実績

学校名	領域	派遣人数
福島県立医科大学	助産診断・技術学演習Ⅰ 助産健康教育法	助産師 橘 智寿子
大原看護専門学校	災害看護学	泉 弘子、岩崎 睦子
福島看護専門学校	災害看護学	武田 里美、岩崎 睦子
	医療安全	医療安全推進室 奈良輪弘美
	看護管理	認定看護管理者 鈴木 佳子
	成人の生活を支える看護Ⅰ(循環)	クリティカルケア認定看護師 鈴木 安英
	成人の生活を支える看護Ⅰ(呼吸)	慢性呼吸器疾患認定看護師 今野 暁子
国際医療看護福祉大学校	災害看護	武田 里美 救急看護認定看護師 渡邊あゆみ

令和5年度 院外、地域活動 講師派遣実績

日程	内容	派遣者名
6月3日(土)	第19回福島県滅菌業務研究会	第2種滅菌技士看護師 佐久間由美子
6月～7月	福島県看護協会 看護管理者教育課程(ファーストレベル)	認定看護管理者 鈴木 英子
5月30日(火) 6月13日(火)	看護職の再就業支援研修	医療安全 奈良輪弘美
7月24日(月)	医療従事者を志願する生徒対象講演会 (福島県立安積黎明高等学校)	山口 広夢
7月～12月	福島県看護協会 医療機関等における看護力向上支援事業 (公立相馬総合病院)	認知症看護認定看護師 佐川奈美子
8月25日(金)	福島県看護協会 医療機関等における看護力向上支援事業 フォローアップ研修(公立相馬総合病院)	摂食・嚥下障害看護認定看護師 八木沼裕子
9月6日(水)	職業人に聞く会(福島市立吾妻中学校)	看護係長 國分 朋子 看護師 高島 雄一
9月9日(土)	第33回東北ストーマリハビリテーション講習会	皮膚・排泄ケア認定看護師 佐藤 美絵
9月19日(火)	赤十字健康講演会(保原中央交流会) スキンケア	皮膚・排泄ケア認定看護師 北原奈緒美
10月20日(金)・27日(金)	福島県看護協会 認知症対応力向上研修	認知症看護認定看護師 佐川奈美子
10月24日(火)	福島県看護協会 看護に活かすフィジカルアセスメント (脳神経系)	脳卒中リハビリテーション 看護認定看護師 三浦 将克
10月31日(火)	福島県看護協会 褥瘡予防の最新知識とケアのポイント	皮膚・排泄ケア認定看護師 佐藤 美絵
11月8日(水)	看護の出前講座(福島市立佐原小学校) 生命の誕生、命の大切さ	助産師 赤井みゆき
12月5日(火)	福島県看護協会 慢性心不全患者の支援	慢性心不全看護認定看護師 田島 一樹
令和6年2月17日(土)	特定行為修了看護師フォローアップ研修	訪問看護ステーション 齋藤 泉

令和5年度 認定看護師・認定看護管理者・感染制御実践看護師数

認定看護師 14名		認定看護管理者 2名	
がん化学療法看護	1名		
皮膚・排泄ケア	2名		
緩和ケア	2名	感染制御実践看護師 2名	
救急看護	1名		
クリティカルケア	1名		
摂食・嚥下障害看護	1名	特定行為研修修了者 3名	
認知症看護	1名		
脳卒中リハビリテーション看護	1名		
手術看護	1名		
慢性呼吸器疾患看護	1名		
慢性心不全疾患看護	1名		
感染管理	1名		

令和5年度 認定看護師・認定看護管理者・感染制御実践看護師

認定看護師 14名		
がん化学療法看護	野地 静香	
皮膚・排泄ケア	佐藤 美絵	北原奈緒美
緩和ケア	小松真由子	新國 智子
救急看護	渡邊あゆみ	
クリティカルケア	鈴木 安英	
摂食・嚥下障害看護	八木沼裕子	
認知症看護	佐川奈美子	
脳卒中リハビリテーション看護	三浦 将克	
手術看護	橋脇 聡美	
慢性呼吸器疾患看護	今野 暁子	
慢性心不全疾患看護	田島 一樹	
感染管理	北村 慶	

認定看護管理者 2名	
鈴木 佳子	車田 真美

感染制御実践看護師 2名	
吉田 和恵	三浦 愛

特定行為研修制度修了看護師

特定行為研修制度修了看護師 3名	
佐藤 美絵	創傷管理関連 ろう孔管理関連
鈴木 安英	呼吸器(気道確保に係るもの)関連 呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連 動脈血液ガス分析関連
北村 慶	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連



28. 検査部

【部 長】 田崎 和洋

【技 師 長】 小林 利美(検査部技師長・臨床検査技師)

【課 長】 峯 徹次(臨床検査課長・臨床検査技師・超音波検査士)
 酒井 克也(細菌検査課長・臨床検査技師)
 根本 浩(病理検査課長 兼細胞診係長・臨床検査技師・細胞検査士・認定病理検査技師)
 佐藤美千子(生理検査課長・臨床検査技師・超音波検査士)

【係 長】 佐藤 由峰(病理検査係長・臨床検査技師・認定一般検査技師)
 大竹 利典(臨床検査係長・臨床検査技師・超音波検査士)
 森川 由美(輸血検査係長・臨床検査技師)
 中田 悠希(生理検査係長・臨床検査技師・超音波検査士・血管診療技師)

【臨床検査技師】 八島亜由美、吉田 憲治、相楽 孝行、石川 梓(細胞検査士)、
 丹野麻木子、吉田 絢香、菊池麻衣子、齋藤 智美、幕田 高平、
 三浦 義喜(細胞検査士)、安部みなみ、阿部 里奈、植野 桃佳、
 菅野 和典、佐々木一美

【看 護 師】 佐藤さゆり、岡野真由美

【検査助手】 猪狩 利恵、石井美和子、鈴木 美沙

<令和5年度実績>

1 検査件数

(1)一般検査	入院	4,500件	外来	26,983件
(2)血液検査	入院	35,369件	外来	96,598件
(3)生化学検査	入院	192,916件	外来	656,343件
(4)免疫検査	入院	22,052件	外来	93,197件
(5)微生物検査	入院	3,156件	外来	4,645件
(6)病理検査	入院	2,240件	外来	4,011件
(7)生理検査	入院	2,631件	外来	19,969件

2 参加学会・研修会名一覧

- (1)第166回光が丘エコー症例検討会
- (2)第2回尿沈渣サーベイオンライン解説セミナー
- (3)第17回本郷血液検査ゼミナール検査データの見方・考え方
- (4)シスメックスヘモスタシスセミナー LIVE血液内科から見るDICの基礎と各凝固線溶検査項目の解説治療の最新トピックスについて
- (5)みなとみらいフォーラム2023第1回
- (6)第168回光が丘心エコー症例検討会
- (7)令和5年度日本赤十字社臨床検査技師会業務研修会・総会
- (8)みなとみらいフォーラム2023第2回
- (9)令和5年度福臨技県北支部臨床化学免疫血清部門研修会
- (10)みなとみらいフォーラム2023第3回

- (11) 東北オンライン『SEKISUI塾』採血業務に関する話題提供
- (12) 令和5年度結核予防技術者地区別講習会(東北ブロック)
- (13) 第169回光が丘心エコー症例検討会
- (14) 東北血管エコーセミナー2023
- (15) 肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会
- (16) JSS東北第35回地方学術集会
- (17) 第170回光が丘心エコー症例検討会
- (18) 令和5年度第1回福島県血液検査分野染色体検査分野合同研修会
- (19) 第8回東北静脈フォーラム学術集会
- (20) 令和5年度日臨技北日本支部医学検査学会
- (21) 令和5年度県北支部輸血研修会
- (22) トランスサイレチン型心アミロイドーシス説明会
- (23) 第2回irAE/imAE症例検討会
- (24) 第172回光が丘心エコー症例検討会
- (25) 臨床心電図セミナー福島
- (26) 令和5年度福臨技県北支部一般検査研修会
- (27) 東北オンライン『SEKISUI塾』凝固検査の異常値
- (28) Wako Webセミナー抗真菌薬適正使用における β -D-グルカン測定の活用
- (29) 慢性便秘症診療 Up to Date
- (30) 令和5年度福島県臨床検査精度管理調査事業報告会
- (31) 第173回光が丘心エコー症例検討会
- (32) 第13回福島セミナー
- (33) 第174回光が丘心エコー症例検討会
- (34) 令和5年度福島県臨床検査技師会病理検査・細胞検査精度管理フォローアップ研修会
- (35) 輸血製剤の取り扱いについて
- (36) 令和5年度福島県臨床検査技師会生理機能検査部門画像検査分野研修会
- (37) 令和5年度福島県臨床検査技師会病理検査部門・細胞検査分野研修会
- (38) 令和5年度福島県臨床検査技師会輸血移植検査部門(会津・県南・相双)支部合同輸血研修会
- (39) 令和5年度宮城県臨床検査技師会総合部門研修会「臨床検査技師も知っておくべき診療報酬の基礎知識」
- (40) 第10回福島県内甲状腺検査実施機関連絡協議会
- (41) 令和5年度福島県臨床検査技師会県北支部病理・細胞診部門研修会
- (42) 関節エコーハンズオンセミナー in福島
- (43) 第175回光が丘心エコー症例検討会
- (44) 福島県臨床検査技師会県北支部一般検査部門研修会
- (45) 2023年度宮城県臨床検査技師会病理・細胞診部門研修会『病理検査における試薬管理』
- (46) 令和5年度福臨技生理機能検査部門呼吸機能検査分野研修会
- (47) 令和5年度福臨技県北支部生理機能研修会
- (48) 札幌ロシュセミナー2024spring
- (49) ～メーカーだからお伝えできること～クロマトパターンを読み解く

3 学会・研究会発表

- (1) 令和5年度日本赤十字社臨床検査技師会業務研修会・総会
開催日 令和5年6月17日(土)
演題 「全国赤十字病院アンケート調査報告2021」
発表者 小林 利美
- (2) 第8回東北静脈フォーラム学術集会

開催日 令和5年9月30日(土)
演 題 「肺血栓塞栓症を合併した多発深部静脈血栓症に超音波検査が有用であった1例」
発表者 中田 悠希

(3) 令和5年度日臨技北日本支部医学検査学会
開催日 令和5年11月4日(土)
演 題 「福島赤十字病院採血室の歩み」
発表者 小林 利美

(4) 令和5年度日臨技北日本支部医学検査学会
開催日 令和5年11月4日(土)
演 題 「虫垂粘液嚢腫の1例」
発表者 中田 悠希

(5) 令和5年度福島県臨床検査技師会病理検査・細胞検査精度管理フォローアップ研修会
開催日 令和6年1月21日(日)
演 題 「細胞診検査精度管理報告」
発表者 三浦 義喜

(6) 令和5年度福島県臨床検査技師会県北支部病理・細胞診部門研修会
開催日 令和6年2月10日(土)
演 題 「インシデント事例から考える医療安全対策」
発表者 根本 浩

(7) 第175回光が丘心エコー症例検討会
開催日 令和6年2月15日(木)
演 題 「検査中、判断に苦慮した症例」
発表者 吉田 憲治

<令和6年度活動目標>

1. 質的向上(赤十字病院の職員としてすべてにおいて)
2. 正確かつ迅速な検査結果の提供に努める
3. 検査過誤防止に努める
4. 健全な職場環境の整理(振休・年休取得率向上)
5. 個々のスキルアップ(認定取得・学会発表)
6. 人材育成に努める
7. 検査業務全般の標準化



29. 事務部

総務課

【部 長】 野田 誠

【課 長】 富田 夕紀

【係 長】 葛岡 大輔(総務係長 ※令和5年12月迄)
池田 久光(総務係長 ※令和6年1月以降)
村上 尋美(人事係長)

【主 事】 安田美喜子、佐久間惟代、渡辺 大夢

【事務職】 阿部 暁子、横山 碧、三瓶由紀子、中島 良介

【医局・研修医担当】 大原有香梨、川井茉奈美

【委 託】 電話交換室2名(コムネット)
防災センター7名(キョウワプロテック)

【業務内容】 総務係・人事係・文書係において以下の業務を担当。

人事・労務、給与、全社的福利厚生、医療安全、感染対策、教育研修、各種委員会および研修会、職員健診、医局、医師臨床研修、防災・防火対策、災害対策・原子力災害対策、図書、出張、儀式・慶弔、文書管理・処理、駐車場管理、売店テナント運営、ボランティア、委託派遣他各種契約関係、不在者投票、医師会関連、病院群二次救急輪番制、当直、車両運行、医療紛争、病院開設許可関連の等々、他課に属さない様々な業務を所管。

<令和5(2023)年度活動実績>

1. 人材確保事業

令和5年度も、令和2年度以降新型コロナウイルス感染症により、感染状況を見ながらの学校訪問や会場に参集しての説明会開催にできる限り対応した。

(1. 看護師)

新型コロナウイルス感染症の院内感染防止対策のため、養成学校訪問や説明会・インターンシップについては、感染状況を見ながら対応病院や看護部の看護体制等を紹介する動画を作成し、ホームページや外部就職ガイダンスの場にて募集活動を実施。併せて学校への募集要項郵送の方法を例年通り実施。

(2. 医療技術職)

薬剤師の募集活動を実施。薬剤、リハビリテーション、放射線、検査、栄養の各部門においては、新型コロナ感染防止対策を施しながら、可能な限り実習及び見学を受入し人材確保活動を実施。

(3. 臨床研修医)

臨床研修プログラム委員会を中心とした、指導医の丁寧な指導教育と他職種研修医教育体制との連携強化により研修医師に対する充実した研修について、新型コロナ感染防止対策を施しながら病院説明会・見学会をオンラインおよび当院内にて開催、またオンライン院外ガイダンス等にて紹介し募集活動を実施。

(4. 障がい者雇用継続確保)

ここ数年、障がいを持つ職員の退職により法定雇用率を下回る状況となっている。よって、公共職業安定所・障害者雇用関連事業所等と連携し、人材確保活動継続するとともに院内での配置部門や業務の洗い出し等の検討を実施。

2. 『医師の働き方改革』への取り組み

2024年より施行となる医師の働き方改革に向けて、また職員の勤務状況を正確に把握するため令和4年12月より全職員へ『就業管理システム』を導入したことから、院内職員の適正な労務管理に努めている。

3. 『手当現況調査』の実施

毎月の給与にて、扶養手当や住居手当等支給している職員の各種手当について、規程沿った支給がされているか改めて確認を実施。今後も毎年行い、手当の不正支給や未支給事例

の無いように努める。

4. 院内感染対策関係事業

感染対策委員会事務局として感染管理室とともに、令和2年度から継続している新型コロナウイルス感染症関連業務に対応。5月には新型コロナウイルスが5類へと移行したことから、今までの感染対策と継続とアフターコロナの対応について院内だけでなく福島県および福島市他院外関係機関との連絡調整、対策対応体制整備、お知らせ案内他の情報共有伝達業務の増加にも適宜対応。

5. 能登半島地震における救護活動

令和6年1月の能登半島地震において、災害救護担当部門として、支部との連絡調整や救護班の派遣調整、現地へ派遣するスタッフへの情報提供や必要物資の準備等を行った。また、現地へ救護に派遣する職員だけでなく、院内の職員にも日本赤十字社の職員として災害救護への情報共有等対応した。

6. 行事、イベント等

(1. 院外)

6月北海道・東北ブロック院長事務部長会議を当番病院として開催、参加者による活発な意見交換が交わされた。12月東北ブロック赤十字病院医療安全推進担当者研修を当番病院として実施し、『医療対話と医療コンフリクトマネジメント』について学んだ。令和6年2月 令和5年度 北海道・東北ブロック赤十字病院合同で「日本赤十字社 感染管理ネットワーク研修」を当院が当番病院として実施した。

(2. 院内)

年間を通し多目的ホール他で開催される会議、委員会、勉強会、講演会ならびに法定研修を含む各種研修については、令和2年度以降新型コロナ感染防止対策を講じながら、参集、院内システム掲示板、マイページを利用したオンラインによる書面開催等各部会にて開催方法を検討調整し実施した。

<令和6年度目標>

1)働き方改革(医師の働き方含む)に向けた労務管理体制の推進

- ・宿日直許可取得による医師の勤務体制の変更に合わせて、再度医師への周知を行う
- ・『就業管理システム』を活用した各所属長への労務管理に対する働きかけを行う
- ・休暇取得日数による有給休暇の取得推進、嘱託・臨時職員の休暇付与を変更する

2)職員の働きやすい環境の整備

- ・定年退職を迎える職員への定年後の生活設計、退職後の継続勤務について説明する機会を設ける
- ・ハラスメント防止対策委員会の設置及び院内周知、所属長への研修を実施する

3)院内共通の手続きについての手続き簡素化の検討、手続きのマニュアルの整備

- ・『現況調査』の実施
- ・出張の手続きの見直しと院内への周知
- ・総務課の担当者以外の職員も手続きの説明ができるようにする

4)災害救護体制の整備

- ・院内災害訓練の実施
- ・各部署での消防訓練の実施

5)職員の人材育成強化のため、『教育研修推進室』の役割を強化する

- ・院内の必須研修の管理、受講率の向上への取り組み
- ・職員の資格取得等へのサポート体制の整備

6)臓器提供体制の整備

- ・臓器移植マニュアル策定チームの設置、体制の整備

7)医大からの医師の対応

- ・教授対応や医大秘書とのやり取りを引き継ぐ
- ・医大から派遣となっている医師の個別契約書の締結を行う

- 8) 研修医の第三者評価受審対応
 - ・ 渡部研一医師より相談があった第三者評価受審のための体制整備及び受審
- 9) 担当業務の明文化・システム化・効率化
 - ・ 各担当者の業務のマニュアルを整備し、複数担当者制に努める

経営企画課

【課 長】 松本 修

【係 長】 奈良輪大輔(兼 第2 医療情報システム係長)

【主 事】 佐藤 隆昭(医療情報システム課 兼務)
 金子 瑛
 横山 剛(医療情報システム課 兼務)

<令和5年度実績>

- ・ 各種統計、データ分析(本社報告、自治体報告、DPCデータ分析など)
- ・ 診療科・コメディカル部門に対する幹部ヒアリング事務
- ・ 各種加算の施設基準取得に向けた分析、検討
- ・ 適正な人員配置の検討
- ・ 設備投資に係る方針の検討
- ・ 月次収支管理
- ・ 予算策定、資金繰りに関する検討
- ・ コロナ関連補助金申請に関する事務
- ・ ホームページ、広報誌、Facebook等による情報発信
- ・ 病院機能評価受審・更新に係る事務局
- ・ 経営部会、医療の質向上委員会、総合戦略会議の事務局

<令和6年度経営企画課目標>

- ・ 経営部会の運営による収支改善に係る各種施策の立案、実行、進捗管理
- ・ データ分析による課題抽出、経営改善活動の推進及び医療の質向上に係る検討
- ・ 情報発信の強化

医療情報システム課

【課 長】 二階堂雄平

【係 長】 奈良輪大輔(兼 経営企画係長)

【主 事】 佐藤 隆昭、横山 剛

【事務職】 竹田 強

<令和5年度実績>

- ① 医療情報システムの安定運用の継続
 (院内全システムのサポートセンター業務)
 - QA・要望対応
 - 障害時調査(復旧対応、一次切り分け)
 - 帳票作成・修正

○ハード故障交換(プリンタ・端末・その他機器)

(運用調整)

- 運用調整・全体説明
- システム操作説明
- メーカー対応
- 掲示板、グループウェアメンテナンス

(システム管理)

- 機器管理(サーバ・端末・その他機器)
- セキュリティ管理(USB、ウイルス対応)
- ネットワーク管理(新規接続許可、不正接続防止)
- 本社インベントリ管理・報告
- 機器・プログラム購入手続き
- 新規システム導入検討
- パソコン全般に対する問い合わせ

(データ抽出・調査)

- 定期的な統計(病床機能報告、自治体統計等)
- データ分析・学会、論文データ(検定)対応
- その他データ調査 等

② 次期システム更新に向けた計画の策定

- 第4次医療情報システム稼働調整・全体周知
- 次期システム更新にかかる情報収集 等

③ システムに関する技術・専門性を活かした費用削減活動

- 保守費用の削減活動
- システム設定変更対応
- システム帳票カスタマイズ
- 新規システム・ツールなどの開発
- 機器修理(PCが起動しない等)
- 誤って消した重要データ復旧
- 他システムへのデータ移行
- システム端末の複製及び設定 等

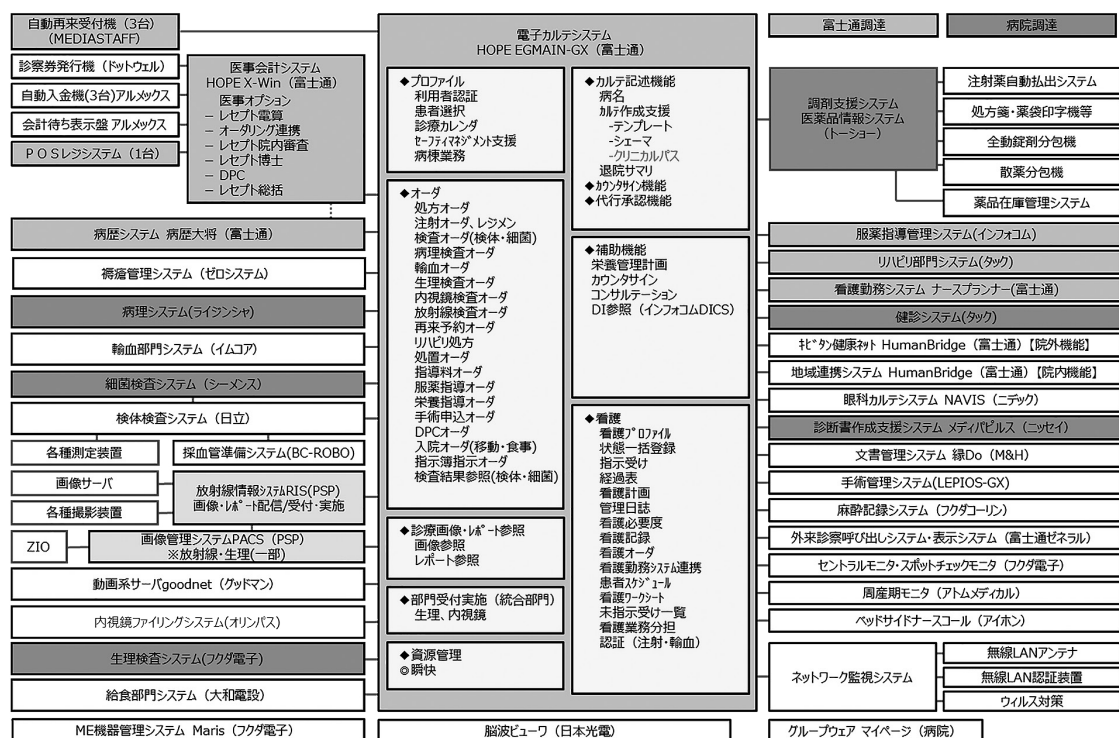
④ データを活用したコスト削減、運用適正化の実践

- 医療情報システム以外のデータも活用したデータの分析
- 各種データから見える無駄な費用の削減活動 等

<トピックス>

- ・診療・院内業務における課題抽出・改善活動・マクロ開発による業務効率化
- ・院内情報の円滑な共有推進のための活動
- ・医療情報システム全般のメンテナンス、障害・QA対応、ウイルス対策
- ・動画によるコンテンツのアーカイブ化活動
- ・委員会、ワーキンググループのグループウェア利活用の推進
- ・新型コロナウイルスによる院内対応のデータ支援作業 等
- ・【10月】訪問看護システムの更新(クラウド化)

福島赤十字病院 第3次医療情報システム全体構成図



<令和6年度目標>

- ① 医療情報システムの安定運用の継続
 - ※ 厚生労働省『医療情報システムの安全管理に関するガイドライン』に則した医療情報システムの適正な管理の遂行
- ② システム更新・新規導入に向けた計画の策定
- ③ セキュリティ、バックアップの強化に向けた計画の策定
- ④ システムに関する技術・専門性を活かした費用削減活動
- ⑤ データを活用したコスト削減、運用適正化の実践
- ⑥ 院内の働き方改革を意識した業務改善活動の推進

会計課

【課長】 吉田 秀雄

【係長】 葛岡 大輔(令和6年1月以降)

【主事】 阿部 宣子、佐藤恵美子、山名慎一郎

【事務員】 羽田恵津子、大橋 睦子、高橋 美和

<令和5年度活動実績>

- 1) 令和4年度医療施設特別会計決算報告書作成
- 2) 令和6年度医療施設特別会計歳入歳出予算概要書作成
- 3) 令和4年度収益事業決算報告書作成
- 4) 令和4年度消費税込支決算報告書作成
- 5) 令和5年度中の運転資金極度借入手続き及び本社交付書類行使報告
- 6) 令和5年度中の運転資金短期借入金本社承認手続き及び交付書類行使報告

- 7) 令和5年度各運営費補助金及び設備整備事業補助金関係事務処理
- 8) 令和5年度財政調整事業資金借入手続き
- 9) 令和6年度固定資産非課税措置適用申請
- 10) インボイス制度への対応

<令和6年度の目標>

「決算事務・予算事務の効率化」

用度施設課

【課長】 野地 幸次

【係長】 池田 久光(用度係長 ※令和6年1月迄)、濱名 正美(施設係長)

【主事】 菅野八重子、佐藤恵美子(※令和6年1月以降)

【技術員】 加藤 仁義(電気)

【委託職員(中央監視室技術員)】 5名

<令和5年度実績>

- 1) 診療材料、医薬品の価格交渉
- 2) 診療材料、一般消耗物品等の在庫適正管理
- 3) 施設設備及び電気設備の無事故運転維持管理
- 4) 電力購入単価削減、維持点検費用の削減交渉
- 5) 省エネルギー推進によるエネルギー使用量削減対策
- 6) 感染性医療廃棄物排出量削減対策
- 7) エネルギー施設設備の無事故運転維持管理及び建物設備の適宜修理と迅速対応
- 8) 病院から発する騒音問題の地域住民との和解対応
- 9) 令和3年度地震被害調査、損害填補へ申請
- 10) 令和3年度地震被害復旧工事完了、報告書の提出
- 11) 病院建設工事における不具合是正早期解決(設計会社及び施工会社等と定例会開催)

日付	品名	規格・型式	台数	設置場所
05.04.28	T7ヘルメットライト付き	0416-610-000	3	手術室
05.07.31	排煙装置	SAFEAIR COMPACT 0703-045-000	1	手術室
05.07.31	オートレンズメーター	LM-1800P	1	眼科
05.08.10	個人用透析用水作製装置	NCRXeco Ao 800	1	HCU
05.08.10	個人用透析装置	NCV-11 タイプB	1	HCU
05.08.24	血液ガス分析装置	ABL825 (GLバージョン)	2	臨床検査部 HCU
05.08.31	血液培養自動分析装置	BDバクテックFX40 システム	1	臨床検査部
05.08.31	筋弛緩モニタリング装置	VA-201R AF-201P	1	手術室
05.10.13	ホルター記録器	FM-1400	1	生理検査室
05.10.27	レゼクトスコープシステム	OES ELITE 光学視管 灌流シース他	1	手術室
05.10.27	ネオジウム・ヤグ倍周波数レーザー システム	GreenLight XPS	1	手術室

05.11.17	全自動遺伝子解析装置スマートジーン	Smart Gene 85100	1	臨床検査部
05.11.30	セフティクリーンパーテーション (吸引型)	DR-1137-011 NSP-03KH	1	生理検査室
05.11.30	セフティクリーンパーテーション (吹出型)	DR-1137-012 NSP-03FH	1	生理検査室
06.01.17	クリーンコンテナ	CWセット一式	1	中央材料室
06.01.30	移動型汎用X線撮影装置	tiara air(分離型) CALNEO Flow C47	1	放射線科
06.02.28	除細動器	デフィブリレーター TEC-5631	2	HCU IVRセンター
06.02.28	レビテーターⅡ 右脚レギュラー セット	18-070-01	1	手術室
06.02.28	レビテーターⅡ 左脚レギュラー セット	18-070-02	1	手術室
06.03.12	テルフュージョン輸液ポンプ28型	TE-281A アンチフ リーフロー機能あり	3	ME室
06.03.27	ハンフリーフィールドアナライザー	HFAⅢ840	1	眼科
06.03.28	X線骨密度測定装置	Horizon Ci型	1	健診センター
06.03.29	筋電図・誘発電位検査装置	MEB-2306	1	生理検査室

<令和6年度目標>

- 1) 診療材料費の費用削減対策及び診療材料、一般消耗物品等の在庫適正管理
- 2) 医薬品費の価格交渉による前年度比1%削減
- 3) 施設設備及び電気設備の無事故運転維持管理推進及び維持点検費用の削減推進
- 4) 電力購入単価削減推進および11月更新に向けた電力購入会社の選定
- 5) 省エネルギー推進によるエネルギー使用量前年度比1%削減
- 6) 感染性医療廃棄物排出量前年度比1%削減
- 7) 6年目を迎える建物設備の適宜修理と迅速対応および電気設備の更新計画の実施
- 8) 病院建設工事における不具合是正早期解決(設計会社及び施工会社等と定例会開催)
- 9) 委託業者の業務内容・費用の検証および見直し
- 10) 用度施設課内における事業継続計画(BCP)の対策

医事課

【課長】 菊田 基晴

【係長】 阿部 育子(医事係長兼診療情報管理係長)
金原 昭世(入院係長)
野地 美佳(外来係長)
斎藤 智浩(患者サービス推進室長兼病歴管理係長)

【主事】 加藤 菜月、三浦 有樹、小野 真珠、大槻 理佳

【事務職】 志田 沙織、鈴木奈美子、横山 光羽、芳賀 瑞樹、佐藤 郁美

【委託】 入院 4名(ニチイ学館)
外来 20名(ニチイ学館)
医事 20名(ニチイ学館)

【業務内容】

医事係・入院係・外来係・診療情報管理係・病歴管理係・施設基準管理係において、下記の業務を担当。

診療に関する契約、診療録その他諸記録の整理保存、医事統計、患者受付及び接遇、入院手続き、各種入院保証サービス手続き、入院・外来の料金算定及び支払請求、保険請求(レセプト作成・請求)、DPC対応全般、病歴管理、病歴統計、診療報酬に伴う施設基準の届出・管理、各種委員会の運営、コロナ患者の受け入れ、インフルエンザ予防接種受付、外国人患者の取り扱い等、医事に関して多岐にわたる業務を所管。

＜令和5(2023)年活動実績＞

1. 適切な保険請求実現のため、項目毎の算定チェックを実施し、査定・返戻の削減を図った。
2. 「DPC導入の影響評価にかかる調査」のデータを、正確かつ遅滞なく提出した。
3. 院内共有サイト・マイページによる「保険診療に関する研修会(年2回)」を実施した。
4. 新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取り扱いの情報収集・対策策定・および運営。
5. 正確で適切な施設基準管理の実現に向け、施設基準管理システム「INX」(株式会社イノシア)を導入。
6. マイナ保険証受付専用レーンを設置し、マイナ保険証でのオンライン資格確認の推奨を開始。

【主な活動】

- 4月：3A・3B病棟の統合に伴い関係施設基準(一般病棟入院基本料・急性期看護補助体制加算・看護職員夜間配置加算・病棟薬剤業務実施加算1・入退院支援加算・地域医療体制確保加算・ハイケアユニット入院医療管理料1)の再提出を実施。
- 4月：出産育児一時金の増額(42万円→50万円)により、出産費用についての見直しを実施。
- 4月：新入職員向け研修会にて医事課業務(保険診療・診療報酬、DPC制度、施設基準、外来関係)の説明を実施。
- 4月：医事課用新人教育プログラムを作成。トレーナーを中心とし、プログラムに沿った新人教育を開始。
- 4月：新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、新型コロナウイルスワクチン接種予約の受付を医療機関で行う事が決定。当院でも体制を確保し予約受付を開始。
- 4月：地域医療構想の一環としての産科医療(分娩)休止(令和6年3月)に向け新たな妊婦の受入を中止。
- 5月：新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い特例措置が変更、終了となる。診療費も治療薬の費用以外は本人負担へと変更(10月～翌3月までは、健康保険の割合ごとに定額負担とされた)それに伴い、掲示物やホームページ等の案内変更を行い患者へ周知した。
- 6月：県立福島医科大学附属病院とのPET検査委託契約に向け、関係医師や部署等への調査を行い体制を整備、構築し委託契約運用が開始となる。
- 6月：ハイケアユニット入院医療管理料を算定のHCUにて「病棟薬剤業務実施加算2」の施設基準を算定開始。
- 6月：本人や家族、親族以外の方より診断書や証明書の作成依頼があった際の、委任状運用を開始。
- 6月：保険診療に関する第1回講習会「適時調査について」を院内共有サイトにて開催。
- 7月：新型コロナウイルス感染症の特例措置「オンライン診療・電話診療(0410対応)」が終了となる。
- 7月：東北ブロック事務研修に医事課より1名参加(加藤主事)(主催：石巻赤十字病院)
- 8月：福島県より「紹介受診重点医療機関」の指定を受ける。
- 9月：厚生労働省から3年に1度依頼のある「患者調査」を実施し提出。
- 9月：東北福祉大学の実習生2名を受入れ(9月・10月)医事課、診療支援課、システム課、経

- 営企画課、地域医療連携室、各科外来で業務内容の説明及び指導・評価を行った。
- 10月：返戻、再請求におけるオンライン請求対応開始。
- 10月：インボイス制度開始に伴う関係請求書等の変更、作成を実施。
- 11月：インフルエンザ予防接種の受付業務実施。
- 11月：入院患者の概算連絡等における電子化対応の開始。
- 12月：取り下げ・再審査におけるオンライン請求対応開始。
- 12月：施設基準管理システム導入のための施設基準の把握、内容確認、整備等の準備を開始。
- 1月：令和6年能登半島地震における救護班として、1月17日から医事課より3名(菊田課長・金原係長・三浦主事)が3班にわたり派遣された。
- 2月：病名代行入力・代行承認の正式運用が決定し運用開始。
- 2月：新型コロナウイルス感染症患者等の感染症疑い患者の診察に使用した発熱外来棟が撤去となる。
- 2月：入退院支援センター(PFM)における入院前説明時の予約制開始。
- 2月：マイナ保険証を利用したオンライン資格確認推奨に向け、マイナ保険証受付専用レーンを設置。
- 3月：地域医療構想の一環として当院における産科医療(分娩)を休止。
- 3月：外来患者満足度調査を実施。医事課より3名の担当者を配置し、誘導、アンケート回収等の対応を行った。
- 3月：保険診療に関する第2回講習会「令和6年度診療報酬改定について」を院内共有サイトに開催。
- 3月：施設基準管理システム「INX」の導入開始。適切な施設基準管理を行う体制が構築された。

<令和6(2024)年度目標>

- ・正しく保険請求を行い、算定漏れをなくし、査定率・返戻率を減らすことを推進する。
- ・診療報酬の内容を理解し、算定項目、算定件数の増加を図り、「費用を掛けずに収益改善」を目指す。
- ・施設基準を正確に把握し、新規取得、変更届、適時調査等に適切に対応する。
- ・令和6年度診療報酬改定に対して、内容を正確に把握し、新規施設基準取得の獲得をめざすとともに、必要事項を正しく整備する。
- ・DPCコーディングの精度を上げ、医業収益の向上に貢献する。
- ・医事データ・様式1等のデータ入力を正確に行い、滞りなく厚生労働省にDPCデータを提出する。
- ・マイナンバーカード・電子処方箋等国が推進する制度に適切に対応し業務の効率化を図る。
- ・適切な医事データの収集及び発信を行うことにより医療の質の向上に貢献する。
- ・医事業務及びDPC全般に関わる専門的知識を持った人材育成を行う。

健診課

【健診センター長】 今野 修

【健診課長】 野田 誠

【保健師】 渡辺 由佳、赤間 由美、渡辺 純枝、齋藤かおり

【事務員】 渡辺真奈美、美野 陽子、渡邊 幸子、山岸真記子

<2023年度実績>

1. 健診実績

	2022年度	2023年度	前年度比
人間ドック	421名	435名	14名
政府管掌(一般・付加)	989名	999名	10名
福島市民検診	476名	477名	1名
一般健診	515名	526名	11名
健康診断	982名	991名	9名
特定健診	243名	224名	△19名
その他	641名	689名	△48名
健診件数合計	4,267名	4,341名	74名
健診収益	80,852,900円	82,456,904円	1,604,004円

2. 保健指導実績

	2022年度	2023年度	前年度比
保健指導 人数	504名	440名	△64名
収益	4,535,784円	4,056,985円	△478,799円

3. 甲状腺検査実績

	2022年度	2023年度	前年度比
甲状腺検査 人数	40名	66名	26名
収益	346,720円	572,088円	225,368円

2023年度はコロナによる影響が減り、胃検査を含めた検査件数の増加、キャンセル数の減少が認められた。また、ドック・一般健診の件数増加も認められ、平均単価・全体収益の増加につながった。

保健指導の実施人数・収益が減となっているが、初回面接実施率は明らかに向上している。前年度保健指導対象であった受診者が①保健指導の効果として減量成功され指導対象外になった、②受診勧奨により内服が開始となり指導対象外となったことにより、そもそもの保健指導対象者が減った事による件数・収益減と考えられる。

職員健診における各種業務が総務課より当課に委譲となった。受診報告書の管理・未報告職員に再通知・受診勧奨・統計業務の充実を図るとともに、安全衛生委員会において二次受診率の状況、継続未受診者への対応方法等について検討を行った。

<2024年度目標>

(1) 健診・保健指導収益について

① 健診の収益アップ

- ☐ 人間ドック・一般健診件数の増加

単価が低く回転率の悪い検診枠を減らし、ドックや一般健診枠を増やすことで、限られたマンパワー・スペースでの収益増を目指す。

② 保健指導の収益アップと指導内容の充実

- ☐ 初回面接率100%、脱落率の低下を目指す。
- ☐ 人間ドック健診情報管理指導士のブラッシュアップ研修、健康づくりサポーター講習会等の各種研修を受講し、指導スキルアップを図る。
- ☐ 保健指導の遅延等を予防するため、保健指導担当者は「特定保健指導進捗状況報告書」を提出し課長が確認する。

(2)業務改善について

- ☐ 新人職員教育マニュアルの作成
今後の更なる戦力の向上を目指し、教育マニュアルを作成し効果的な育成に努める。
- ☐ 業務マニュアル・業務分担の見直し
各種マニュアルを見直すとともに、限られたマンパワー下での効率的な業務を目指す。
一つの業務を複数のスタッフが担当できるよう伝達講習も実施する。

(3)経営改善に対する意識の向上

- ☐ 健診課として取り組める事について話し合い、目標を共有すると共に、スタッフ全員が同じ方向を向いて経営改善に取り組めるよう働きかけていく。
- ☐ 月報を毎月スタッフに回覧し、健診件数や収益状況等のデータを共有する。

(4)職員の健康管理の充実について

- ☐ 要精査・要治療者に対する受診勧奨・未受診者に対する受診勧奨を行い、二次検査受診率向上を目指すだけでなく、産業医との連携を密にとっていく。
- ☐ 職員のワクチン接種(インフルエンザ・コロナワクチン以外)を引き続き当課で担当し感染管理室の業務軽減を図る。(令和3年度後半から開始)

(5)労働安全衛生活動について

- ☐ 安全衛生委員会の活動として、衛生管理者による職場ラウンドを実施し労働安全上のリスクを軽減する。
また、職員健診の二次受診率等の情報を安全衛生委員会において共有する。
※労働安全衛生法で、衛生管理者による職場巡視は週1回以上が義務づけられている。
第1種衛生管理者免許保持者：渡辺由佳・赤間由美・渡辺純枝・齋藤かおり

患者サービス推進室

【室 長】 齋藤 智浩

<令和5年度 活動実績>

1. 患者相談室一次対応者会議開催(12回)
2. 患者対応相談員カンファレンス開催(32回)
3. 患者相談対応件数(44件)
4. 診療記録等開示件数(37件)
5. 顧客サービス広報委員会開催(12回)
6. 医療従事者負担軽減対策委員会開催(2回)

注1)前任の齋藤室長が令和5年度末で退官したことを受け、令和6年度から菅野直樹が着任(兼任)。

注2)上記に伴い、令和6年度から「診療録等開示」は医事課へ、「顧客サービス広報委員会」と「医療従事者負担軽減対策委員会」は総務課へ移管となっている。

<令和6年度 目標>

「親しまれる病院」として、患者・家族が安心して治療・療養を送ることができるよう相談環境の整備を図る。



30. 医療安全推進室

【医療安全推進室長】 出羽 明子(副院長)

【医療安全管理者】 奈良輪弘美(看護師長)

【医療安全推進室員】 車田 真美(看護副部長)、橋本 健一(臨床工学技士課長)
川村 早苗(薬剤部病棟業務課長)、佐藤美千子(生理検査課長)
海藤 隆紀(画像情報係長)、安田美喜子(総務課 主事)

<令和5年度活動実績>

1. 医療安全研修

1)患者誤認防止対策 資料学習+テスト

受講人数：639名

2)令和4年度ヒヤリハット・アクシデント報告のまとめと安全対策 資料学習+テスト

受講人数：620名

3)「一次救命処置：BLS研修」

受講人数：403名

4)新採用職員オリエンテーション：医療安全

2. QCサークル活動

実施月日	項 目
5月19日	QCサークル活動キックオフ
7月14日	活動計画書提出
11月10日	中間報告書提出
1月9日	原稿データ提出
1月22日	QCサークル活動発表会
1月23日	QCサークル活動発表会
1月26日	最優秀賞：手術室 優秀賞：外来・健診課・訪問看護ステーション

3. 医療安全対策および医療安全推進室の活動

実施月	項目	対策等の活動内容
通年	医療安全推進室メンバーによる安全ラウンド	医療安全ラウンド、医薬品・医療機器安全ラウンド及びヒヤリハット・アクシデント発生時のラウンドを実施する。
通年	医療安全研修について	マイページ配信による研修を企画
通年	医療安全推進室カンファレンス	毎週木曜日に前週1週間に報告のあった事例について分析して対策を検討
通年	医療安全推進委員会 ワーキンググループ活動	①患者誤認防止対策チーム ②転倒転落防止対策チーム ③薬剤管理安全対策チーム

医療安全 対策①	オカレンス報告	IVR・内視鏡センターでの検査・治療において、オカレンス報告書を導入した。合併症を含む有害事象を把握することにより、その出来事に影響を及ぼしたシステムの要因を洗い出し、医療安全に役立てるようにした。
医療安全 対策②	向精神薬の管理	向精神薬(ミタゾラム注)が救急カート内に保管されていたが、定数管理ができていなかった。ミタゾラム・ホリゾンに関して、定数配置とし鍵付きの薬品棚(病棟)・金庫(ER)で保管するようにした。定数配置とした場合は、向精神注射薬使用確認ファイルに使用日・患者名・使用数・看護師サインを行い、定数補充した時に薬剤師のサインを行うようにした。
医療安全 対策③	造影剤副作用報告書テンプレート運用	造影剤副作用報告用紙をテンプレート化し、アレルギー情報が漏れなく、即座に共有できるようにした。
医療安全 対策④	手術チェックリストの変更	手術室入室後に、ウィック・ヘアピン・湿布が装着されていた事例が報告されたことから、手術前患者チェックリストを見直し、「入室前確認事項」をチェック項目毎にわけ、取り外せない場合はコメント入力できるようにした。

＜令和6年度の目標＞

1. 医療安全ラウンド

- 1) 医薬品・医療機器安全ラウンド・コメディカル部門安全ラウンド・医療安全環境ラウンド・転倒転落ラウンド等、院内各部署のラウンドを実施する。
- 2) ラウンド結果は各部署にフィードバックし必要時改善計画書の提出を求める。
- 3) ヒヤリハット・アクシデント事例発生時には随時ラウンドを実施する。

2. 医療安全研修会開催

- 1) マイページから資料・動画を配信して確認テストを実施する。
- 2) BLS研修を職員対象に行う。

3. 医療安全推進室カンファレンス開催

毎週木曜日に、前週に発生したヒヤリハット・アクシデント事例について分析と対策立案を行いフィードバックする。

4. ヒヤリハット・アクシデント報告の電子カルテシステムを導入する

5. 医療安全地域連携の相互評価を実施して当院の安全対策向上に努める

6. QCサークル活動の推進

31. 感染管理室

【室 長】 管野 隆三(呼吸器外科部長 兼 感染管理室長)

【室 員】 北村 慶(感染管理特定認定看護師)

1. 研修会開催

1) 院内感染研修

実施月日	対象者		テーマ	参加人数
4月5日	新人入職者(医師、看護師、薬剤師、事務等)		福島赤十字病院における感染対策	31名
5月26日～6月26日	全職員	第1回	「手指衛生サーベイランス」	635名
10月25日～11月25日	全職員	第2回	「医療関連感染サーベイランス」	659名

2) 看護補助者研修 10月 環境からの感染を防ぐ

3) 委託職員への感染研修 11月 手指衛生

4) 中途採用者への感染研修 資料配布・30分間

5) HCU 11月 人工呼吸器関連肺炎

6) HCU 12月 CAUTIサーベイランス

2. 感染対策(感染管理室およびICTの活動)

実施月	項目	対策などの活動内容
通年	感染対策マニュアルの改訂	内容追加・見直し
通年	手指衛生サーベイランス	手指消毒量払い出し量調査、直接観察
通年	耐性菌サーベイランス	JANIS(全入院患者部門、検査部門)
通年	VAEサーベイランス	HCU
通年	CAUTIサーベイランス	HCU
通年	SSIサーベイランス	JANIS
通年	感染対策ニュースレター発信	5回院内グループウェア配信
通年	院内感染対策委員会議事録の配信	12回院内グループウェア配信
通年	ICTラウンド	50回目的別ラウンドを実施(抗菌薬・耐性菌・環境ラウンドなど)
通年	感染研修の実施	感染研修一覧参照
通年	職業感染防止(ワクチン接種)	HBVワクチン、麻疹・風疹・水痘・ムンプス、インフルエンザ
通年	新型コロナワクチン	職員新型コロナワクチン接種
通年	合同カンファレンス	4回開催(藤田病院、わたり病院、第一病院、西部病院、福島市保健所、県北保健所、福島市医師会、伊達市医師会、連携クリニック)
通年	相互評価	2回開催(大原総合病院、杵記念病院)
令和6年2月	日本赤十字社北海道東北ブロック感染管理ネットワークセミナー主催	AMR(薬剤耐性)について
通年	結核接触者調査	結核届出数3件
通年	保健所へ感染届提出	発生届8件(結核届を除く)
通年	院内感染対策事例対応	27件
令和5年	新型コロナウイルス感染症対応	新型コロナウイルス感染症5類移行後対応

<令和6年度目標>

1. 院内感染防止

標準予防策の徹底

2. 感染研修の開催

参加者の知識や認知度に沿った内容の研修を企画し実施する。

3. 感染対策向上加算 1
合同カンファレンス、相互ラウンドの実施
4. ICT活動を通じて感染対策の充実を図る
 - 1) ICT会議、目的別ラウンドを週 1 回開催する。
 - (1) 耐性菌サーベイランスのフィードバック方法を見直し、電子カルテの活用
 - (2) 接触予防策ラウンド等の指導項目が改善される
 - (3) 手術部位感染 (SSI) サーベイランスの継続と、フィードバック
 - (4) カテーテル関連尿路感染 (CAUTI) サーベイランスの継続と、対象部署の拡大
 - (5) 人工呼吸器関連事象 (VAE) サーベイランスの継続と、フィードバック
 - (6) 手指衛生サーベイランスの継続と、感染対策リンクナースと協力し直接観察実施、手指消毒剤使用量の増加
5. 抗菌薬適正使用支援チーム活動の活発化
 - (1) 届出抗菌薬投与患者ラウンドの定期的な実施 (1 回/週)
 - (2) 投与患者に対し効果的な各種培養検査を推奨
 - (3) 抗菌薬適正使用関連感染研修の開催 (2 回/年)

32. 診療支援室

【診療支援室長】 菊田 基晴(兼 医事課長)

【診療支援係長】 高田日出子

【事務員】 樋口 由紀、山岸 優子、菅野 香子、鈴木 幸子、木村 仁美、
齋藤 有沙、根本 美穂、松川いつか、井上 希美、鈴木かおり、
八巻 千恵、須永万里子、黒江安希子、岡崎さゆり

＜令和 5 年度活動実績＞

- 1) 「入院総括」作成支援及び作成率向上に貢献
- 2) 病棟入院患者「実施済注射伝票」「実施済配置薬」入力支援
- 3) 「紹介状」入力支援
- 4) 外来診察代行入力支援
(循環器内科、眼科、リウマチ・膠原病内科、消化器内科、呼吸器外科、脳神経外科)
- 5) 問診票入力支援 (内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科)
- 6) 指導料・管理料代行入力支援
- 7) 文書作成支援
- 8) 返書作成支援
- 9) 予約入院パス代行入力支援
- 10) NCD症例登録支援
- 11) 福島県循環器疾患発症登録(心筋梗塞、急性死、脳卒中)支援
- 12) JND症例登録支援
- 13) JOANR症例登録支援
- 14) FFN-J症例登録支援
- 15) 緩和ケアチーム症例登録支援
- 16) がん登録

<令和6年度目標>

- 1) 前頁1)～16)を継続し医師の負担軽減に努める。
- 2) 医師事務作業補助体制加算20対1

33. 地域医療連携室

【室 長】 田畑 友子

地域医療連携係

【係 長】 伊藤 和子(地域医療連携係長)

【看護 師】 野田 江美

【社会福祉士】 松田千絵美、助川智恵子

【事務 員】 高田 淳子

<令和5年度実績>

地域医療支援病院の紹介率算定対象である初診の紹介件数は6,611件(前年度比+63件)と前年度より増加、7,411件(前年度比-478件)、紹介率は117.8%、逆紹介率は132.0%と高い率を維持している。紹介率・逆紹介率はともに地域医療支援病院の基準値を上回り、安定した数値で経過している。紹介・逆紹介数上位の医療機関は下記の通りである。

紹 介			逆紹介		
1	福島県立医科大学附属病院	577件	1	福島県立医科大学附属病院	826件
2	わたり病院	227件	2	わたり病院	442件
3	きっかわ皮膚科	188件	3	北福島医療センター	316件
4	北福島医療センター	165件	4	大原医療センター	290件
5	桑名医院	157件	5	あづま脳神経外科病院	239件
6	うめつLSクリニック	154件	6	大原総合病院	224件
6	おがたクリニック	129件	7	やざわみほこレディースクリニック	220件
8	みみ・はな・のど まついクリニック	114件	8	保原中央クリニック	148件
8	むつみ脳神経外科	114件	9	うめつLS内科クリニック	136件
9	皮膚科たんじクリニック	111件	10	済生会川俣病院	116件
11	済生会福島総合病院	108件	11	桑名医院	114件
12	せのうえ健康クリニック	105件	12	福島寿光病院	110件

共同利用については、CTは13医療機関より計273件(前年度比+15件)、MRIは12医療機関より計95件(-1件)、脳波は5医療機関より47件(-15件)、関節エコーは1医療機関より19件(+9件)、骨塩定量は4医療機関より58件(+29件)、神経伝導速度測定は1医療機関より6件(±0件)であった。CT・MRI共同利用の上位の医療機関は下記の通りである。

CT			MRI		
1	君島乳腺クリニック	96件	1	西口クリニック婦人科	27件
2	さくま内科クリニック	71件	2	わたり病院	20件
3	村上耳鼻咽喉科	41件	3	ライフ・ナビクリニック	16件
4	スリープ呼吸器内科クリニック	37件	4	かわかみ整形外科クリニック	6件
5	新浜町脳神経外科・内科クリニック	10件	5	後藤整形外科	5件

地域医療従事者研修会は、主にハイブリッド形式にて下記の通り開催した。

	内容・講師	対象	日時	参加者数
1	シリーズ『誤嚥性肺炎を予防する』第一弾 講師：リウマチ・膠原病センター長 宮田 昌之	地域の医療従事者・ 介護職員等	6月20日(火) 18:00～19:00	院外30名
2	シリーズ『誤嚥性肺炎を予防する』第二弾 講師：摂食・嚥下障害看護認定看護師 八木沼裕子	地域の医療従事者・ 介護職員等	7月26日(水) 18:00～19:00	院外27名
3	シリーズ『誤嚥性肺炎を予防する』第三弾 講師：言語聴覚士 齋藤 隆徳	地域の医療従事者・ 介護職員等	9月21日(木) 18:00～19:00	院内5名 院外24名
4	シリーズ『誤嚥性肺炎を予防する』第四弾 講師：管理栄養士 葛城 美貴	地域の医療従事者・ 介護職員等	10月25日(水) 18:00～19:00	院内4名 院外22名
5	シリーズ『誤嚥性肺炎を予防する』最終回 講師：認知症看護認定看護師 佐川奈美子	地域の医療従事者・ 介護職員等	2月2日(金) 18:00～19:00	院内6名 院外23名
6	BLS(Basic Life Support) 一次救命処置について 講師：救急看護認定看護師・外来師長 渡邊あゆみ	地域の医療従事者・ 介護職員等	5月31日(水) 18:00～19:00	院外30名
7	BLS(Basic Life Support) 一次救命処置(実技編) 福島赤十字病院BLSインストラクター	地域の医療従事者・ 介護職員等	11月17日(金) 18:00～19:00	院外12名
8	症例検討会 救急搬送患者 (当院・福島消防・伊達消防より1例ずつ)	救急隊	1月26日(金) 18:00～19:00	院内27名 福島消防 37名 伊達消防 22名
9	新型コロナウイルス感染症の現状と感染 対策 講師：感染管理特定認定看護師 北村 慶	地域の医療従事者・ 介護職員等	8月21日(月) 18:00～19:00	院内11名 院外26名
10	症例検討会 地域連携パス使用患者(脳卒中関連)	あづま脳神経外科 病院スタッフ	7月24日(月) 18:00～19:15	院内26名 あづま43名
11	緩和ケアフォーラム～当施設での緩和ケ アの取り組み 演者：緩和ケア認定看護師 新國 智子	地域の医療従事者	8月29日(火) 19:00～19:30	院内7名 院外28名
12	ストレスと漢方 演者：安斎外科胃腸科医院 院長 安斎 圭一 先生	地域の医療従事者	9月7日(木) 18:30～19:30	院内7名 院外21名
13	小児連携検討会(虐待関連)	大原綜合病院・わ たり病院スタッフ	9月26日(火) 17:45～18:45	院内9名 大原6名 わたり6名
14	超高齢者AF患者の抗凝固療法について 演者：副院長兼循環器センター長 大和田尊之	地域の医療従事者	11月2日(木) 19:00～20:30	院内4名 院外21名
15	症例検討会 化学療法レジメン研修会 (当院より3例、調剤薬局より2例)	地域の薬剤師	2月6日(火) 18:20～19:30	院内4名 院外22名

※7・8・10・13・15は集合形式、11・14はオンライン配信、それ以外はハイブリッド形式で開催

<令和6年度目標>

- 地域医療支援病院としての役割を果たす。
 - ①安定した紹介率・逆紹介率を維持する。
 - ②地域医療従事者研修会を開催し、地域の医療のレベルアップに寄与する。
 - ③地域医療支援委員会を開催し、地域の中での当院の課題を明らかにして対応に生かす。
- 紹介患者のスムーズな受け入れに心がける。
 - ①近隣医療機関への協力を依頼し、可能な限り予約での来院をうながす。

- ②即日診療依頼の不应需数を減少させる。
- 3. 感染予防には十分注意し、予約受付を行う。
 - ①紹介元医療機関へ問診票記入の協力を依頼する。
 - ②電話対応時にも感染症の可能性について注意して聞き取り、外来師長との連携を図る。

退院支援係・医療福祉係

【係 長】 高根 晴美(入退院支援係長・看護係長 退院支援担当)
菅野 直樹(医療福祉係長 精神保健福祉士)

【看護師】 佐藤美智子(退院支援担当)

【社会福祉士】 丸山 絢子(退院支援担当)
岡崎 美紀(退院支援担当)
渡邊 真衣(医療相談・患者サポート窓口担当)

<令和5年度実績>

患者の抱えている問題に対して相談員が対応した件数は下記の通りであった。新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少に伴い、相談支援件数は前年度同様減少傾向であった。退院支援においては、高齢・独居に加え認知症や悪性疾患等多問題のために退院を困難にしている入院患者増加の傾向は変わらず、さらに感染対策による面会制限も加わり、退院困難となることがあった。問題解決のために、院内多職種との協働、また地域の医療機関・福祉・介護スタッフとの連携を深め、合同カンファレンスの開催等は可能な限り行った。

相談員は看護職と福祉職が混在しているが、得意不得意分野を補い合える体制としている。また、勉強会を定期的に行うことにより、情報共有や学び合う機会を持ち、支援の質向上に努めてきた。

対応ケース実人数…1,959名(延べ相談件数7,122件)

主な相談援助調整内容…

在宅療養・介護に関すること	244件
制度活用に関すること	203件
受診・受療に関すること	215件
経済的問題に関すること	21件
その他	268件

*退院に関するもの…1,664名(延べ相談件数6,095件)

他の病院転院	745名
	(連携パス利用：脳卒中167件 大腿骨頸部骨折101件)
施設入所	338名
自宅退院	643名

*在宅スタッフとの合同カンファレンス…165回

<令和6年度目標>

1. ていねいな面接と院内他職種との協働、地域の関係医療・福祉・介護スタッフとの連携に心がける。(常に患者の「生活」を柱に支援する。)
2. オンラインの活用により合同カンファレンスを積極的に行うことで、患者支援の質向上を目指す。

【看護師】 霜山 千秋(看護師)、鶴田 彩夏(看護師)、岩谷 伽奈(看護師)
石黒 理子(看護師)

【事務】 ニチイスタッフ

<令和5年度実績>

入院が必要になった患者が安心して治療を受けながら入院生活を送ることができるよう支援することを目的としている。看護師が中心となり看護面談を行って患者情報を取得し、必要時には薬剤師やMSW等他職種との連携を図ることで、入院が予定された時から退院後の療養生活を見据えて必要な支援を早期に開始することができる。それにより、患者が一日も早く健康を回復し、住み慣れた生活の場に戻ることができることを目指している。また、事務担当者は、入院日までに必要な手続きや書類等についての説明を行い、準備をスムーズに行うことができるように支援している。入院当日は当センターに来室し、書類の確認の後に病棟からの迎えを待つが、入院前に関わりを持ったスタッフが迎えることで、患者の安心感につながるのではないかと考える。外来、病棟との情報共有が課題であったが、看護部との定期的な打ち合わせを行い、電子カルテ上の伝達についてルール化した。

看護面談の対応は2,695件(予定1,573件、外来からの依頼即日対応1,154件)であった。

<令和6年度目標>

1. 患者が、入院後の治療・療養生活をイメージでき、安心して入院当日を迎えることができるようにする。
2. 入院前から退院後の生活を見据えた必要な支援につなげることができるようにする。
3. 外来、病棟との情報共有を行うことで、スムーズな入院支援を行うことができるようにする。

34. 福島赤十字訪問看護ステーション

【スタッフ】 5名

【所 長】 齋藤 泉

【看護師】 高橋美千代・中村 広子・安田みどり・黒沢真由美

<令和5年度活動実績>

利用者数(のべ人数)	介護保険996人・医療保険146人	合計1,142人
新規利用者数	介護保険66人・医療保険28人	合計94人
訪問件数(のべ件数)	介護保険4,480件・医療保険794件	合計4,554件
介護保険単価(介護保険の収益／介護保険件数)	8,300円	
医療保険単価(医療保険の収益／医療保険件数)	12,300円	
在宅看取り数	18件	

- ・利用者数は前年を下回ったが、新規利用者数は増加した。利用者のうち、母体病院又は主治医である利用者は4～6割であった。また、退院カンファレンスに積極的に参加し、入院中の患者が安心して在宅療養に移行できるよう支援していった。
- ・意思決定支援に焦点をあて、小集団活動を実施した。

- ・在宅サービスの需要は増加傾向にあると思われるが、市内に新規訪問看護ステーションの増加等の要因もあり新規利用者の獲得が厳しい状況にある。病院地域連携室との連携を密にし、新規利用者の受け入れを継続する。
- ・サービス内容については多様性であり、個別性のある支援が求められた。スタッフは、研修会等に積極的に参加しスタッフ1人1人の看護力やサービスの質向上に努めた。

<令和6年度目標>

- 1)在宅療養者の個々のニーズをとらえ適切なプランを立案し支援する
意志決定支援を充実させ療養者の意志を尊重した看護の提供を行う
カンファレンスを充実させることで、個々のニーズを捉えた支援の提供を行う
- 2)地域や病院多職種との連携を強化し総合的なケアを提供する
施設職員とスムーズに情報共有できる体制を整え統一したケアの提供を実施する
病院多職種と連携し総合的なケアを提供する
- 3)継続的な教育と業務の効率化を図り看護の質を向上させる
看護業務内容とマニュアルを見直し、修正・作成を行う。新任看護師の教育計画を確率させる
研修会に参加し看護力の向上を図る
- 4)令和6年度診療報酬・介護報酬に対する対応を実施する

V

会議・委員会活動

1. 会議.....	129
2. 病院運営に関する委員会.....	141
3. 医療安全管理に関する委員会.....	150
4. 診療に関する委員会.....	156
5. 教育・研究に関する委員会.....	165
6. 労務および安全管理に関する委員会...	166



1. 会議

1. 幹部会議	
開催日	議題
1：原則、毎週月曜日(祝日の場合は火曜日) 2：時間 8時30分から	1：病院および幹部週間行事予定等の確認 2：病院における経営方針及び業務の運営・管理に関する重要事項の審議 3：病院全体および各部門における運営等に関する報告、検討、協議事項の掌握 4：各部門(医療安全、感染他)情報共有伝達
令和5年4月	3日(月) 10日(月) 17日(月) 24日(月)
5月	8日(月) 15日(月) 22日(月) 29日(月)
6月	5日(月) 12日(月) 19日(月) 26日(月)
7月	3日(月) 10日(月) 18日(火) 24日(月) 31日(月)
8月	7日(月) 15日(火) 21日(月) 28日(月)
9月	4日(月) 12日(火) 19日(火) 25日(月)
10月	2日(月) 10日(火) 16日(月) 23日(月) 30日(月)
11月	6日(月) 13日(月) 20日(月) 27日(月)
12月	4日(月) 11日(月) 18日(月) 25日(月)
令和6年1月	9日(火) 15日(月) 22日(月) 29日(月)
2月	5日(月) 13日(火) 19日(月) 26日(月)
3月	4日(月) 11日(月) 18日(月) 25日(月)

2. 総合戦略会議	
第1回	令和5年4月28日(金)
1. 総合戦略会議設置の趣旨について 2. 総合戦略会議の規程の確認(事務局) 3. 総合戦略会議の体制について(事務局) ・ 総合戦略会議 議員名簿の確認 ・ 各会の長と事務局の確認 4. 医療の質向上委員会と経営部会の役割について ・ 医療の質向上委員会：出羽副院長 ・ 経営部会：松本経営企画課長 ・ 総合戦略会議をはじめるにあたって：金子主事 5. 総合戦略会議の運営方法について(事務局) ・ 運営の流れ ・ 提案、承認、実行のスケジュール ・ 改善提案書兼対応方法報告書 ・ 総合戦略会議で決定したことの周知について ・ 総合戦略会議への相談・検討依頼の窓口について 6. 収支報告(松本経営企画課長)	

第2回	令和5年5月31日(水)
1. 院長より(鈴木院長) 2. 令和5年4月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 事務局からの報告(経営企画課・佐藤主事) ・職員向け広報ページの確認 ・改善提案が実行されるまでの流れ 4. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・病院機能評価中間結果報告の課題に対する取り組み ・3つの箱の運用について (業務改善、良い取り組み、院長への相談) 5. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・令和5年度 経営改善施策 早期取り組み事項(案) ・アクションプランについて	
第3回	令和5年6月30日(金)
1. 院長より(鈴木院長) 2. 令和5年5月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・職員からの改善案の投稿について ・委員会組織の再編について ・職員満足度向上のための施策(キッチンカー)について 4. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・各アクションプランの進捗について(抜粋) ・病床運用の効率化について ・「経営改善説明会(仮)」の開催について 5. 事務局からの報告(経営企画課・佐藤主事) ・職員向け広報ページとマイページへの資料掲載について ・会議開始時の幹部コメントの持ち回りについて ・改善案件一覧に記載する情報について ・箱の名称募集と設置について ・総合戦略会議議員の変更について(看護部副部長の追加)	
第4回	令和5年7月31日(月)
1. 幹部より(大和田副院長) 2. 令和5年6月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・臨床指標改善の取り組み ・職員満足度向上のための取り組み ・業務改善の提案の報告 ・いいねの箱の進捗状況について 4. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・アクションプランの進捗状況について 紹介増加のための開業医訪問、開業医への情報提供について費用削減のための取り組み ・経営改善説明会の開催について 5. 事務局からの報告(経営企画課・佐藤主事) ・改善提案の箱の名称募集のための設置について 6. その他 ・医療事業推進本部庄野副本部長の講演会アンケートの結果について(総務課・富田課長)	

第5回	令和5年8月31日(木)
1. 幹部より(出羽副院長) 2. 令和5年7月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・業務改善といいねの箱の名称募集運用開始について ・いいねの箱の運用方法について ・業務改善案の報告 ・キッチンカーの実施報告について 4. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・アクションプランの進捗報告 ・オーバーナイト入院について 5. その他 ・紹介受診重点医療機関について(医事課・菊田課長)	
第6回	令和5年9月29日(金)
1. 幹部より(野田事務部長) 2. 令和5年8月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 10月以降の6A病棟の運用について(野田事務部長) 4. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・病院機能評価のアクションプランの進捗について ・職員満足度調査について ・委員会組織再編に向けたルール策定について 5. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・各診療科からクリニックへの情報発信 ・加算の件数増加 ・費用削減(電気料金) ・オーバーナイトパスについて 6. 事務局からの報告(経営企画課・佐藤主事) ・箱の名称募集の結果について	
第7回	令和5年10月31日(火)
1. 幹部より(鈴木看護部長) 2. 令和5年9月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・委員会再編についての取り組み ・ご意見箱について 4. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・アクションプランの進捗について ・オーバーナイトパスについて	
第8回	令和5年11月28日(火)
1. 幹部より(鈴木院長) 2. 令和5年10月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・委員会組織再編に向けたルール策定について ・改善箱への投書について 4. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・アクションプランの進捗について	

第9回	令和5年12月27日(水)
1. 幹部より(大和田副院長) 2. 令和5年11月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・医科、歯科連携について ・宛て職以外の委員会の委員長案について ・芽吹きの意見箱への投書について ・職員満足度調査について 4. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・アクションプランの進捗報告 －経過観察入院パス －救急医療管理加算について －加算の件数増加、指導料と管理料について －費用削減 －ベストタイミングリストについて	
第10回	令和6年1月31日(水)
1. 幹部より(出羽副院長) 2. 令和5年12月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・医科、歯科連携について ・芽吹きの意見箱への投書について ・職員満足度調査について ・宛て職以外の委員会の委員長案について 4. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・アクションプランの進捗報告 －クリニックへの訪問について －クリニックへの情報発信について －救急医療管理加算について －加算の件数増加、指導料・管理料について －費用削減について －ベストタイミングリストについて －第2回経営改善説明会について	
第11回	令和6年2月29日(木)
1. 幹部より(鈴木看護部長) 2. 令和5年1月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・委員会組織再編について ・芽吹きの意見箱へのご意見について ・満足度調査について ・病院機能評価 アクションプランの進捗について 4. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・アクションプランの進捗について ・ベストタイミングリストについて 5. 事務局からの報告(経営企画課・佐藤主事) ・病院スローガンについて	

第12回	令和6年3月28日(木)
1. 幹部より(野田事務部長) 2. 令和6年2月度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 医療の質向上委員会からの報告(経営企画課・奈良輪係長) ・委員会の規定改定、組織再編について ・芽吹きの意見箱 - スマートフォン入れ替えについて - 職員ネームカードのレイアウト変更について ・職員満足度調査の結果について ・アクションプランの進捗について 4. 経営部会からの報告(経営企画課・松本課長、金子主事) ・アクションプランの進捗報告について 5. 事務局からの報告(経営企画課・佐藤主事) ・病院スローガンの募集について	

3. 病院管理会議	
第1回	令和5年4月5日(水)
1. 収支状況 2. 令和5年度の予算について 3. 救急車収容状況等 4. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・DPC経営改善委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 5. その他 ・用度施設課	
第2回	令和5年5月8日(月)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・DPC経営改善委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・教育研修推進室 ・経営企画課	
第3回	令和5年6月1日(木)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・DPC経営改善委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・教育研修推進室	

第4回	令和5年7月3日(月)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・持参薬ワーキンググループ ・教育研修推進室	
第5回	令和5年8月1日(火)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・教育研修推進室	
第6回	令和5年9月4日(月)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・教育研修推進室	
第7回	令和5年10月2日(月)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・教育研修推進室	

第8回	令和5年11月1日(月)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・教育研修推進室 ・総務課 ・「経過観察入院パス」について ・「病院年報の作成依頼」について ・「インフルエンザ予防接種」について	
第9回	令和5年12月4日(月)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・教育研修推進室 ・総務課	
第10回	令和6年1月5日(金)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・教育研修推進室 ・総務課	
第11回	令和6年2月1日(木)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・教育研修推進室 ・医療の質向上委員会	

第12回	令和6年3月1日(金)
1. 収支状況 2. 救急車収容状況等 3. 委員会より ・院内感染対策委員会 ・医療安全管理委員会 ・医療情報システム委員会 ・診療情報管理委員会 4. その他 ・教育研修推進室 ・医療情報システム課	

4. 医療の質向上部会	
目 的	当院のビジョンである「地域の人々から選ばれる病院」になる為に病院ブランドの向上を目的に次の事項を所掌する。 ・日本赤十字社が定める臨床評価指標改善に向けた取り組み ・患者満足度、職員満足度向上の対策立案と実行および評価 ・委員会での取り組み結果のPR(患者及び職員向け) ・病院機能評価への対応および準備
委 員 長 副委員長	出羽 明子(副院長 兼 麻酔科部長) 多田 靖宏(耳鼻咽喉科部長 兼 嚥下・ボイスセンター長 兼 医療情報部門責任者) 車田 真美(看護副部長)
第1回	令和5年5月22日(月)
1. 医療の質向上委員会の役割について(出羽委員長) 2. 医療の質向上委員会の体制について(事務局) ・医療の質向上委員会 委員名簿の確認 3. 医療の質向上委員会の規程確認(事務局) 4. 協議事項 ・病院機能評価 中間報告結果について ・委員からの改善案募集結果について ・ご意見等に関する3つの箱の運用案について	
第2回	令和5年6月19日(月)
1. 病院機能評価アクションプランの進捗報告 2. 協議事項 ・委員会再編に係るヒアリング項目の確認について 3. グループ討議 ・臨床評価指標改善に向けた取り組み ・患者満足度、職員満足度向上の対策立案	

第3回	令和5年7月14日(金)
1. 病院機能評価アクションプランの進捗報告 2. 報告事項 ・臨床評価指標の未提出データについて ①手術開始1時間前の抗菌薬投与の有無 ②身体拘束を行った延べ患者数 3. 協議事項 ・業務改善の窓口への投書について 4. グループ討議 ・臨床評価指標改善に向けた取り組み ・職員満足度向上の対策立案	
第4回	令和5年8月24日(木) ※マイページ開催
1. 報告事項 ・業務改善の窓口への投書について(3件) ・キッチンカーのアンケート結果について ・投書箱の名称募集について	
第5回	令和5年9月15日(金)
1. 報告事項 ・病院機能評価アクションプランの進捗報告 ・職員満足度調査について 2. 協議事項 ・改善箱への投書(2件) ・委員会組織再編に向けたルール策定について	
第6回	令和5年10月16日(月)
1. 報告事項 ・委員会・WGの運営方法に関するアンケート結果 2. 協議事項 ・委員会組織再編に向けた規定案について	
第7回	令和5年11月20日(月)
1. 協議事項 ・委員会組織再編に向けた規定案について ・委員会の統合について ・病院指標・臨床指標のHP掲載に関する取り決めについて 2. 報告事項 ・改善箱への投書について	
第8回	令和5年12月18日(月)
1. 協議事項 ・委員会の委員選定について ・芽吹きの意見箱への投書について(1件) 2. 報告事項 ・職員満足度調査の実施について ・病院機能評価アクションプランの進捗報告	

第9回	令和6年1月15日(月)
1. 協議事項 ・ 医科・歯科連携について(返書のレイアウト確認) ・ 臨床指標の公開項目について(医事課) ・ 芽吹きの意見箱への投書について(2件) 2. 報告事項 ・ 職員満足度調査の実施について ・ 宛て職以外の委員会委員長の選定について	
第10回	令和6年2月19日(月)
1. 協議事項 ・ 委員会の委員選定について ・ 芽吹きの意見箱への投書について(1件) 2. 報告事項 ・ 職員満足度調査の実施について ・ 病院機能評価アクションプランの進捗報告	
第11回	令和6年3月18日(月)
1. 協議事項 ・ 委員会の規定について ・ 芽吹きの意見箱への投書について(2件) 2. 報告事項 ・ 職員満足度調査の結果について ・ 患者満足度調査の進捗報告(3/15時点) ・ 病院機能評価アクションプランの進捗報告	

5. 経営部会	
目 的	良質な医療の提供、及び健全な病院経営を行うには収益の改善が必須であることから、次の事項について検討を行う。 ①新入院患者数の増加／病床稼働率の向上 ②診療単価の向上 ③費用削減(材料費、医薬品費、保守費用など) ④職員の経営に対する意識の向上
部 会 長	松本 修(経営企画課長)
第1回	令和5年5月18日(木)
1. 経営部会について 2. 課題の分析とアクションプランの策定について	
第2回	令和5年6月15日(木)
1. 病床運用の効率化について 2. アクションプラン進捗確認 経営企画課、医事課、用度施設課 3. 経営改善説明会について	
第3回	令和5年7月13日(木)
1. アクションプラン進捗確認 経営企画課、医事課、用度施設課 2. ベストタイミングリストについて 3. オーバーナイト入院について 4. 経営改善説明会について	

第4回	令和5年8月22日(火)
1. アクションプラン進捗確認 経営企画課、医事課、用度施設課 2. オーバーナイト入院について 3. 2024年診療報酬改定について 4. その他	
第5回	令和5年9月14日(木)
1. アクションプラン進捗確認 経営企画課、医事課、用度施設課 2. オーバーナイト入院について 3. ベストタイミングリストについて 4. 2024年診療報酬改定について	
第6回	令和5年10月19日(木)
1. アクションプラン進捗確認 経営企画課、医事課、用度施設課 2. オーバーナイト入院について 3. 2024年診療報酬改定について	
第7回	令和5年11月16日(木)
1. アクションプラン進捗確認 経営企画課、医事課、用度施設課 2. その他 ・ベストタイミングリストについて ・4病棟の使い方について	
第8回	令和5年12月14日(木)
1. エムシーヘルスケアによる診療材料費削減の提案 2. アクションプラン進捗確認 経営企画課、医事課、用度施設課 3. その他 ・メディカルディレクションによるレセプト請求漏れチェックについて ・第2回経営改善説明会の開催について ・外調機の外気取込量削減について ・図書の購入について	
第9回	令和6年1月17日(水)
1. NHAによる診療材料費削減の提案 2. アクションプラン進捗確認 経営企画課、医事課、用度施設課 3. その他 ・第2回経営改善説明会の開催について	
第10回	令和6年2月15日(木)
1. アクションプラン進捗確認 経営企画課、医事課、用度施設課 2. その他 ・RPAについて ・第2回経営改善説明会の開催について	

第11回	令和6年3月14日(木)
1. アクションプラン進捗確認 経営企画課、医事課、用度施設課 2. 令和5年度アクションプランの振り返り 3. その他 ・第2回経営改善説明会の開催について ・総合入院体制加算について ・来年度の経営部会について	



2. 病院運営に関する委員会

6. 倫理委員会	
目 的	本院及びその職員が人を対象とした医学の研究、ヒトゲノム・遺伝子解析研究及び医療行為を行う場合において、医の倫理に関するヘルシンキ宣言(1964年)の趣旨に添った倫理的配慮を図る。
委 員 長 副委員長	出羽 明子(副院長) 大和田尊之(副院長)
第 1 回	令和 5 年 4 月 26 日 (水)
1. 倫理審査申請「高齢者の股関節手術における麻酔法の検討」	
第 2 回	令和 5 年 6 月 27 日 (火)
1. 新規医療技術実施申請「尿失禁防止術」	
第 3 回	令和 5 年 8 月 2 日 (水)
1. 倫理審査申請 「日本における大腿骨近位部骨折の適正治療を目指したナショナルデータベースの作成について」	
第 4 回	令和 5 年 10 月 23 日 (月)
1. 新規医療技術実施申請「陰茎切断術」「経尿道的レーザー前立腺切除・蒸散術」 2. 倫理審査申請 「当院における子宮附属器(卵巣・卵管)手術症例の手術成績に関する研究、特に子宮附属器茎捻転症例の手術成績に関する後方視的臨床研究」	
第 5 回	令和 5 年 12 月 22 日 (金)
1. 新規医療技術実施申請「膀胱憩室切除術」 2. 倫理審査申請 「消化器疾患に対する内視鏡診断の診断能ならびに周術期管理に関する研究」	
第 6 回	令和 5 年 2 月 29 日 (木)
1. 倫理審査申請「当院におけるくも膜下出血後のクラゾセプタンの使用経験」 2. 倫理審査申請「医薬品等の適応外使用審査申請について」 3. 倫理審査申請「膵・胆道疾患に対する内視鏡的逆行性膵胆管造影検査および関連手技の治療成績に関する研究」	

7. 治験審査委員会	
目 的	「治験審査委員会標準業務手順書」参照
委 員 長 副委員長	大和田尊之(副院長、循環器センター長) 管野 隆三(呼吸器外科部長)
令和 5 年度会議開催は有りませんでした。	

8. 栄養管理委員会	
目 的	本院の給食計画及び給食全般の改善実施について、検討並びに院長の諮問に応える。
委 員 長 副委員長	渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長) 大須賀文彦(外科部長)
	4月18日(火)
	・栄養管理委員会委員変更 ・栄養指導件数、個別栄養食事管理加算件数 ・保健所立入検査口頭指摘事項について ・機能評価指摘事項について ・今年度の会議開催、議事録運用について
	6月20日(火) ～マイページ開催～
	・栄養指導件数、個別栄養食事管理加算件数
	8月15日(火)
	・栄養指導件数、個別栄養食事管理加算件数 ・食材費単価高騰について ・医師検食について
	10月17日(火)
参加者半数以下の為、中止	
	12月19日(火)
	・栄養管理委員会委員変更 ・栄養指導件数、個別栄養食事管理加算件数 ・保健所立入調査報告 ・さば禁・さばアレルギー設定変更について ・医師検食について
	2月20日(火)
	・栄養指導件数、個別栄養食事管理加算件数 ・来年度の委員会開催日程の変更について ・規約改定

9. 診療材料購入等審議委員会	
目 的	健全な業務運営に資することを目的とし、本院において使用する診療材料の購入、使用及び管理等の適正化を図る。
委 員 長 副委員長	大和田尊之(副院長 兼 循環器センター長) 大須賀文彦(外科部長)
第1回	令和6年3月6日
1. 診療材料の販売中止および代替品の案内(IVHカテーテル) 2. 診療材料の新規採用申請(在宅自己注射・ペン型注入器用注射針) 3. 令和6年4月からの診療材料調達支援について 4. 委員会規程の改正について 5. 診療材料調達支援委託会社の紹介	

10. 災害対策委員会	
目 的	災害発生時における医療救護及び被害の拡大防止・災害復旧並びに災害・火災から職員、患者の生命、身体及び施設等を守るため、災害・防火対策に関する必要な事項を定める
委 員 長 副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 渡部 研一(循環器内科部主任部長) 市川 剛(脳神経外科部長) 中村耕一郎(脳神経内科部主任部長)
第1回	令和5年5月15日(月)
1. 今年度の災害対策委員会委員について 2. 今年度の救護班編成・DMAT隊員の状況等 3. 昨年度の訓練等実施状況、今年度の災害救護訓練・研修会について 4. 救護員の育成体系について 5. 今年度の支部訓練について 6. その他報告・連絡・確認事項等	
第2回	令和5年11月15日(水)
1. 今年度の災害対策委員会委員について 2. DMAT隊員の状況等 3. 訓練・研修会等の参加状況等 4. 災害拠点病院実地検査 5. 今年度の院内災害訓練の実施について 6. 栄養課から提出の議題について 7 その他	

11. 医療情報システム検討委員会	
目 的	病院の医療情報の一元化を図り、総合的な医療情報システムの確立、段階的に診療システム導入としてオーダリングシステム、電子カルテシステムの構築など将来的なシステムに関する事項を調査検討して、導入の可能性の有無及び導入時期・システム規模等について審議する。
委 員 長 副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 医療情報部門責任者) 渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長)
第1回	令和6年2月14日(水)
1. 【報告事項】 (1) システムの機能変更の報告 ○感染症画面への項目追加(HBs抗体、HBc抗体) ○生理検査オーダー 2週間心電図追加 ○注射薬臨時請求伝票の運用変更、口頭指示メモのレイアウト変更 ○病名代行入力の実用開始(2/19より) ○PFM予約枠運用(2/13より) 2. 【検討事項】 (1) 機能追加・変更について ○栄養管理システムの端末追加、食材の検収に係る帳票のカスタマイズ(有償) ○病棟での予約票出力の抑止対応について(医療の質向上委員会より) ○死亡患者のプロファイル情報およびカルテ記載について(医療の質向上委員会より) (2) 福島赤十字病院 情報セキュリティ管理規定について ○USBの管理に関する注意喚起 3. 【各部署より定例報告】 4. 【その他連絡事項】 ○令和6年度のシステム関連プロジェクトについて ○診療報酬改定事前修正情報適用のため、電子カルテを停止します。(2/18(日)) ○部署・委員会からの情報発信およびシステム掲示板掲載のルール化について ○ホームページサーバ移行に伴うメール設定変更作業のお知らせ ○福島赤十字病院におけるRPAの推進について ○福島赤十字病院におけるIT-BCP対策(CSIRT整備)について	

12. 地域医療連携運営委員会	
目 的	本院と地域の医療機関が診療に関して緊密な連携を図ることにより、地域医療により良い環境を整える。
委 員 長 副委員長	鈴木 恭一(院長) 田畑 友子(地域医療連携室長)
	令和5年12月20日(水) 16:30~17:20
1. 令和4年度地域医療連携運営委員会委員の変更について 2. 報告事項 1)実績報告(紹介率・逆紹介率) 2)きびたん健康ネット登録状況報告 3)開業医からの要望・クレームへの対応体制について 3. 検討事項 1)診療情報提供書の有効期限について 2)退院報告書、逆紹介の料金について	

13. 地域医療支援委員会	
目 的	本院と地域の医療機関が診療に関して緊密な連携を図ることにより、地域医療により良い環境を整える。
委 員 長 副委員長	鈴木 恭一(院長) 田畑 友子(地域医療連携室長)
第1回	令和5年6月7日(木)17:30~18:45
1. 令和5年度地域医療連携運営委員の変更について 2. 令和4年度実績報告 1)紹介率・逆紹介率 2)共同利用件数 3)救急外来患者状況 4)地域医療従事者研修会 3. 令和5年度目標数値・医療従事者研修会予定 4. 令和4年度連携関連データまとめの報告 5. 話題提供 福島市の救急医療について	
第2回	令和5年8月23日(水) 17:30~18:45
1. 業務報告 1)紹介率・逆紹介率 2)共同利用件数 3)救急外来患者状況 4)地域医療従事者研修会 2. 地域医療、救急医療に関する情報共有 1)新型コロナ患者受け入れについて 2)精神病棟閉鎖後の身体合併症を持つ精神疾患症例受け入れ状況 3)福島市内救急搬送困難事例増加について	

第3回	令和5月11月15日(水) 17:30~18:30
1. 委員の委嘱 2. 業務報告(令和5年4~10月) 1) 紹介率・逆紹介率 2) 共同利用件数 3) 救急外来患者状況 4) 地域医療従事者研修会 3. 病院機能評価受審報告	
第4回	令和6年2月28日(水) 18:00~19:00
1. 業務報告 1) 紹介率・逆紹介率 2) 共同利用件数 3) 救急外来患者状況 4) 地域医療従事者研修会 2. 報告(鈴木院長) 1) 宿日直許可取得状況報告 2) 能登地震の救護支援活動報告 3) 地域医療機関からのクレーム対応について	

14. 病床管理委員会	
目 的	ベッドコントロールの円滑化と病床の有効活用
委 員 長	大和田尊之(副院長)
副委員長	車田 真美(看護副部長)
令和5年度活動実績なし	

15. 外来運営委員会	
目 的	外来診療の適正な管理、運営を図ることを目的とする
委 員 長	大和田尊之(副院長)
副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 医療情報部門責任者) 安達 明美(外来看護師長)
第3回	令和5年12月26日(火)
①入退院支援センター(PFM)の運用変更について ・予約制導入の検討・決定	

16. 診療報酬適正化委員会	
目 的	本院における適正算定及び査定防止を図る。
委 員 長	黒田 聖仁(消化器内科部主任部長)
副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長)
第1回	令和5年4月26日(水)
1. 令和4年11月、令和4年12月診療分保険査定について 2. その他	
第2回	令和5年6月28日(水)・マイページ開催
1. 令和5年1月、令和5年2月診療分保険査定について 2. その他	

第3回	令和5年8月24日(木)
1. 令和5年3月、令和5年4月診療分保険査定について 2. その他	
第4回	令和5年10月25日(水)・マイページ開催
1. 令和5年5月、令和5年6月診療分保険査定について 2. その他	
第5回	令和5年12月27日(水)・マイページ開催
1. 令和5年7月、令和5年8月診療分保険査定について 2. その他	
第6回	令和6年2月20日(火)
1. 令和4年9月、令和4年10月診療分保険査定について	

17. 薬事委員会	
目 的	本委員会は、福島赤十字病院における医薬品の適正な管理と効率的な運用を目指すために設立された。その目的は、医薬品管理の標準化を達成することによって、診療部門における医療の質を保つことに貢献すると共に、病院経営上のコストベネフィットを向上させる事である。そのために本委員会では、有効性、安全性、経済性、合理性、フェアネスを基準として採用可否を審査している。
委 員 長 副委員長	市橋 淳(薬剤部長) 黒田 聖仁(消化器内科部主任部長)
第1回	令和5年5月15日(月)
1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 副作用報告 4. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、販売中止) 5. 後発品の変更 6. 副作用報告	
第2回	令和5年7月10日(月)
1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収、販売中止) 4. 後発品への変更 5. 副作用報告	
第3回	令和5年9月11日(月)
1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収、販売中止) 4. 院内フォーミュラーの改訂(骨粗鬆剤の追加) 5. R5年度インフルエンザHAワクチン株の決定・供給について 6. 副作用報告	
第4回	令和5年11月6日(月)
1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・限定出荷解除)	
第5回	令和6年1月16日(火)
1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延、販売中止、限定出荷解除) 4. 副作用報告 5. 後発品の変更	
第6回	令和6年3月4日(月)
1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、販売中止) 4. 一般名処方の推進について 5. 後発品の変更	

18. 顧客サービス・広報委員会	
目 的	療養環境・職場環境・接遇の改善等により、顧客(患者)の満足度を向上させ、顧客(患者)を意識した正確な情報発信を検討する。
委 員 長 副委員長	野田 誠(事務部長) 阪本 貴之(循環器内科部長 兼 医局長) 渡邊あゆみ(看護部外来看護師長)
第 1 回	令和 5 年 4 月 21 日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 各部門からの情報提供、懸案事項等	
第 2 回	令和 5 年 5 月 26 日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 各部門からの情報提供、懸案事項等	
第 3 回	令和 5 年 6 月 23 日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 ・wi-fiアンケート集計結果について ・令和 5 年度患者満足度調査について	
第 4 回	令和 5 年 7 月 28 日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 ・患者満足度調査の業者選定について ・病院ホームページへのコラム掲載について ・アクションプラン作成について	
第 5 回	令和 5 年 8 月 25 日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について ※“少ないご意見数(5件(うち感謝2件))”、“特段の審議事項なし”等で、マイページにて開催	
第 6 回	令和 5 年 9 月 22 日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について(4) 4. その他 各部門からの情報提供、懸案事項等	
第 7 回	令和 5 年 10 月 27 日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 ・委託業者への聞き取り依頼文(病棟勤務職員)について ・患者用wi-fiを設置しない理由の掲載案について ・前回の委員会で取り上げられた件について ※“少ないご意見数(3件(うち感謝2件、割愛1件))”、“特段の審議事項なし”等で、マイページにて開催	

第8回	令和5年11月24日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 各部門からの情報提供、懸案事項等	
第9回	令和5年12月22日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について ※“少ないご意見数(4件)”、“特段の審議事項なし”等で、マイページにて開催	
第10回	令和6年1月26日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 各部門からの情報提供、懸案事項等	
第11回	令和6年2月22日(木)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 各部門からの情報提供、懸案事項等	
第12回	令和6年3月22日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他	

19. 個人情報保護委員会	
目 的	患者様、職員の個人情報を適正に管理するための規則の取り決め、周知、教育を行う。
委 員 長	野田 誠
委員会の開催なし	
	令和5年8月30日
マイページで個人情報保護研修を実施した。	

20. 省エネルギー推進委員会	
目 的	本委員会は福島赤十字病院の省エネルギー活動を効果的に推進することを目的として、省エネ法に適合したエネルギー管理方針を定め運用する。
委員長 副委員長 エネルギー管理 企画推進委員	大和田尊之 野田 誠 濱名 正美
第 1 回	令和 5 年 12 月 7 日 (水) 会場 16:00~17:00 研修棟 3 階
1. 7 月、11 月のエネルギー使用量について 2. ES事業より ・エネルギー使用量について ・省エネ提案について 3. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調管理規定について ・電気機器管理規定について 4. ウォームビズのお願い ・職員にウォームビズのお願い 5. 啓蒙、啓発活動について ・省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告	
第 2 回	令和 6 年 2 月 8 日 (木) 会場 16:00~17:00 研修棟 2 階
1. 12 月、1 月のエネルギー使用量について 今年度 4 月～1 月までのエネルギー使用量について 2. ES事業より ・エネルギー、空調、コンセント、照明の使用量について ・省エネ推進について 3. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調管理規定について ・電気機器管理規定について 4. 啓蒙、啓発活動について ・省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告 5. その他 経営企画課より「委員会組織再編・見直し」について	

21. 経営改善委員会	
目 的	健全な病院経営のための施策の検討
委 員 長 副委員長	鈴木 恭一(院長) 野田 誠(事務部長)
令和 5 年度活動なし	



3. 医療安全管理に関する委員会

22. 医療安全管理委員会	
目 的	医療事故防止対策の検討及び推進を図る。
委員長	鈴木 恭一(院長)
副委員長	出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長)
第1回	令和5年5月2日(火)
1. アクシデント事例検討 2. 勃起不全に対する薬物・保険外診療に関する同意書について 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 3月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第2回	令和5年5月25日(木)
1. 勃起不全に対する薬物・保険外診療に関する同意書について 2. 泌尿器科新規同意書申請 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 4月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第3回	令和5年6月22日(木)
1. アクシデント事例検討 2. フルオレセン造影剤使用検査に関する説明と同意書申請 3. 同意書承認に関する事項 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 5月分死亡患者カルテ確認結果報告 7. 令和5年度東北ブロック医療安全推進担当者研修について	
第4回	令和5年7月27日(木)
1. アクシデント事例検討 2. IVR・内視鏡センターのオカレンス報告書内容について 3. 安全保護(身体抑制)対策同意書修正について 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 6月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第5回	令和5年8月24日(水)
1. アクシデント事例検討 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 7月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第6回	令和5年9月27日(水)
1. アクシデント事例検討 2. メトジェクトによる免疫療法の説明および同意書申請 3. 医療安全管理マニュアル修正について 4. 深部静脈血栓症予防対策マニュアル修正について 5. 診療拒否を申し立てた患者家族に関する電子カルテ記載について 6. 医療安全推進委員会報告 7. 患者相談室カンファレンス報告 8. 8月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第7回	令和5年10月26日(木)
1. 医療安全推進週間について 2. QCサークル活動報告 3. 泌尿器科新規同意書申請 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 9月分死亡患者カルテ確認結果報告 7. 保健所立ち入り調査報告 8. 東北ブロック医療安全推進担当者養成研修について	
第8回	令和5年11月22日(水)
1. 口頭指示メモ・注射伝票の変更について 2. 注射薬臨時請求運用の変更について 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 10月分死亡患者カルテ確認結果報告 6. 報告書確認対策カンファレンス報告 7. 同意書の承認について	

第9回	令和5年12月28日(木)
1. アクシデント報告事例検討 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 11月分死亡患者カルテ確認結果報告 5. QCサークル活動について 6. 医療安全対策地域連携加算相互ラウンドについて	
第10回	令和6年1月25日(木)
1. 医療安全管理委員会規定について 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 12月分死亡患者カルテ確認結果報告 5. QCサークル活動報告発表会評価結果	
第11回	令和6年2月26日(月)
1. アクシデント事例検討 2. 化学療法委員会よりICI投与歴有りの患者カルテにアイコン表示について 3. 医療安全管理マニュアル修正について 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 1月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第12回	令和6年3月29日(金)
1. アクシデント事例検討 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 2月分死亡患者カルテ確認結果報告 5. リハビリテーション医療の説明・同意書の作成状況について	

23. 医療事故調査委員会

令和5年度開催なし

24. 医療安全推進委員会

目 的	医療事故防止対策の検討及び推進を図る。
委 員 長	市川 剛(脳神経外科部長兼救急科部長)
副委員長	奈良輪弘美(看護師長 医療安全管理者)
推進委員	車田 真美、武田 里美、本田 祐子、萩原 暁美、川村 早苗、海藤 隆紀 藤橋 伸宏、佐藤美千子、菊池 利恵、橋本 健一、阿部 育子
研 修 医	野地 幸次、濱名 正美、奈良輪大輔、安田美喜子 (4月～9月)赤沼 桃、荒 郁弥、森岡 誠史 (10月～3月)田沼 靖裕、西間木隆平、五十嵐菜央
第1回	令和5年4月21日(金)
1. 医療安全推進委員会メンバーについて 2. 3月の医療安全管理委員会報告 3. 令和4年度ヒヤリハット・アクシデント報告 4. ワーキンググループ活動計画	
第2回	令和5年5月19日(金)
1. 4月の医療安全管理委員会報告 2. 院内BLS研修のお知らせ 3. QCサークル活動について 4. ワーキンググループ活動	
第3回	令和5年6月16日(金)
1. 5月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第4回	令和5年7月21日(金)
1. 6月の医療安全管理委員会報告 2. 特殊な患者の取り扱い患者の画面表示 3. 医療安全研修について 4. ワーキンググループ活動	

第5回	令和5年8月18日(金)
1. 7月の医療安全管理委員会報告 2. CT被曝に関する説明について 3. 第1回医療安全研修について 4. 令和5年度QCサークル活動について 5. 非常時トイレ・シャワー室鍵解除について 6. 赤十字病院「医療安全情報・知恵の輪」掲示について 7. ワーキンググループ報告	
第6回	令和5年9月15日(金)
1. 8月の医療安全管理委員会報告 2. 令和5年度病院立ち入り検査 保健所 3. ワーキンググループ活動報告 4. ワーキンググループ活動	
第7回	令和5年10月20日(金)
1. 9月の医療安全管理委員会報告 2. 第2回医療安全研修について 3. 東北ブロック医療安全推進者担当研修について 4. 令和5年7月～9月までのヒヤリ・ハット・アクシデント報告 5. 医療安全推進週間ポスター表示について 6. ワーキンググループ活動	
第8回	令和5年11月17日(金)
1. 10月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第9回	令和5年12月15日(金)
1. 11月の医療安全管理委員会報告 2. 第2回医療安全研修報告 3. ワーキンググループ活動	
第10回	令和6年1月19日(金)
1. 12月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第11回	令和6年2月16日(金)
1. 1月の医療安全管理委員会報告 2. 令和5年度QCサークル活動評価結果 3. 医療安全地域連携加算相互ラウンド 4. ワーキンググループ活動	
第12回	令和6年3月15日(金)
1. 2月の医療安全管理委員会報告 2. 化学療法委員会よりICI投与歴有りの患者カルテにアイコン表示について 3. 医療安全管理マニュアルの変更について 4. 令和5年度ワーキンググループ活動報告	

25. 院内感染対策委員会	
目 的	院内における微生物の感染を積極的に防止し、院内衛生管理の万全を期す。
委 員 長	鈴木 恭一
副委員長	管野 隆三
第1回	令和5年4月11日
1. 3月分データ報告 2. 3月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ① 県高齢者施設等職員抗原キット活用について ② 今年度感染管理カンファレンス・研修会予定	

第2回	令和5年5月9日
1. 4月分データ報告 2. 4月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ①委員会資料ペーパーレス化について	
第3回	令和5年6月13日
1. 5月分データ報告 2. 5月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・令和5年度第1回感染対策向上加算合同カンファレンス参加について	
第4回	令和5年7月11日
1. 6月分データ報告 2. 6月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・感染対策マニュアル「アウトブレイク」変更について ・手指消毒ポスター変更について ・SSI評価シートについて	
第5回	令和4年8月8日
1. 7月分データ報告 2. 7月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・カテーテル関連尿路感染サーベイランス結果について	

第6回	令和5年9月12日
1. 8月分データ報告 2. 8月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・ 6A病棟感染対策マニュアル一部変更について ・ 感染対策向上加算相互評価について	
第7回	令和5年10月10日
1. 9月分データ報告 2. 9月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・ 感染対策向上加算相互評価について ・ 消化器内科医師より要望について ・ インフルエンザワクチン納入数について	
第8回	令和5年11月14日
1. 10月分データ報告 2. 10月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・ 10月27日感染対策向上加算相互評価について ・ 11月24日感染対策向上加算第3回地域連携カンファレンス開催予定	
第9回	令和5年12月12日
1. 11月分データ報告 2. 11月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・ 休日夜間結核患者発生届マニュアルについて	

第10回	令和6年1月9日
1. 12月分データ報告 2. 12月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・「咽頭結膜炎」感染対策マニュアル追加について	
第11回	令和6年2月13日
1. 1月分データ報告 2. 1月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・2023年度北海道東北ブロック「日本赤十字社 感染管理ネットワーク研修」について ・ノンアルコール手指消毒剤申請について	
第12回	令和6年3月12日
1. 2月分データ報告 2. 2月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・第4回感染対策向上加算カンファレンス開催について	

26. 医療従事者負担軽減対策委員会	
目 的	医療従事者の負担軽減及び処遇改善に係る計画の策定と実行、評価。
委 員 長	鈴木 恭一(院長)
副委員長	阪本 貴之(循環器内科部長 兼 医局長)
第1回	令和5年7月20日(木)
1. 医療従事者の負担軽減及び処遇改善計画 令和4年度目標の達成状況 令和5年度目標 2. 令和5年度委員会委員	
第2回	令和5年12月7日(木)
1. 医療従事者の負担軽減及び処遇改善計画 令和5年度目標の達成状況	



4. 診療に関する委員会

27. クリニカルパス委員会	
目 的	良質な医療を提供するため各部門参画によるチーム医療の推進を図る。
委 員 長	阪本 貴之(医局長 兼 循環器内科部長)
副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 医療情報部門責任者)
第1回	令和5年5月29日
・今年度委員の紹介 ・看護部パス部会について ・電子パスの進捗について ・パスの運用について ・アウトカムの量的監査について	
第2回	令和5年11月2日
・新規パスの承認 ・旧版の電子パスの有効期限について ・医療者用の紙パスの削除について	

28. 輸血療法委員会	
目 的	輸血療法の適応、血液製剤の保管管理、使用状況、適正使用の徹底及び輸血療法に伴う事故や副作用・合併症対策について検討し、適正な輸血療法を推進する。
委 員 長	遠藤 豪一(外科部主任部長)
副委員長	出羽 明子(副院長 兼 麻酔科部長)
第1回	令和5年5月31日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(3月、4月分) 2. 令和4年度集計報告	
第2回	令和5年7月26日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(5月、6月分) 2. アルブミン使用量と輸血適正使用加算について	
第3回	令和5年9月27日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(7月、8月分) 2. アルブミン使用について	
第4回	令和5年11月29日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(9月、10月分) 2. カリウム吸着フィルター導入の検討 3. 輸血研修会について 4. 輸血前の主治医への連絡(輸血前ダブルチェックの見直し)について	
第5回	令和6年1月31日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(11月、12月分) 2. 血液製剤依頼オーダー重複対策について 3. カリウム吸着フィルター導入について 4. 輸血研修会報告および今後の開催方法、内容について	
第6回	令和6年3月27日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(1月、2月分) 2. 「血液製剤保管管理マニュアル」一部改訂について 3. 輸血実施時の生理食塩液注射オーダー入力について	

29. 臨床検査適正化委員会	
目 的	この臨床適正化委員会は福島赤十字病院臨床検査の管理、運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、管理運営に万全を期するため、院内各部局と連携を密にし、もって当院の発展に寄与する事を目的とする。
委 員 長 副委員長	田崎 和洋(検査部長) 黒田 聖仁(消化器内科部主任部長)
第1回	令和5年4月20日(木)
1. 令和4年度日本医師会臨床検査精度管理調査結果報告。 2. その他。 化学療法とステロイド治療の患者対象とした電子カルテによる感染症表示について。	
第2回	令和5年12月20日(水)
1. 令和5年度福島県臨床検査精度管理調査結果報告。 2. その他 ・腫瘍マーカーの変動について ・ β D-グルカンについて	

30. 診療情報管理委員会	
目 的	本院における診療情報の適正な保管・管理を図るとともに、診療・調査研究等に対し有効に活用できることを定める。
委 員 長 副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 医療情報部門責任者) 渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長)
第1回	令和5年4月13日(木)
<協議事項> 1. 診療記録の質的監査の実施について ①入院診療録の質的監査について <報告事項> 1. 診療記録の質的監査の結果(報告)について ①診療記録等の監査結果 ②診療記録等の内部監査実施報告書 <その他> 1. 紙カルテの入院診療録廃棄について	
第2回	令和5年9月25日(月)
<協議事項> 1. 診療記録の質的監査の実施について ①診療記録等の監査項目チェックシート 2. 診療記録の量的監査の実施について ①項目チェックシート 3. 院内略語集について ①作成必要性の有無 <報告事項> 1. 外来診療録の廃棄について ①平成30年カルテ対象 <その他> 1. 特殊な患者のカルテ表記	

第3回	令和5年9月29日(金) マイページ開催
<協議事項> なし <報告事項> 1. 特殊な患者のカルテ表記『@』の変更について ①『@』が『診療拒否』に変更	
第4回	令5年12月11日(月)
<協議事項> 1. 病理組織標本ブロックの保管管理について <報告事項> 1. 読影報告を書面で患者様に提示する方法(案)について <その他> 1. 電子カルテ上の手術実施記録の概念について 2. 自由診療のカルテ記載について	
第5回	令和6年1月29日(月)
<協議事項> 1. 傷病名登録における代行承認運用について <報告事項> 1. 質的監査実施(終了)について	

31. 手術室運営委員会	
目 的	手術室の円滑な運営を図るため
委 員 長	麻酔科部長 出羽 明子
副委員長	麻酔科副部長 江花 英明 看護師長 泉 弘子
第1回	令和5年4月12日(水)
1. 手術室運営委員会の規定 2. 手術室運営委員名簿 3. 手術スケジュールについて 4. 内視鏡タワー(4K)増設について 5. その他 中材より単回使用の滅菌物ついて、用度施設課より滅菌ガウンのデモの依頼	
第2回	令和5年9月12日(火)
1. 手術室スケジュールについて(泌尿器科手術室枠、脳外科IVR対応について) 2. 手術室執刀時間について 3. 「深部静脈血栓・肺血栓予防」処置オーダーについて 4. 内視鏡タワー(4K)の運用について 5. 滅菌ガウンデモの結果報告	
第3回	令和6年3月29日
1. 令和年度手術室運営委員について(案) 2. 麻酔科医週間割り振りについて 3. 手術申し込みについて 4. 手術件数報告 5. オカレンス報告 6. 次年度からの手術室枠(水曜日の心臓血管外科枠)について、眼科手術について	

32. 救急センター運営委員会	
目 的	ERを利用する救急患者への対応に関する事項を審議し、ERにおける業務の適正かつ円滑な運営を図る
委 員 長 副委員長	市川 剛(脳神経外科部長 兼 救急科部長 兼 救急センター長) 渡邊あゆみ(看護部外来看護師長)
委員会の開催なし	

33. ハイケアユニット運営委員会	
目 的	ハイケアユニットの適正な運営を図る。
委 員 長 副委員長	江花 英朗(麻酔科部副部長) 出羽 明子(副院長 兼 麻酔科部長)
第1回	令和5年6月5日(月)
1. 今年度の役員について 2. 昨年度のHCUの入室状況・収益 3. HCUの面会について 4. その他	

34. NST委員会	
目 的	入院患者に適切かつ効果的な栄養管理を行い、治療効果の向上を図る。
委 員 長 副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 元木 良和(皮膚科部長)
第1回	令和5年4月18日(火)
1. 令和4年度NSTメンバー報告 2. Alb測定に関して 3. NST介入フローチャートの修正 4. 2023年度の委員会の開催日時について 5. その他	
第2回	令和5年5月16日(火)
1. Alb測定に関して報告 2. 医局会の資料 3. その他	
第3回	令和5年6月20日(火)
1. Alb測定、ラウンドに関して報告 2. その他	
第4回	令和5年7月18日(火)
1. ラウンドに関して報告 2. NSTラウンド曜日の変更について 3. その他	
第5回	令和5年8月22日(火)
1. ラウンドに関して報告 2. その他	
第6回	令和5年9月19日(火)
1. ラウンドに関して報告 2. NST介入拒否と判断する期間について 3. NST委員会内の勉強会について	
第7回	令和5年10月17日(火)
1. NSTフォーラムの報告 2. その他	
第8回	令和5年11月21日(火)
1. ラウンドに関して報告 2. NST委員会ページの運用について 3. NST委員会内の勉強会について 4. ラウンド記録の変更 5. その他	
第9回	令和5年12月26日(火)
1. ラウンドに関して報告 2. 症例報告 3. その他	

第10回	令和6年1月23日(火)
1. ラウンドに関して報告 2. 血中アルブミン検査の現状について 3. 食事提供量の記載について 4. NST採血セットについて 5. その他	
第11回	令和6年2月27日(火)
1. ラウンドに関して報告 2. 医局会報告資料 3. その他	
第12回	令和6年3月26日(火)
1. ラウンドに関して報告 2. ラウンドの算定について 3. その他	

35. 化学療法検討委員会

目 的	化学療法を実施するにあたって、施設・設備などのハードウェア面、医師・看護師・薬剤師などのスタッフ面、セーフティーマネジメントなどの運用面など、充足すべき課題を検討し、化学療法を安全に、安心して実施するための基本的な考え方、具体的な方法を審議する。また、外来化学療法を実施するための運用についても審議し、実施される化学療法のレジメン(治療内容)の妥当性を評価し承認する委員会を兼ねる。
委 員 長 副委員長	管野 隆三(呼吸器外科部長) 矢澤 浩之(産婦人科部長)
第1回	令和5年5月16日
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 新規、変更申請レジメンの承認 3. 指導料件数報告 4. 耳鼻科医師の退任について	
第2回	令和5年8月15日
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 新規、変更申請レジメンの承認 3. 指導料件数報告	
第3回	令和5年11月12日
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 新規、変更申請レジメンの承認 3. irAE問診票について 4. 指導料件数報告 5. がん拠点病院について	
第4回	令和5年2月20日
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 変更申請レジメンの承認 3. 制吐剤の見直し 4. irAEに対してのインフリキシマブやアクテムラの適応外使用について 5. バイオシミラーについて 6. 指導料件数報告 7. 診療報酬改定について	

36. 緩和ケア委員会

目 的	生命を脅かす疾患に直面した全ての患者とその家族に、早期より全人的苦痛に対する適切な緩和ケア提供を推進する。
委 員 長 副委員長	出羽 明子(副院長 兼 麻酔科部長) 清和 彩子(看護部6A病棟看護師長)
第1回	令和5年5月23日(火)
1. 緩和ケアマニュアルの見直し 2. 研修会の見直し 3. 終末期医療の指針作成について 4. その他	
第2回	令和5年9月19日(火)
1. 終末期医療の指針作成について 2. 緩和ケアマニュアルの見直し 3. 緩和ケアチームに関する活動報告	

第3回	令和6年2月20日(火)
1. 緩和ケアマニュアルの改訂時期について 2. 緩和ケアチームに関する活動報告について 3. その他	

37. 褥瘡対策委員会	
目 的	本院における褥瘡予防対策の確立や褥瘡治癒促進に向けて、褥瘡対策マニュアルの作成、褥瘡に関する情報の収集と共有、褥瘡対策についての教育研修の計画及び実施などを通し、褥瘡対策及び関連する事項について調査・審議する。
委 員 長 副委員長	元木 良和(皮膚科部長) 佐藤 美絵(看護部看護係長、皮膚・排泄ケア認定看護師)
第1回	4月25日(火)
1. 診療報酬関連の情報・データ報告 2. 令和4年度活動報告 3. 症例報告 4. 令和5年度活動案 5. ラウンド 6. その他：マットレス管理について	
第2回	5月23日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. その他：医療関連機器圧迫創傷対策 マットレス管理について	
第3回	6月27日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：褥瘡記録観察について 酸素経鼻カニューラについて マットレス管理について	
第4回	7月25日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：学会、セミナーの案内 マットレス管理について	
第5回	8月22日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：マットレス管理について	
第6回	9月26日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：深部静脈血栓予防機器の管理 排泄ケア動画研修 マットレス管理について	
第7回	10月24日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：テープ関連スキンテア発生について マットレス管理について	
第8回	11月28日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：褥瘡評価記録不備について 10月発生症例検討課題について マットレス管理について	

第9回	12月26日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：10月発生症例検討課題報告 今月症例検討 フットケアの必要性について マットレス管理について	
第10回	1月23日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：「排泄ケア・体位交換の時間と方法」について マットレス管理について	
第11回	2月27日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：看護部業務改善：排泄ケア・体位交換の時間と方法検討 マットレス管理について	
第12回	3月26日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：夜間の排泄ケア・体位交換見直し マットレス管理について	

38. 認知症ケア運営委員会	
目 的	認知症を有する患者ケアを行うために病棟での対応力とケアの質の向上を図る
委 員 長	山本慎之助(精神科部副部長)
副委員長	三浦 将克(看護部5B病棟看護師長)
第1回	令和5年4月6日(木)
1. 令和5年度の委員について 2. 令和5年度のアクションプラン作成に伴う意見の集約 3. ラウンド前のカンファレンス	
第2回	令和5年5月11日(木)
1. 「栄養に関するアセスメント項目」の勉強会 2. 今年度の勉強会について 3. ラウンド前のカンファレンス	
第3回	令和5年6月8日(木)
1. ラウンド前のカンファレンス	
第4回	令和5年7月6日(木)
1. 認知症ケア運営委員会規定の新規作成と委員による承認 2. 「認知症456(すごろく)」の紹介 3. ラウンド前のカンファレンス	
第5回	令和5年8月10日(木)
1. 認知症ケア加算の算定状況について 2. ラウンド前のカンファレンス	
第6回	令和5年9月7日(木)
1. ラウンド前のカンファレンス	
第7回	令和5年10月19日(木)
1. 専任常勤看護師が不在時の認知症ケアチームの業務について 2. 認知症ケア加算1の算定開始日について 3. ラウンド前のカンファレンス	

第8回	令和5年11月30日(木)
1. 「第59回日本赤十字社医学会総会」の参加報告 2. 厚生労働局による適時調査に向けての情報共有 3. ラウンド前のカンファレンス	
第9回	令和5年12月14日(木)
1. 「第20回認知症ケア専門士認定試験・第7回認知症ケア准専門士認定試験」の案内 2. ラウンド前のカンファレンス	
第10回	令和6年1月11日(木)
1. 来年度の委員の変更等の確認 2. ラウンド前のカンファレンス	
第11回	令和6年2月8日(木)
1. 令和6年度診療報酬改定に伴う「認知症ケア加算の見直し」についての説明 2. ラウンド前のカンファレンス	
第12回	令和6年3月7日(木)
1. 来年度の委員の変更について 2. 令和6年度診療報酬改定に関する追記説明 3. ラウンド前のカンファレンス	

39. 看護師特定行為管理委員会	
目 的	委員会は、保健師助産師看護師法(昭和23年法律第203号。以下「法」という)第37条の2第2項第1号の規定に基づく特定行為(以下「特定行為」という)の適正かつ安全・確実な実施を図ることを目的とする。
委 員 長 副委員長	大和田尊之(副院長兼循環器センター長) 出羽 明子(副院長兼麻酔科部長)
第1回	令和5年11月2日(木)
1. 【報告事項】 (1)活動状況の報告 (2)R6年度看護師特定行為研修生(医大)予定者1名 呼吸器関連等 (3)福島県立医科大学看護師特定講師研修指導者講習会参加 1名 10月1日 鈴木安英師長 2. 【確認・検討事項】 (1)看護師特定行為を推進するために当院で必要とされる特定行為について 補足：特定行為研修の受講にかかる負担について (2)特定行為推進の目標設定について (3)委員会統合について	

40. DPCコーディング委員会	
目 的	適切なコーディングの周知
委員長 副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 医療情報部門責任者) 酒井 亮(薬品管理係長)
第1回	令和5年5月30日(火)
コーディング委員会の目的 コーディングテキストより ■DPCの基本構造 ■適切なコーディング体制の確保 機能評価係数Ⅱ：保険診療指数の対応 DPCコーディング変更件数と増収金額	

第2回	令和5年9月27日(水)
コーディングテキストより ■DPCコーディングの基本的な考え方 適正な傷病名を付与するために何が必要か DPCコーディング変更件数と増収金額	
第3回	令和5年12月21日(木)
本社の医事業務研修会のDPCコーディングの取組で学んだことを紹介 コーディングテキストより ■副傷病名について DPCコーディング変更件数と増収金額	
第4回	令和6年2月29日(木)
コーディングテキストより ■原疾患に基づいたDPCコーディング ■事例：心不全 DPCコーディング変更件数と増収金額	



5. 教育・研究に関する委員会

41. 医師臨床研修管理委員会	
目 的	本院と臨床協力病院及び臨床研修協力施設とが共同で行う医師の臨床研修の実施を統括管理する。
委 員 長 副委員長	鈴木 恭一(院長) 出羽 明子(副院長 兼 麻酔科部長)
第 1 回	令和 5 年 7 月 5 日(水)
報告事項のみ	
第 2 回	令和 5 年 10 月 4 日(水)
1. 令和 6 年度採用初期臨床研修医の選考について	
第 3 回	令和 6 年 3 月 15 日(金)
1. 令和 4 年度採用初期臨床研修医の研修修了認定	

42. 医師臨床研修プログラム委員会	
目 的	医師の臨床研修の円滑な運営を図る。
委 員 長 副委員長	渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 臨床研修センター長) 出羽 明子(副院長 兼 麻酔科部長)
第 1 回	令和 5 年 4 月 17 日(月)
1. 2 年目 OSCE について 2. 研修医評価フィードバックとメンターについて 3. 産婦人科の分娩研修について	
第 2 回	令和 5 年 6 月 5 日(月)
報告事項のみ	
第 3 回	令和 5 年 8 月 14 日(月)
1. 令和 5 年度福島県地域医療症例検討会症例発表について 2. 今年度の研修で必要な項目について(緩和ケア、児童虐待、ACP、ゲノム医療)	
第 4 回	令和 5 年 10 月 16 日(月)
1. 指導医評価について 2. 研修未修了又は中断の場合の規約について	
第 5 回	令和 5 年 12 月 11 日(月)
1. 臨床研修管理委員会規約の見直し 2. 研修医の行う医療行為についての確認	
第 6 回	令和 6 年 2 月 5 日(月)
1. 研修医の他院研修期間について	

43. 図書委員会	
目 的	本院全体における診療その他に必要な図書の整備、購入、利用、管理等を検討するとともに、病院図書の有効利用を図る。
委 員 長 副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 阪本 貴之(循環器内科部長)
第 1 回	令和 5 年 12 月 6 日(水)
1. 今年度の図書購入実績について 2. 来年度の図書購入予定について 3. その他	



6. 労務および安全管理に関する委員会

44. 安全衛生委員会	
目 的	職員の安全衛生及び健康管理に関する事項について調査審議し、快適な職場環境を形成する。
委 員 長 副委員長	守谷 新(脳神経内科部長) 山本慎之助(精神科部副部長)
第1回	令和5年4月26日
1. 4月分労働者傷病報告 2. 暴言・暴力・セクシャルハラスメント等報告 3. 長時間労働者報告 4. 職場巡視について 5. その他 1)安全衛生委員会規程(案) 2)令和5年度安全衛生委員会名簿	
第2回	令和5年5月31日
1. 5月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者報告 3. 職場巡視について 4. その他 1)安全衛生委員会規程(案)	
第3回	令和5年7月26日
1. 6、7月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者報告 3. 職場巡視について	
第4回	令和5年8月30日
1. 8月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者報告 3. 職場巡視について 4. その他 1)事故報告書の様式変更について 2)令和4年度後期職員健診追跡調査結果報告	
第5回	令和5年9月27日
1. 9月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者報告 3. 職場巡視について 4. 作業環境測定結果報告 5. ストレスチェック実施について	
第6回	令和5年10月25日
1. 10月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者報告 3. 職場巡視について	
第7回	令和5年11月29日
1. 11月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者報告 3. 職場巡視について 4. その他 職員健康管理・フローについて ストレスチェックについて	
第8回	令和5年12月27日
1. 12月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者報告 3. 職場巡視について	
第9回	令和6年1月31日
1. 1月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者報告 3. 職場巡視について 4. 電離放射障害防止対策について	
第10回	令和6年2月28日
1. 2月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者報告 3. 職場巡視について 4. 作業環境測定結果報告	

第11回	令和6年3月27日
1. 3月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者報告 3. 職場巡視について 4. 令和6年度委員会開催予定日	

45. 医療ガス安全管理委員会	
目 的	医療ガスに関わる安全管理・安全使用の推進を図る
委員長 副委員長	管野 隆三(呼吸器外科部長 兼 感染管理室長) 出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長)
第1回	令和6年3月12日 *オンライン(マイページ)開催
1. 委員会名簿変更について 2. 医療ガス設備保守点検結果報告 3. 医療ガス研修会開催について 4. その他	

VI

研究発表

1. 学会・研究会・研修会

1. 診療科部

所属名	発表者名	期間	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
リウマチ・膠原病内科	松岡 直紀	4月23日 ～ 4月25日	福岡県	第67回日本リウマチ学会総会・学術集会	関節リウマチに特発性多中心性Castleman病を合併した1例
リウマチ・膠原病内科	宮田 昌之	4月20日	福島市	RA Expert Forum	関節リウマチ治療におけるJAK阻害剤の適正使用
泌尿器科	片岡 政雄	4月19日 ～ 4月22日	神戸市	第110回日本泌尿器科学会総会	Elucidation of urinary incontinence mechanism after robot-assisted radical prostatectomy focusing on the sling mechanism by the levator ani muscle
リウマチ・膠原病内科	宮田 昌之	4月22日 ～ 4月25日	福岡市	第67回日本リウマチ学会総会・学術集会	メトトレキサート(MTX)による慢性の肝障害の治療法についてー血小板減少に対するJAK阻害薬の有用性についての検討
循環器内科	渡部 研一	5月17日	福島市	循環器フォーラムin福島	福島県内の心血管系イベント発生状況と当科の脂質管理状況
脳神経内科	中村耕一郎	5月22日	福島市	中村耕一郎先生 社外講師勉強会	パーキンソン病の診断と治療
心臓血管外科	籠島 彰人	6月1日 ～ 6月2日	東京都	第51回日本血管外科学会学術総会	急性B型大動脈解離保存加療2日後に動脈硬化性急性心筋梗塞を生じた一例
麻酔科	晴山 到	6月1日 ～ 6月3日	神戸市	第70回日本麻酔科学会学術集会	大腿骨頸部骨折患者における脊髄くも膜下麻酔時の側臥位の向きと痛みの関係ーランダム化非劣性試験ー
外科	遠藤 豪一	5月27日	いわき市	第9回日本臨床外科学会福島県支部学術集会	増大傾向を示し手術施行した脾SANT(sclerosing angiomatoid nodular transformation)の一例
臨床研修センター	森岡 誠史	5月27日	いわき市	第9回日本臨床外科学会福島県支部学術集会	増大傾向を示し手術施行した脾SANT(sclerosing angiomatoid nodular transformation)の一例
脳神経内科	守谷 新	6月16日 ～ 6月17日	仙台市	第229回日本内科学会東北地方会	他人の手徴候と感覚性運動失調をきたした右頭頂葉梗塞の1例
臨床研修センター	舟木 美海	6月16日 ～ 6月17日	仙台市	第229回日本内科学会東北地方会	他人の手徴候と感覚性運動失調をきたした右頭頂葉梗塞の1例
産婦人科	矢澤 里穂	6月16日 ～ 6月18日	秋田市	第153回東北連合産科婦人科学会総会・学術講演会	大量の腹水を呈し悪性腫瘍との鑑別を要し腹腔鏡手術で治療し得た良性卵巣甲状腺腫の1例
脳神経内科	守谷 新	7月28日	福島市	MS Clinical Conference in FUKUSHIMA	多発性硬化症の1例
外科	山内 直人	7月11日 ～ 7月12日	函館市	第78回日本消化器外科学会総会	ステージⅠ～Ⅲ～胃癌患者の術後補助化学療法の実証・未完遂が全生存期間へ与える影響の検討
外科	川又 崇弘	7月12日 ～ 7月13日	函館市	第78回日本消化器外科学会総会	結腸癌手術の術後在院日数短縮の戦略

所属名	発表者名	期間	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
外科	大須賀文彦	7月13日 ～ 7月14日	函館市	第78回日本消化器外科学会総会	非還納性単径ヘルニアの手術待機中に門脈血栓症を発症した1例
消化器内科	亀岡 英介	7月7日 ～ 7月8日	盛岡市	第170回日本消化器内視鏡学会東北支部例会	局所再発との鑑別診断に苦慮した直腸癌術後吻合部のimplantation cystの1例
泌尿器科	滝浪瑠璃子	9月6日 ～ 9月8日	千葉市	第30回日本排尿機能学会	前立腺増殖初期段階における前立腺組織内細菌の同定と前立腺肥大症発症機序の解明
泌尿器科	片岡 政雄	9月7日 ～ 9月9日	千葉市	第30回日本排尿機能学会	ロボット支援前立腺全摘出時の高周波電流による術後尿失禁メカニズムの解明
産婦人科	矢澤 里穂	9月23日 ～ 9月24日	弘前市	第70回北日本産科婦人科学会総会・学術講演会	当院での子宮腫瘍症例の術前MRI画像評価についての検討～子宮肉腫を見逃さないために～
臨床研修センター	田母神千沙江	12月7日 ～ 12月10日	宮崎市	第45回日本臨床麻酔学会	広範な虚血性皮膚潰瘍に対する上肢離断術後に、慢性炎症と心不全を背景とした混合型肺水腫をきたした1例
臨床研修センター	荒 郁弥	12月7日 ～ 12月10日	宮崎市	第46回日本臨床麻酔学会	直腸がん手術後の血液検査において高度の腎機能障害を呈し、経過からPseudo-renal failureが疑われた1例
心臓血管外科	籠島 彰人	10月26日 ～ 10月28日	横浜市	第64回日本脈管学会学術総会	薬剤抵抗性のBuerger病様指尖循環障害に対してFIRAPYが有効であった一例
臨床研修センター	五十嵐菜央	7月15日	福島市	令和5年度福島医大第2内科同門会学術集会	COVID-19感染を契機に抗ARS抗体陽性間質性肺炎が顕在化し急速進行性の経過を呈した1例
消化器内科	亀岡 英介	10月21日	福島市	第26回福島県超音波内視鏡研究会	術後6年目で発症しEUS-FNAで診断し得た大腸癌隣転移の1例
臨床研修センター	古田 空	10月28日	郡山市	令和5年度福島県地域医療症例検討会	意識障害と交通事故を起こした60歳女性の症例
脳神経外科	伊藤 裕平	10月27日	横浜市	日本脳神経外科学会第82回学術総会	脳神経血管内治療専門医非在籍施設における血栓回収療法の治療成績
泌尿器科	滝浪瑠璃子	10月16日	台湾	The17th Pan-Pacific Continence Society Meeting	Impact of nocturnal enuresis on QOL after robot-assisted radical prostatectomy
泌尿器科	片岡 政雄	11月11日	米子市	第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会	ロボット支援前立腺全摘出時の高周波電流による術後尿失禁メカニズムの解明、尿禁制改善を目指した再建方法
脳神経外科部	卯月 大	11月17日	名古屋市	第30回日本神経内視鏡学会	側方アプローチで神経内視鏡下腫瘍摘出術を行った第2頸神経鞘腫の1例
糖尿病・代謝内科	佐藤 義憲	11月11日	仙台市	第61回日本糖尿病学会東北地方会	治療開始2日目にNaが上昇したHHSの1例－Katzモデルによる病態解析
整形外科	村上 和也	11月29日	福島市	整形外科診療Up to Date inふくしま	骨粗鬆症と痛み
脳神経外科	伊藤 裕平	11月24日	京都市	第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会	未破裂脳動脈瘤塞栓術における高度屈曲対応型中間カテーテルの使用は術後DWI高信号病変の出現頻度を上昇させる

所属名	発表者名	期間	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
消化器内科	入江 大樹	11月4日	神戸市	JDDW2023	肝内胆管からの術後胆汁漏における内視鏡的経乳頭胆道ドレナージ術の治療成績
脳神経外科	小祝 萌	11月25日	京都市	第39回日本脳神経血管内治療学会	Double layer stentを使用した頸動脈ステント留置術中のステント閉塞に対して血栓回収が有効であった1例
循環器内科	大和田尊之	12月12日	福島市	STOP！心血管死 Seminar in Fukushima	心不全診療Up to Date～カリウム管理の話題を含めて～
循環器内科	大和田尊之	12月21日	相馬市	相双循環器カンファレンス	高齢者における心房細動と高血圧への対応
臨床研修センター	五十嵐菜央	12月2日	福島市	第177回日本循環器学会東北地方会	完全房室ブロックで入院した直後にたこつば型心筋症を併発し心不全が重症化した一例
臨床研修センター	西間木隆平	2月3日	仙台市	日本消化器病学会東北支部第216回例会	CLL と DLBCL の肝浸潤を同時に認めた回腸原発 Richter 症候群 の一例
消化器内科	亀岡 英介	2月2日	仙台市	第171回日本消化器内視鏡学会東北支部例会	術後6年目で発症しEUS-FNAで診断し得た大腸癌隣転移の1例
循環器内科	渡部 研一	2月10日	広島市	第16回植込みデバイス関連冬季大会	ペースメーカー植込み術後に抗凝固療法を契機に遅発性心嚢液貯留を来した一例
脳神経外科	卯月 大	3月9日	横浜市	STROKE2024	もやもや病に関連した非外傷性急性硬膜下血腫の1例および文献レビュー
臨床研修センター	小笠原清剛	3月9日	横浜市	STROKE2024	外側レンズ核線条体動脈末梢新生動脈瘤に対して血管内治療を行ったもやもや病の一例
臨床研修センター	田母神千沙江	3月9日	横浜市	STROKE2024	小脳出血を発症した稀な頭蓋内類血管腫型繊維製組織球腫の一例
脳神経外科	小祝 萌	3月8日	横浜市	STROKE2024	当院におけるくも膜下出血後のクラゾセプタンの使用経験
脳神経外科	小祝 萌	3月8日	横浜市	第11回日本心血管脳卒中学会	Double layer stentを使用した頸動脈ステント留置術中のステント閉塞に対して血栓回収を施行した1例
麻酔科	出羽 明子	3月12日	福島市	Live Symposium～福島緩和ケアを考える～	オピオイドはどれから始めよう？～選択のポイント～
脳神経内科	中村耕一郎	3月21日	福島市	PD Online Seminar	ディスクッサー「補助剤の使い分け」編
脳神経外科	伊藤 裕平	3月30日	福島市	第46回福島脊椎脊髄疾患研究会	頭蓋頸椎移行部硬膜動脈瘻の診断と治療
脳神経外科	卯月 大	3月23日	仙台市	第66回（一社）日本脳神経外科学会東北支部会	硬膜下血腫を発症した大脳鎌髄膜腫の一例

2. 薬剤部

所属名	発表者名	期間	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
	緑上 淳一	5月20日	郡山市	福島県薬剤師感染制御・抗菌化学療法研究会	「ダイヤモンド・プリンセス号の救護活動報告」
	市橋 淳	6月27日	昭和村	日本赤十字社 福島支部	「正しい薬の知識」
	渡部 寿康	9月23日	福島市	制吐療法を考える会 in FUKUSHIMA	「臨床現場から制吐療法を考える」

所属名	発表者名	期間	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
	古賀 彩織	10月14日	八戸市	第24回東北ブロック赤十字病院薬剤師研修会	「福島赤十字病院における院内フォーミュラーの策定について」
	渡部 寿康	10月14日	八戸市	第24回東北ブロック赤十字病院薬剤師研修会	「診療報酬関連の薬剤部での取り組み」
	渡部 寿康	11月3日	仙台市	第33回日本医療薬学会年会	「PBPMを用いた薬剤師による化学療法施行患者に対する肝炎対策の取り組み」
	武藤 芳和	11月4日	仙台市	第33回日本医療薬学会年会	「当院における病棟配置薬(BZ系睡眠薬)の見直し」
	緑上 淳一	11月9日	京都市	第59回日本赤十字社医学会総会	「J-SIPHEを活用したタゾバクタム／ピペラシリンの適正使用に向けた取り組み」

3. 医療技術部

所属名	発表者名	期間	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
栄養課	小河原貴之	4月21日	福島市	県北病院給食研究会総会	栄養ケアプロセスの導入
臨床工学技術課	早坂美智子	10月28日	仙台市	第13回日本赤十字社臨床工学士会東北ブロック研修会	シンポジウム1 臨床工学士における経営改善のための戦略
臨床工学技術課	佐久山 歩	10月29日	仙台市	第13回日本赤十字社臨床工学士会東北ブロック研修会	シンポジウム2 インシデント報告と対応
栄養課	菊地 利恵	6月24日	伊達市	伊達西地区健康講座	ホームドクターの健康講和～健康と栄養
臨床工学技術課	早坂美智子	3月14日	ZOOM	福島県臨床工学士会スキルアップセミナー	当院の心臓ペースメーカー植込み業務について

4. 看護部

所属名	発表者名	期間	学会名、研究・研修会名	演題名
看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師	佐藤 美絵	2023年 7月9日	日本創傷・オストミー・失禁管理学会	「COVID-19専用病棟における間接的介入での創傷対応」
看護部 認定看護管理者	車田 真美	2023年 7月29日 ～ 30日	日本赤十字看護学会学術集会	「尊厳ある看護の実践に向けて身体拘束ゼロに向けた多職種連携での取り組み」
HCU病棟 集中ケア認定看護師	鈴木 安英	2023年 7月29日 ～ 30日	日本赤十字看護学会学術集会	「人工呼吸器関連肺炎予防に向けた取り組み」
外来 がん化学療法認定看護師	野地 静香	2023年 7月29日 ～ 30日	日本赤十字看護学会学術集会	「外来化学療法室での患者栄養指導につなげる取り組み管理栄養士とのタスクシェアでがん患者の食を支援する」
6 A 病棟	清和 彩子	2023年 8月5日	福島県緩和医療研究会	「エンドオブライフを考える研究会の開催グループウェアを活用した事例検討会の活動報告」
外来 緩和ケア認定看護師	新國 智子	2023年 8月29日	緩和ケアフォーラム in Fukushima	「当施設での緩和ケアの取り組み」
5 A 病棟	武井 明美	2023年 11月9日	日本赤十字医学会総会	「看護補助者との連携・協働に向けた取り組み カンファレンスの活用を通して」
5 A 病棟 認知症看護認定看護師	佐川奈美子	2023年 11月9日	日本赤十字医学会総会	「身体拘束をしない看護に向けて 倫理カンファレンス内容の見直し」

所属名	発表者名	期間	学会名、研究・研修会名	演題名
外来	森田 直子	2023年 11月23日	日本脳神経血管内治療学会	「脳血管内治療における全身麻酔管理の変更 血管撮影室看護師の立場から」
手術室	本田 祐子	2023年 11月23日	日本脳神経血管内治療学会	「脳血管内治療における全身麻酔管理の変更 手術室看護師の立場から」

5. 検査部

所属名	発表者名	期間	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
	小林 利美	11月5日	福島市	第11回日臨技北日本支部医学検査学会	福島赤十字病院採血室のあゆみ
	中田 悠希	11月5日	福島市	第11回日臨技北日本支部医学検査学会	虫垂粘液嚢腫の1例

6. 事務部

所属名	発表者名	期間	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
経営企画課	金子 瑛	11月8日 ～ 10日	京都市	第59回日本赤十字社医学会総会	私と医療経営士
総務課	佐久間惟代	11月8日 ～ 10日	京都市	第59回日本赤十字社医学会総会	新入職員へのOff-JT導入による業務改善の効果と今年度の取り組みについて
医療情報システム課	奈良輪大輔	11月8日 ～ 11月10日	京都市	第59回日本赤十字社医学会総会	電子カルテシステム更新におけるハード費用圧縮の試み～再利用と保守見直し～
医療情報システム課	横山 剛	11月8日 ～ 11月10日	京都市	第59回日本赤十字社医学会総会	複合機とプリンターのランニングコスト削減施策－元CEによる経営効果－
医事課	阿部 育子	11月8日 ～ 11月10日	京都市	第59回日本赤十字社医学会総会	患者様の”連帯保証人”を立てる”負担軽減のために行った取り組み
医事課	三浦 有樹	2月22日 ～ 2月24日	京都市	第29回日本災害医学会総会・学術集会	多用途可変域型IoT (DR-IoT) の災害医療分野における活用検討
医事課	三浦 有樹	2月22日 ～ 2月24日	京都市	第29回日本災害医学会総会・学術集会	IT技術を活用し問題解決ができるスキルを持つ災害医療ロジスティクスが必要である

7. 医療安全推進室

所属名	発表者名	期間	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
	奈良輪弘美	5月30日	郡山市	令和5年度看護職の再就業支援研修	医療事故防止、医療安全に関する基礎知識について
	奈良輪弘美	6月13日	福島市	令和5年度看護職の再就業支援研修	医療事故防止、医療安全に関する基礎知識について
	奈良輪弘美	2月8日	福島市	令和5年度第2回医療安全対策研修会	医療安全対策の取り組みについて

8. 地域医療連携室

所属名	発表者名	期間	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
	菅野 直樹	11月8日 ～ 11月10日	京都市	第59回日本赤十字社医学会総会	認知症高齢者の虐待対応に関する意識調査－長期ビジョンとの関連を踏まえて－

2. 論文発表

診療科	著者	論文名	誌名・巻(号)・ページ
糖尿病・代謝内科	佐藤 宏樹、佐藤 義憲	「乳酸アシドーシスを併発し極度のインスリン分泌低下をきたしたがその後回復した2型糖尿病の1例」	糖尿病 67 : 64-68, 2024
脳神経外科	Kiyotaka Ogasawara, Yuhei Ito, Tsuyoshi Ichikawa, Kyouichi Suzuki.	Interhemispheric Acute Subdural Hematoma Secondary to Falx Meningioma	A Case Report, Cureus 16 (2) : e54886.
産婦人科	Riho Yazawa, Hiroyuki Yazawa, Kaoru Fukuda, Miki Ohara and Fumihiko Osuka	Four cases of pseudomyxoma peritonei with ovarian tumors at our hospital	Fukushima J. Med. Sci., Vol. 69, No. 1, 2023
泌尿器科	Masao Kataoka, Satoru Meguro, Ryo Tanji, Akifumi Onagi, Kanako Matsuoka, Ruriko Honda-Takinami, Seiji Hoshi, Junya Hata, Yuichi Sato, Hidenori Akaihata, Soichiro Ogawa, Motohide Uemura, Yoshiyuki Kojima	Role of puboperinealis and rectourethralis muscles as a urethral support system to maintain urinary continence after robot-assisted radical prostatectomy.	Scientific Report. 2023 Aug 29 ; 13(1) : 14126.
産婦人科	Riho Yazawa, Hiroyuki Yazawa, Kaoru Fukuda, Miki Ohara	Struma ovarii with massive ascites mimicking ovarian carcinoma treated with conservative laparoscopic surgery: a case report	Fukushima J. Med. Sci., Vol. 69, No. 1, 2023

福島赤十字病院
令和 5 年度 病院年報

通算第13号

令和 7 年 3 月発行

編集◎福島赤十字病院 事務部経営企画課

発行◎福島赤十字病院

〒960-8530 福島県福島市八島町 7 - 7

TEL 024-534-6101(代表) FAX 024-531-1721

<https://www.fukushima-med-jrc.jp/>

copyright©JAPANESE RED CROSS FUKUSHIMA HOSPITAL All rights reserved.



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.